

第7部 資料

XIII章 教員個人別データ：履歴・研究活動・社会活動等

第XIII章では、経営学研究科所属教員（社会人教員を含む）について、その学歴・職歴や、研究活動・学会活動・社会活動などを示した個人別データを掲載している。

なお、この「教員個人別データ」については、2009（平成21）年12月1日時点のものを、以下に示す経営学研究科の教員一覧表の順に掲載している。

表XIII-1 経営学研究科教員一覧表（2009（平成21）年12月1日現在）

	職名	漢字氏名	ヨミガナ		職名	漢字氏名	ヨミガナ
1	教授	加護野 忠男	カゴノ タダオ	31	教授	砂川 伸幸	イカガワ ノブユキ
2	教授	坂下 昭宣	サカタ アキノブ	32	教授	得津 一郎	トクヅ イチロウ
3	教授	高尾 厚	タカオ ヒロシ	33	教授	三矢 裕	ミヤ ヒロシ
4	教授	出井 文男	デイ フミオ	34	教授	音川 和久	オトガワ カズヒサ
5	教授	中野 常男	ナカノ ツネオ	35	教授	松尾 睦	マツオ マコト
6	教授	櫻井 久勝	サクライ ヒサカツ	36	准教授	久本 久男	ヒサモト ヒサオ
7	教授	丸山 雅祥	マルヤマ マサヨシ	37	准教授	鈴木 一水	スズキ カズミ
8	教授	加登 豊	カト ユカ	38	准教授	村上 英樹	ムラカミ ヒデキ
9	教授	金井 壽宏	カイ シュウロウ	39	准教授	清水 泰洋	シミズ テイロウ
10	教授	古賀 智敏	コガチ トシ	40	准教授	栗木 契	クリキ ケイ
11	教授	桑原 哲也	クワハラ テツヤ	41	准教授	松尾 貴巳	マツオ タカミ
12	教授	正司 健一	ショウジケンイチ	42	准教授	宮原 泰之	ミヤハラ ヤスキ
13	教授	後藤 雅敏	ゴトウ マサトシ	43	准教授	與三野 禎倫	ヨサノ タダノリ
14	教授	高嶋 克義	タカシマ カツシ	44	准教授	畠田 敬	ハタタケ タカシ
15	教授	水谷 文俊	ミズタニ フミトシ	45	准教授	鈴木 竜太	スズキ リュウタ
16	教授	國部 克彦	クニベ カツヒコ	46	准教授	松嶋 登	マツシマ ノボル
17	教授	藤原 賢哉	フジワラ ケンヤ	47	准教授	三古 展弘	サンコ ノブヒロ
18	教授	小川 進	オガワ スム	48	准教授	馬 岩	マ イシ
19	教授	黄 磷	ワウ リン	49	准教授	梶原 武久	カヅワラ タケヒサ
20	教授	松尾 博文	マツオ ヒロフミ	50	准教授	山崎 尚志	ヤマザキ タカシ
21	教授	三品 和広	ミナト カズヒロ	51	准教授	堀口 真司	ホリグチ シンジ
22	教授	原 拓志	ハラ タクジ	52	准教授	島田 智明	シマダ トモアキ
23	教授	南 知恵子	ミナミ チエコ	53	准教授	高田 知実	タカタ トモミ
24	教授	上林 憲雄	カバヤシ ノリオ	54	准教授	平野 恭平	ヒラノ キョウヘイ
25	教授	原田 勉	ハラタケ ツトム	55	准教授	北川 教央	キタガワ ノリオ
26	教授	忽那 憲治	クツナ ケンジ	56	准教授	内田 浩史	ウチダ ヒロフミ
27	教授	末廣 英生	スエヒロ ヒデオ	57	准教授	松井 建二	マツイ ケンジ
28	教授	平野 光俊	ヒラノ ミツトシ	58	講師	波田 芳治	ハタ ヨシハル
29	教授	古澄 英男	コズメ ヒデオ	59	講師	中井 正敏	ナカイ マサトシ
30	教授	高橋 潔	タカハシ キヨシ				

自己評価・外部評価報告書の「教員個人別データ」の記入について

この自己評価・外部評価報告書に掲載されている教員個人別データは、必要な項目が織り込まれ、かつ見やすくするように、見開きページに収まるように、「データシート」の雛形に作成されたものである。自己評価ワーキンググループで項目を選定し記入例を記載した「データシート」の雛形を作成したうえで、経営学研究科の全教員に対して、その雛形を参考にして該当する項目の記入を行うように依頼した。全体の統一性を保つために、自己評価ワーキンググループメンバーが記入のフォーマットについて最小限の修正を加えている以外は、この「教員個人別データ」は各教員の自己申告にもとづいて作成されている。なお、この方式は、これまでのやり方を踏襲したものである。

主要な掲載項目は、以下の11項目である。

1. 個人情報

- (1) 職名（社会人教員の場合は、職名の後に（社会人教員）と記している。）
- (2) 学位（学士、修士、博士、複数の博士相当学位がある場合は併記している。取得年も記載している。）
- (3) 学歴（学部、大学院修士課程（または博士課程前期課程）、大学院博士課程（または博士課程後期課程）を区別して記している。）
- (4) 職歴（神戸大学および前職での職歴を記している。昇進時期と職名も記している。兼任・兼担がある場合もそのことを明記の上、記載している。（ただし、非常勤講師歴は除く））
- (5) 2007（平成19）年度から2009（平成21）年度の担当科目を、学部と大学院（一般、MBA）別に記している。
- (6) 学内主要役職（学長、副学長、研究科長、学部長、評議員、夜間学部主事、専攻長（学科長）など）に従事した場合に記している。）

2. 国内出版（著書、レフェリー付雑誌、その他論文を区別する。）

3. 海外出版（著書、レフェリー付雑誌、その他論文を区別する。）

※国内出版、海外出版に関する注

- (1) 出版物は、2009（平成21）年11月30日までに刊行されたものを対象とする。ただし、レフェリー付雑誌に掲載予定のもので、掲載号が決定しているものに関しては、2009（平成21）年度中に刊行が確実なものを含めている。
- (2) 海外出版、国内出版とは公に刊行された著書、論文を指す。著書の欄に入れるものは、単著、共著、編著書、編書である。科研・審議会の報告書等は含まない。審議会の報告書等は、社会活動のうち対応する項に入れる。
- (3) 単なる書物の分担執筆は著書ではなく、その他論文に入れる。翻訳、書評、辞典項目なども入れる場合は、その他論文に分類する。
- (4) レフェリー付論文とは、当該論文がレフェリーによって査読され掲載承認が得られたことが客観的に明確な論文を指す。たとえば、レフェリー付雑誌であっても特集号等招待論文はこの範疇に含

めない。

(5) 共著者がある場合は、名前を表記する。

4. 主要所属学会
5. 学会における活動（役職名称等を記述する。雑誌編集委員，レフェリー，学会賞審査委員等についても記述する。）
6. 学会賞等の受賞歴
7. 主な研究助成金（研究責任者となっている文部科学省科学研究費補助金やその他機関からの研究助成状況を示し，助成機関と期間は必ず記している。研究課題がわかっている場合はそれも明示している。）
なお，科学研究費の交付状況については，別途 [資料Ⅲ-1] にその詳細を示しているので，併せて参照されたい。
8. 海外研究教育活動（海外の大学に正式に所属した場合のみを記し，所属のタイトル，訪問研究員（Visiting Scholar, Visiting Fellow），客員教授（Visiting Professor）も示している。なお，短期の調査研究や学会報告などは含めていない。）
9. 国際学会での発表状況（過去3年間のものを掲載している。）
10. 現在の研究活動（現在取り組んでいる研究に関する概要を記述する。）
11. 社会活動（国・地方公共団体・公的団体の審議会や委員会の委員，他大学の非常勤講師等，企業等の役員兼業の経験など），および実務経験（企業での実務経験を具体的に記述する。）

※社会活動に関する注

- (1) 「社会活動・実務経験」の欄では，社会人教員の場合は特に詳しく記すよう依頼している。プロフェッショナルとしての職名（たとえば，営業部長，支店長など），期間，主な業務内容，主要案件名（もし記入が可能であれば）等を明確に記すようにし，コンサルティングなどを実務経験として大いにカウントできると判断できればそれも記して良いものとしている。
- (2) 「社会活動・実務経験」には，「社会活動」として，国・地方公共団体の審議会・委員会，企業等の役員兼業，マスコミへの発信（テレビやラジオへの出演），経済団体へのコミットメント（たとえば，「21世紀を考える関西経済連合会審議委員」）などを含めている。他大学での非常勤講師に関してもこの欄に記載している。また，国家試験委員（公表可のもの）や，市町村史の編纂，都市区画整理事業の地区アドバイザーなどもこの欄に含めている。

（文責：金井壽宏）

かごのただお
1. 加護野忠男

職名 教授

学位 経営学博士(神戸大学)(1989年)

生年 1947年

学歴

1970年3月 神戸大学経営学部卒業

1972年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程
修了

1973年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
退学

職歴

1973年4月 神戸大学経営学部助手

1975年4月 神戸大学経営学部講師

1979年4月 神戸大学経営学部助教授

1988年11月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 経営学入門, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 演習

大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学部夜間学部主事(1993年4月-1994年3月)

神戸大学評議員(1995年6月-1997年5月)

経営学部経営学科長(1997年4月-1998年3月)

経営学部長(1998年4月-2000年3月)

経営学研究科長(1998年4月-2000年3月)

経営学研究科現代経営学専攻長(2008年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『J.P コッター ビジネス・リーダー論』, ダイ
ヤモンド社, 2009年, (金井壽宏他と共訳).

- 『経営者の品格—今こそ問われるリーダーの
人間力!』, プレジデント・クラシックス, 2009
年, (城山三郎他と共著).
- 『取引制度から読み解く現代企業』, 有斐閣ア
ルマ, 2008年, (山田幸三他と共編著).
- 『新入社員に贈る一冊』, 日本経団連出版, 2007
年.
- 『経営に大義あり: 日本を創った企業家たち』,
日本経済新聞社, 2006年.
(他60編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「本社の付加価値 (特集 事業評価と事業統治)」,
『組織科学』, Vol.40, No.2, 2006年, 4-14, (上
野恭裕・吉村典久と共著).
(他2編)

3. その他国内論文

- 「先が見えない時代、正しい結論を導く5つの
カギ」, 『プレジデント』, 2009年, 20-21.
- 「日立にみる「完全子会社化戦略」の落とし穴」,
『プレジデント』, 2009年, 20-21.
- 「09年株主総会から考える「株主主権」の是非」,
『プレジデント』, 2009年, 18-19.
- 「経営品質賞受賞組織から学ぶ」, 『KPCNEWS』,
Vol.37, No.430, 2009年, 11.
- 「会計基準の国際化とその影響を考える」, 『企
業会計』, Vol.61, No.7, 2009年, 954-957.
(他学術論文178編, 解説・書評等多数)

【2】 海外出版

1. 著書

- Tajna Uspeha Japanskih Kompanija*, IQ Media &
HAT/Beograd, 1994, (co-authored with Kansai
Productivity Center).
- Innovation and Management: International
Comparisons, De Gruyter Studies in Organization
Series*, vol.13, de Gruyter, 1988, (co-authored with
K. Urabe and J. Child).
- Strategic vs. Evolutionary Management: A
U.S.-Japan Comparison of Strategy and
Organization*, 1985, (co-authored with I. Nonaka,
A.Okumura, and K. Sakakibara).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Externalization of Organizations, in A. Sinatra (ed.), *Corporate Transformation*, Kluwer Academic, 1997, 261-299, (co-authored with N. Yoshimura).
2. Matsushita Electric Industrial, in A. Sinatra (ed.), *Corporate Transformation*, Kluwer Academic, 1997, 301-322.
3. Robust Companies: Organizational Explanations for Sustained Success, in A. Sinatra (ed.), *Corporate Transformation*, Kluwer Academic, 1997, 461-486, (co-authored with A. Bhambri, Anil K. Gupta).
4. The Provision of Resources and Barriers to Exit, in K. Imai and R. Komiya (eds.), *Business Enterprise in Japan: Views of Leading Japanese Economists*, Translation edited and introduced by R. Dore and H. Whittaker, MIT Press, 1994, 89-115, (co-authored with T. Kobayashi).

(他学術論文 4 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本経営学会
2. 組織学会
3. Strategic Management Society
4. 企業家研究フォーラム
5. 経営学史学会
6. コーポレート・ガバナンスフォーラム
7. 日本ナレッジ・マネジメント学会
8. 日本ベンチャー学会
9. ファミリービジネス学会

【4】 学会における活動

1. 会長：組織学会(2005年-現在)
2. 理事：日本経営学会(1989-1995年), コーポレート・ガバナンスフォーラム(1994-2009年), 日本ナレッジ・マネジメント学会(1998-2007年), 日本ベンチャー学会(1997-2008年)
3. 副会長：企業家研究フォーラム(2002-2009年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 組織学会賞(1985年)
2. 日経・経済図書文化賞(1981年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(A), 「医療経営のマネジメントに関する研究」, 2008年-現在
2. バンドー化学：「バンドー化学寄付金」, 2007年・2008年
3. 文部科学省 21世紀 COE プログラム研究拠点形成費補助金：「先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点」, 2003-2007年

【7】 海外における研究・教育活動

1. VisitingScholar: Harvard Business School, 1979-1980
(その他多数)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 日本の会社制度, 経営戦略, 経営組織について総合的に研究している。
2. 「企業のビジネス・システム」: 変化の激しい現代の経営環境の中で, 企業の戦略や組織, そして事業の仕組み(ビジネス・システム)がどう変容し, 新しい事業の仕組みがどう生み出されているのかについて研究している。同時に近年急激に進むIT化が, 既存の事業の仕組みにどのような利益をもたらし, どのような弊害をもたらすのかについても注目している。
3. コーポレート・ガバナンスについても「株主の責任」という視点から研究している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 関西生産性本部理事(2006年-現在)
2. 関西社会経済研究所 諮問会議委員・企画運営委員(2008年-現在)
3. ひょうご経済研究所理事(2002年-現在)
(その他多数)

2. 坂下昭宣

職名 教授

学位 経営学博士(神戸大学)(1988年)

生年 1946年

学歴

1970年3月 神戸大学経営学部卒業
 1973年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程
 修了
 1975年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
 退学

職歴

1970年4月 (株)日立製作所入社
 1975年4月 岡山大学法文学部講師
 1979年4月 岡山大学法文学部助教授
 1980年4月 岡山大学経済学部助教授
 1988年4月 岡山大学経済学部教授
 1989年10月 神戸大学経営学部教授
 1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 経営学基礎論
 大学院 (一般) 演習, 経営管理特論, 経営学基礎研
 究, 定性的方法論研究
 大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学部夜間学部主事(1997年4月-1998年3月)
 経営学部経営学科長(1998年4月-1999年3月)
 経営学部経営学科長(2001年4月-2002年3月)
 神戸大学評議員(2002年4月-2004年3月)

【1】国内出版

1. 著書

1. 『経営学への招待(第3版)』, 白桃書房, 2007

年.

2. 『日本企業の戦略インフラの変貌』 白桃書房, 2004年, (加護野忠男, 井上達彦と共編著).
3. 『組織シンボリズム論: 論点と方法』, 白桃書房, 2002年.
4. 『経営学への招待(改訂版)』, 白桃書房, 2000年.
5. 『経営学大辞典(第2版)』, 中央経済社, 1999年, (奥林康司, 宗像正幸と共同編集代表).
6. 『日本的経営の本流』, PHP 研究所, 1997年, (編著).
7. 『人を動かす』, PHP 研究所, 1995年.
8. 『組織行動研究』, 白桃書房, 1985年.
9. 『組織現象の理論と測定』, 千倉書房, 1978年, (野中郁次郎, 加護野忠男, 小松陽一, 奥村昭博と共著).
10. 『経営管理入門』, 有斐閣, 1978年, (西田耕三, 野中郁次郎と共著).
11. 『近代組織論(II)』, 白桃書房, 1975年, (占部都美と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「組織研究の方法と基本仮定—経営学との関連で—」, 『現代経営学の新潮流—方法, CSR, HRM, NPO—』(経営学史学会), 第15巻, 2008年, 14-29.
2. 「経営組織論の不連続的展開—組織構造論から組織文化論へ—」, 『国民経済雑誌』第193巻, 第4号, 2006年, 1-15.
3. 「組織文化論の社会学的基盤」, 『経営学論集』(日本経営学会), 第174巻, 2004年, 184-185.
4. 「エスノグラフィー・ケーススタディ・サーベイリサーチ」, 『国民経済雑誌』, 第190巻, 第2号, 2004年, 19-30.
5. 「組織論の展開過程」, 『商学論究』(関西学院大学大学院商学研究科), 第51巻, 第4号, 2004年, 43-56.
6. 「「意味の組織論」としての組織シンボリズム論」, 『組織科学』, 第37巻, 第2号, 2003年, 39-48.
7. 「組織文化はマネジメント可能か」, 『国民経済雑誌』, 第186巻, 第6号, 2002年, 17-28.

8. 「機能主義的組織シンボリズム論の形成と展開」, 『神戸大学大学院経営学研究科研究年報』, 第47巻, 2001年, 71-151.
 9. 「二つの組織文化論:機能主義と解釈主義」, 『国民経済雑誌』, 第184巻, 第6号, 2001年, 15-31.
 10. 「組織シンボリズム論の論点と方法」, 『国民経済雑誌』, 第183巻, 第4号, 2001年, 37-53.
 11. 「組織シンボリズム研究の視圏」, 『国民経済雑誌』, 第179巻, 第6号, 1999年, 33-47.
 12. 「日本的人事システムの変革と企業の戦略・組織」, 『ビジネス・インサイト』, 第6巻, 第4号, 1998年, 8-16.
 13. 「経営理念と企業行動」, 『国民経済雑誌』, 第176巻, 第3号, 1997年, 33-45.
 14. 「人を動かす二つの仕組み」, 『国民経済雑誌』, 第172巻, 第1号, 1995年, 19-33.
 15. 「創業経営者のビジョナリー・リーダーシップと組織文化」, 『岡山大学経済学会雑誌』, 第26巻, 第3・4号, 1995年, 105-119.
 16. 「仕事意欲の構造」, 堀紘一編, 『ヒューマン・リソース』, 総合法令, 1993年, 第3章, 61-100.
 17. 「組織文化とシンボリック・マネジャー」, 『国民経済雑誌』, 第165巻, 第4号, 1992年, 85-104.
- (他学術論文33編, 解説・書評等9編, 翻訳1編)

【2】海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】主要所属学会

1. 日本経営学会
2. 組織学会

【4】学会における活動

1. 理事長: 日本経営学会(2007-現在)
2. 評議員: 経営学会国際連合(IFSAM)(2007-現在)
3. 監事: 組織学会(2002-2005年)
4. 常任理事: 日本経営学会(2001-2004年)
5. 理事: 組織学会(1993-1996年)
6. 部会幹事: 日本経営学会(1990-1993年)

【5】学会賞等の受賞歴

1. 組織学会・高宮賞(1987年)

【6】主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. (財)松下社会科学振興財団・日本的経営研究助成金, 1994-1995年
2. 通商産業省・企業行動会議調査研究費, 1980年

【7】海外における研究・教育活動

1. Visiting Professor: Cranfield University, United Kingdom, 1999-2000.
2. Visiting Scholar: University of California at Berkeley, 1994-1995.

【8】国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】現在の研究活動

1. 組織シンボリズムの実証的研究
2. 社会科学方法論の研究

【10】社会活動・実務経験

1. (財)松下社会科学振興財団理事(2003年-現在)
2. (財)松下社会科学振興財団・日本的経営研究会主査(1994-1995年)
3. 非常勤講師: 岡山商科大学(1985-1989年), 岡山大学経済学部(1990-1991年), 広島大学経済学部(1984-1989年), 甲南大学経営学部(1998年-現在), 大阪経済大学経営情報学部(2002-2003年), 兵庫大学経済情報学部(2003-2004年)

たかお あつし
3. 高尾 厚

職名 教授

学位 博士(商学)(神戸大学)(1992年)

生年 1948年

学歴

1971年3月 長崎大学経済学部卒業

1974年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程
修了(経営学修士)

1977年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
単位修得退学

職歴

1972年3月 東京海上火災保険株式会社退社

1977年4月 神戸大学経営学部助手

1978年8月 神戸大学経営学部講師

1982年8月 神戸大学経営学部助教授

1991年5月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

2004年6月 滋賀大学経済学部リスク研究センター
客員教授兼任(2005年3月まで)

担当科目(2007-2009年度)

学 部 保険論, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) ファイナンス特殊研究(保険論),
保険研究, 演習

大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学部市場システム学科長(1995年4月-1997年3
月)

神戸大学評議員(1997年6月-1999年5月)

経営学部夜間学部主事(2001年4月-2002年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 高尾厚他共編著, 『保険制度の新潮流』, 千倉書

房, 2008年.

2. 高尾厚他共著, 『新・保険学』, 有斐閣, 2006年.

3. 『増補改訂・リスク学事典』 阪急コミュニケーションズ, 2006年, (盛岡通他と共編著).

4. 『現代保険学』, 有斐閣, 1998年, (近見正彦,
前川寛, 古瀬政敏, 下和田功と共著).

5. 『保険とオプション・デリバティブの一原型』,
千倉書房, 1998年.

6. 『保険文化』, 1995年, (水島一也他と共著).

7. 『保険構造論』, 千倉書房, 1991年.

8. 『現代保険学の展開』, 千倉書房, 1990年, (田
村祐一郎と共編著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「現行地震保険制度の改善に向けて」, 『日本リ
スク研究学会誌』, 第7巻, 第2号, 1996年,
52-60.

2. 「リスク回避と保険」, 『日本リスク研究学会
誌』, 第5巻, 第1号, 1992年, 96-99.
(他2編)

3. その他国内論文

1. 「On Weather Derivatives and Temperature
Swapping in Japan」, 『日本リスク学会誌』, 第17
巻第1号, 2007年3月, 123-128.

2. 「「行動保険学」再考」, 『国民経済雑誌』, 第193
巻, 第3号, 2006年3月, 1-10, (山崎尚志と共
著).

3. 「自然災害と保険」, 『学術の動向』(日本学術会
議), 第111号, 2005年6月, 36-39.

(他学術論文77編, 解説・書評18編, 翻訳10編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. 『英独仏日保険用語辞典: 追補版』, *Verlag
Versicherungswirtschaft* e.V., 1995, 1-57, (Müller
-Lutz, Hans Leo 他と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. A review and comparison of medical expenditures
models: two neural networks versus two-part models,
Journal of Risk Research, Vol. 11, Issue 8, 2008,

967-982, (co-authored with Chaohsin Lin, Shuofen Hsu).

2. An Experimental Approach to the Effectiveness of an Incentive System against Moral Hazard in the Insurance Market, *Journal of Risk Research*, Vol.3, No.1, 2001, 291-301, (co-authored with Mahito Ohkura).
3. Moderne Versicherung und Rationalistischer Geist der Neuzeit, *Zeitschrift für die Gesamte Versicherungswissenschaft*, Band 82, Heft 4, 1993, 565-581.
4. Über die Normalität des moralischen Risikos: Eine Kritik gegen die Versicherungsgemeinschaftstheorie, *Zeitschrift für die gesamte Versicherungswissenschaft*, Band 71, Heft 1, 1982, 5-25.

3. その他海外論文

1. Some Notes on the Weather Derivatives and Temperature Swap in Japan, SRA Japan and China/KOSET/SETACA/P(ed.), in Seoul, Korea, *Proceedings of International Joint Conference Risk Assessment and Management*, 2004, 105.
2. A Study on Incentive Mechanism in Insurance System by Experimental Economics, Beijing Normal University(ed.), Risk Management in Asian Perspective, *Proceedings of the 1st China-Japan Conference on Risk Assessment and Management*, International Academic Press, 1998, 503-506.

【3】 主要所属学会

1. 日本保険学会
2. 日本リスク研究学会
3. Society of Risk Research-Europa

【4】 学会における活動

1. 理事：日本保険学会(1994年-現在), 日本リスク研究学会(1992年-現在)
2. レフェリー：日本保険学会, 日本リスク研究学会, *Journal of Risk Research*, Europa

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本リスク研究学会賞(2005年)
2. 経営科学文献賞(1991年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 財団法人学術振興・澤村正鹿研究基金, 「保険デリバティブの数理構造の解析」, 2003年.
2. 文部省科学研究費補助金：基盤研究(C)(1), 「リスク対応様式と文化構造との整合性に関する学際的研究」, 1999-2000年.
3. 財団法人生命保険文化研究所特別研究助成金, 1999年.
4. 簡易保険文化財団研究助成金, 1999年.
(他 20件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Gastprofessor beim Institut für Versicherungswissenschaft an der Universität zu Köln, 7-10, 1993.
2. Alexander-von-Humboldt Stipendiat beim Institut für Versicherungswissenschaft an der Universität zu Köln, 3.1984-9.1985.
3. Gastmitarbeiter beim Seminar für Bank- und Versicherungsbetriebslehre an der Universität Hamburg, 3-12.1981.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 行動保険学にかかる理論的・実証的研究:現実の説明力に劣る伝統的保険学のパラダイムを, 行動科学の成果を導入して再構築することを試みている。

【10】 社会活動・実務経験

1. 財団法人・生命保険文化センター学術振興委員会委員(2007年-現在)
2. 社団法人・損害保険事業総合研究所評議員(2006年6月-現在)
3. 社会福祉法人・神戸海星会理事・評議員(1999年-現在)
4. 日本生命保険相互会社社員総代(1995-2003年), 現在社友
5. 東京海上火災保険(株)従業員(1971-1972年)

でいふみお
4. 出井文男

職名 教授

学位 Ph.D.(ロチェスター大学)(1985年)
博士(商学)神戸大学(1992年)

生年 1949年

学歴

1973年3月 神戸大学経営学部卒業
1975年3月 神戸大学大学院経営学研究科
修士課程修了

職歴

1975年4月 神戸大学経営学部助手
1977年4月 富山大学経済学部講師
1979年3月 富山大学経済学部助教授
1983年4月 神戸大学経営学部助教授
1992年4月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 国際貿易, 研究指導(昼間主)
大学院 (一般) 数学的方法論研究, 国際貿易研究,
演習
大学院 (MBA) なし

学内役職

神戸大学評議員(1993年6月-1995年5月)
経営学部夜間学部主事(1996年4月-1997年3月)
経営学部市場システム学科長(1998年4月-2000年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『多国籍企業と国際投資』, 東洋経済新報社,
1991年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. International Game of Domestic Competition Policies, 『経済学論究』, Vol.60, No.3, 2007年, 15-27, (矢野誠と共著).
(他学術論文17編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Product Quality, Wage Inequality, and Trade Liberalization, *Review of International Economics*, Vol. 17, Issue 2, 2009, 244-260, (co-authored with Yan Ma).
2. Network Externalities, Discrete Demand Shifts, and Submarginal-Cost Pricing, *Canadian Journal of Economics*, Vol.39, No.2, 2006, 455-476, (co-authored with Makoto Yano).
3. Network Externalities, Lexicographic Demand Shifts, and Marginal Cost Dumping, *Keio Economic Studies*, Vol.42, No.1-2, 2005, 115-130, (co-authored with Makoto Yano).
4. Trade, Vertical Production Chain, and Competition Policy, *Review of International Economics*, Vol.11, Issue 2, 2003, 237-252, (co-authored with Makoto Yano).
5. Industrialization and Expectations in a Small Open Economy, *Japanese Economic Review*, Vol.49, No.2, 1998, 108-118.
6. Human Capital Accumulation in the Middle-Income Country and World Trade, *Review of International Economics*, Vol.2, Issue 1, 1994, 1-12.
7. A Note on Multinational Corporations in a Model of Reciprocal Dumping, *Journal of International Economics*, Vol.29, No.1/2, 1990, 161-171.
8. Voluntary Export Restraints and Foreign Investment, *Journal of International Economics*, Vol.19, No.3/4, 1985, 305-312.
9. Welfare Gains from Capital Inflows under Import Quotas, *Economics Letters*, Vol.18, Nos.2-3, 1985,

237-240.

10. International Trade and Foreign Investment: A Simple Model, *Economic Inquiry*, Vol.21, No.4, 1983, 449-464, (co-authored with Ronald W. Jones).
11. Nontraded Goods and Optimal Foreign Investments, *Journal of International Economics*, Vol.9, No.4, 1979, 527-538.
12. Dynamic Gains from International Capital Movements, *Journal of International Economics*, Vol.9, No.3, 1979, 417-421.

3. その他海外論文

1. Optimal Competition Policy in a Model of Vertical Production Chain, in S. Katayama and H. W. Ursprung (eds.), *International Economic Policies in a Globalized World*, Springer, 2004, 163-175, (co-authored with Makoto Yano).
2. Multinational Corporations and Absolute Advantage: The Asymmetric Case, in R. Becker, M. Boldrin, R. Jones and W. Thomson (eds.), *General Equilibrium, Growth, and Trade II*, Academic Press, 1993, 490-506.
3. Multinational Corporations and Absolute Advantage: The Symmetric Case, in A. Takayama, M. Ohyama, and H. Ohta (eds.), *Trade, Policy, and International Adjustments*, Academic Press, 1991, 77-91.

【3】 主要所属学会

1. Western Economic Association International
2. Econometric Society
3. International Economics and Finance Society
4. 日本経済学会
5. 日本国際経済学会

【4】 学会における活動

1. 会長 : International Economics and Finance Society Japan(1995-2001 年)
2. 事務局長 : International Economics and Finance Society Japan(2004-2010 年)
3. 理事 : 日本経済学会(2002-2005 年, 2008-現在)
4. Editorial Board: Review of International Economics (1997-2006 年)

5. 編集委員会委員長 : 『国民経済雑誌』 (1999-2002 年)
6. レフェリー : American Economic Review, International Economic Review, Canadian Journal of Economics, International Journal of Economic Theory, Journal of International Economics, Review of International Economics, Journal of Development Economics, European Economic Review, Japanese Economic Review, Economic Inquiry, Review of International Economics
7. Award Committee: IEFS Japan Award

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 日本経済研究奨学財団, 「国内の市場構造や制度の貿易政策的側面に関する研究」, 2003-2004 年, (矢野誠と共同).
- (その他 3 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Professor: Simon Fraser University, Canada, 1986

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. “Quality of Labor Markets and Trade in a Developing Country”, the 2009 Pacific Rim Conference of the Western Economic Association International, Ryukoku University, March 2009,
2. “Peripheral Tasks Are Offshored”, Western Economic Association International 83rd Annual Conference, Sheraton Waikiki, July 2008.

【9】 現在の研究活動

1. IT 革命がオフショアリングに与える影響について理論的研究を行っている。

【10】 社会活動・実務経験

なし

5. 中野常男

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1993年)

生年 1951年

学歴

1973年3月 神戸大学経営学部卒業
 1975年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程
 修了
 1975年4月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
 退学

職歴

1975年5月 神戸大学経営学部助手
 1978年4月 神戸大学経営学部講師
 1981年12月 神戸大学経営学部助教授
 1993年2月 神戸大学経営学部教授
 1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 研究指導(昼間主), 簿記, 上級簿記
 大学院 (一般) 演習, 財務会計特殊研究(会計史)
 大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学部夜間学部主事(1995年4月-1996年3月)
 経営学部会計学科長(1997年4月-1999年3月)
 神戸大学評議員(1999年6月-2004年3月)
 経営学研究科長・経営学部長(2002年4月-2004年3月)
 学長補佐(2005年2月-2007年2月)
 理事・副学長(2007年2月-2009年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『複式簿記の構造と機能—過去・現在・未来—』, 同文館出版, 2007年, (清水泰洋, 高須教夫他と共編著).

2. 『20世紀におけるわが国会計学研究の軌跡』, 白桃書房, 2005年, (戸田博之, 興津裕康との共編著).
3. 『複式簿記会計原理 [第2版]』, 中央経済社, 2000年.
4. 『会計とイメージ』, 神戸大学経済経営研究所, 1998年, (山地秀俊, 高須教夫と共著).
5. 『アメリカ現代会計成立史論』, 神戸大学経済経営研究所, 1993年, (山地秀俊, 高須教夫と共著).
6. 『会計理論生成史』, 中央経済社, 1992年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「わが国における会計史研究の過去と現在—テキストマイニングによる一史論—」, 『国民経済雑誌』, 第200巻第4号, 2009年, 1-23, (橋本武久, 清水泰洋と共著).
2. 「わが国における会計史研究の軌跡—『會計』にみる会計史文献の史的分析—」, 『経営研究』(神戸大学院経営学研究科), No.55, 2009年, 1-105, (橋本武久, 清水泰洋, 桑原正行と共著).
3. 「神戸大学における評価マネジメントについて」, 『平成19年度研究開発評価シンポジウム実施報告書』文部科学省, 2008年, 21-34.
4. 「体系的勘定組織の形成と複式簿記の誕生」, 中野常男編著『複式簿記の構造と機能』, 第1部第1章, 2007年, 3-19.
5. 「複式簿記と単式簿記: 18世紀イギリスの簿記文献を中心に」, 中野常男編著『複式簿記の構造と機能』, 第3部第5章(5-1), 2007年, 177-214.
6. 「アメリカ会計学の誕生—「簿記」の理論から「会計」の理論へ—」, 戸田博之他編著, 『20世紀におけるわが国会計学研究の軌跡』, 白桃書房, 2005年, 214-247.
7. 「パートナーシップの会計と巨大株式会社企業の会計—企業形態の変遷にみるアメリカ会計史—」, 平林喜博編著, 『近代会計成立史』, 同文館出版, 2005年, 103-120.

(他を含めて論文104編, 書評・翻訳等56編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本会計史学会
2. 日本簿記学会
3. 日本会計研究学会
4. 財務会計研究学会
5. 非営利法人研究学会

【4】 学会における活動

1. 会長：日本会計史学会(2007年9月-2009年10月)
2. 副会長：日本簿記学会(1999年9月-2002年9月)
3. 理事：日本会計史学会(1997年10月-2001年10月, 2003年8月-現在), 日本簿記学会(1993年9月-1999年9月, 2002年9月-2008年8月), 財務会計研究学会(2009年10月-現在), 非営利法人研究学会(2003年10月-現在)
4. 監事：日本会計史学会(1995年11月-1997年10月, 2001年10月-2003年8月), 日本簿記学会(2008年8月-現在)
5. 学会賞審査委員：日本会計史学会(1999年7月-2001年10月, 2003年10月-現在)(うち委員長: 2007年9月-2009年10月), 日本簿記学会(2005年9月-現在)(うち委員長: 2008年8月-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本簿記学会・学会賞(2008年)
2. 日本会計研究学会・太田賞(1992年)
3. 日経・経済図書文化賞(1992年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「会計倫理に関する事件史的アプローチ—不正会計の歴史的

分析」, 2009-2011年

2. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「会計史リサーチデータベースの作成とその利用」, 2007-2008年
3. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「わが国における会計史研究の発展に関する実証研究」, 2002-2003年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of Illinois at Urbana-Champaign, 1994-1995
2. Visiting Scholar: London School of Economics and Political Science, 1984
3. Adjunct Professor: California State University at Hayward, 1980-1981

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 複式簿記の近代化, 特にイギリスとアメリカにおける近代化過程の研究
2. 会計の文化史, 特に非会計人による著書や絵画などに見出される会計の社会的イメージに関する歴史研究
3. わが国における会計史研究の展開に関するデータベースの作成と分析(共同研究)
4. 18世紀初頭の南海会社事件以降の主要な不正会計事件(経営者の不正な会計処理に起因する事件)の事例分析に基づく歴史研究(共同研究)

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師(2007-2009年度)：松山大学経営学部(会計史)(集中講義), 桃山学院大学大学院経営学研究科(簿記原理研究A・B)
2. 金融庁：公認会計士試験・第2次試験委員(2000年11月-2003年10月)
3. 国税庁：税理士試験・試験委員(2009年3月-現在)

6. 桜井久勝

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1992年)

生年 1952年

学歴

1975年3月 神戸大学経営学部卒業

1977年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

1979年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1979年4月 神戸大学経営学部助手

1981年12月 神戸大学経営学部講師

1985年4月 神戸大学経営学部助教授

1993年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 上級簿記, 上級会計学, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 財務会計特論, 演習

大学院 (MBA) 財務会計応用研究, 現代経営学 演習

学内役職

経営学部会計学科長(1995年4月-1997年3月)

経営学部夜間学部主事(1999年4月-2000年3月)

神戸大学評議員(2002年4月-2004年3月)

経営学研究科長・学部長(2004年4月-2006年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『財務会計講義』, 中央経済社, 初版 1994年,
第10版 2009年.

2. 『財務諸表分析』, 中央経済社, 初版 1996年,
第3版 2007年.

3. 『会計学入門』, 日本経済新聞社, 初版 1996年,
第3版 2006年.

4. 『テキスト国際会計基準』, 白桃書房, 初版 2001
年, 第4版 2009年, (編著).

5. 『財務会計・入門』, 有斐閣, 初版 1998年, 第
6版, 2009年.

6. 『会計利益情報の有用性』, 千倉書房, 1991年.
(他10冊)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「会計の国際的統合と概念フレームワーク」,
『企業会計』, 61巻2号, 2009年, 18-25.

2. 「会計利益情報の品質」, 『会計基準』, 22号,
2008年, 96-99.

3. 「連結会計基準の国際化をめぐる論点」, 『企業
会計』, 60巻1号, 2008年, 65-72.

4. 「概念フレームワークのコンバージェンス」,
『企業会計』, 59巻1号, 2007年, 78-85.

5. 「包括利益の報告と企業評価」, 『JICPA ジャー
ナル』, 第18巻, 第8号, 2006年, 80-86.

6. 「新資本制度下の財務諸表分析」, 『企業会計』,
第57巻, 第9号, 2005年, 45-48.

7. 「知的財産の価値評価と開示」, 『会計』, 第165
巻, 第2号, 2004年, 27-41.

8. 「会計情報の質の変化」, 『企業会計』, 第55巻,
第9号, 2003年, 25-31.

9. 「経済産業省のブランド価値評価モデル」, 『国
民経済雑誌』, 第186巻, 第5号, 2002年, 1-16.

10. 「発生主義利益の存在意義と資産評価基準」,
『会計プロGRESS』, 第1号, 2000年, 72-81.

11. 「投資意思決定有用性の連単比較」, 『企業会計』,
第51巻, 第12号, 1999年, 24-30.

12. 「資産・負債の時価評価額と株価形成」, 『会計』,
第153巻, 第2号, 1998年, 29-43.

13. 「連結財務諸表の情報提供機能と利害調整機
能」, 『会計』, 第151巻, 第4号, 1997年, 29-41.

14. 「土地・証券の未実現損益と株価形成」, 『JICPA
ジャーナル』, 第8巻, 第11号, 1996年, 66-71.

15. 「減価償却方法の変更と株価形成」, 『JICPA
ジャーナル』, 第3巻, 第2号, 1991年, 17-21.

16. 「会計利益と株価変化の実証的関連性—東証第
一部企業 1977-88年—」, 『国民経済雑誌』,

第161巻, 第2号, 1990年, 69-88.

17. 「一般投資者保護とタイムリー・ディスクロージャー」, 『会計』, 第129巻, 第3号, 1986年, 49-65.

(他学術論文174編, 解説・書評等50編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Transnational Accounting*, 2nd ed., Palgrave Publishers, 2001, (edited by D. Ordelheide and KPMG), 1685-1805.
2. *The Japanese Stock Market: Pricing Systems and Accounting Information*, Praeger Publishers, 1988, (co-authored with S. Sakakibara, H. Yamaji, K. Shiroshita, and S. Fukuda), 63-92.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. A Japanese Perspective on Accounting for Goodwill and Intangibles, *Issues in Accounting Education*, Vol.11, No.2, 1996, 483-486, 499.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本監査研究学会
3. 国際会計研究学会
4. 日本簿記学会

【4】 学会における活動

1. 評議員: 日本会計研究学会(1997年-現在)
2. 理事: 日本会計研究学会(2003-2008年), 日本監査研究学会(1995-2003年, 2009年-現在), 国際会計研究学会(2005年-現在)
3. 編集委員: 会計プロGRESS
4. レフェリー: *Journal of International Accounting* (2001年-現在)
5. 学会賞審査委員: 日本会計研究学会(2000-2006年), 国際会計研究学会(2005-2008年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日経・経済図書文化賞(1991年)
2. 日本会計研究学会・太田賞(1991年)
3. 日本会計研究学会・学会賞(1987年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費: 基盤研究(A), 「会計情報を活用した企業評価に関する総合的研究」, 2007-2009年.
2. 科学研究費: 基盤研究(C)(2), 「企業価値評価モデルに適合した会計情報の公開制度に関する実証研究」, 2003-2005年
3. 科学研究費: 基盤研究(C)(2), 「資産・負債の時価評価額と未実現損益が株価形成に及ぼす影響に関する実証研究」, 1997-1999年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar :University of California, Berkeley, 1983, 1988, 1995.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「財務会計基準の研究」: 退職給付会計, 税効果会計, 金融商品会計, キャッシュ・フロー計算書, 外貨換算会計, ブランド会計などの新しい会計基準の基礎概念, 具体的会計処理, 財務諸表への影響, 国際的動向に関する研究
2. 「会計情報に基づく企業評価の実証研究」: 利益業績と株価変動, 決算発表への市場反応, リスク評価, 倒産予測, 企業価値推定など, 財務諸表分析を基礎とした企業評価の実証研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 公認会計士・監査審査会委員(2007年-現在)
2. 国税庁税務大学校客員教授(2001年-現在)
3. 企業会計基準委員会の専門委員会委員(2008年-現在)
4. 非常勤講師(2006年度): 甲南大学会計大学院
5. カリキュラム委員会委員, 試験委員会委員:(社)日本証券アナリスト協会(1991年-現在)
6. 公認会計士として実務従事(1977-1979年)

まるやままさよし

7. 丸山雅祥

職名 教授

学位 博士(商学)(神戸大学)(1992年)

生年 1951年

学歴

1974年3月 和歌山大学経済学部卒業
1976年3月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了
1979年3月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位修得退学

職歴

1979年4月 日本学術振興会奨励研究員(一橋大学)
1980年4月 岡山大学経済学部講師
1984年4月 岡山大学経済学部助教授
1989年4月 神戸大学経営学部助教授
1993年4月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 市場システム基礎論, 研究指導(昼間主)
大学院 (一般) 演習, 市場システム基礎研究
大学院 (MBA) ビジネスエコノミクス応用研究

学内役職

経営学部市場システム学科長(1997年4月-1998年3月)
経営学部夜間学部主事(1998年4月-1999年3月)
神戸大学評議員(1999年6月-2002年3月)
経営学部市場システム学科長(2002年4月-2003年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『経営の経済学』, 有斐閣, 2005年.
- 『現代のミクロ経済学』, 創文社, 1997年,

(成生達彦と共著).

- 『日本市場の競争構造』, 創文社, 1992年.
- 『流通の経済分析』, 創文社, 1988年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「流通チャネルの選択と製品競争」, 『流通研究』, 第3巻, 第1号, 2000年, 1-21.

3. その他国内論文

- 「移行経済諸国の流通革命に関する実証研究」, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第2号, 2008年, 21-35.

(他, 論文104編, 書評3編, 辞典3編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Commitment to a Strategy of Uniform Pricing in a Two-Period Duopoly with Switching Costs, *Journal of Economics (Zeitschrift für Nationalökonomie)*, Vol.98, No.1, 2009, 45-66, (co-authored with Yuncheol Jeong).
- Vertical Integration, Bundled Discounts and Welfare, *Information Economics and Policy*, Vol.21, No.1, 2009, 62-71, (co-authored with Kazumitsu Minamikawa).
- High Shopping Frequency of Vietnamese Consumers: Theory and Measurement, *Applied Economics Letters*, Vol.16, Issue 4, 2009, 411-415, (co-authored with Le Viet Trung).
- Strategic Choice of Price Policy under Exogenous Switching Costs, *Economics Bulletin*, Vol.12, No.26, 2008, 1-8, (co-authored with Yuncheol Jeong).
- The Evolution of Fresh Produce Supply Chain: From Spot Transactions to Contracts, *International Review of Retail, Distribution and Consumer Research*, Vol. 17, No.4, 2007, 359-376, (co-authored with Mitsunori Hirogaki).
- Supermarkets in Vietnam: Opportunities and

Obstacles”, *Asian Economic Journal*, Vol.21, No.1, 2007, 19-46, (co-authored with Le Viet Trung).

(他, 論文 3 編)

3. その他海外論文

1. The Japanese Distribution Channels, *The Japanese Economy*, Vol.32, No.3, 2004, 27-48.
2. Japanese Wholesale Distribution: Its Features and Future, in M. R. Czinkota and M. Kotabe (eds.), *Japanese Distribution Strategy*, Business Press, 2000, 19-32.
3. Is the Japanese Distribution System Really Inefficient?, in P. Krugman (ed.), *Trade with Japan*, The University of Chicago Press, 1991, 149-173, (co-authored with Takatoshi Ito).

(他学術論文 24 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本商業学会
3. Australian & New Zealand Marketing Academy
4. East Asian Economic Association
5. European Association for Research in Industrial Economics
6. European Marketing Academy

【4】 学会における活動

1. 理事：日本商業学会(1994-1998 年)
2. 幹事：日本商業学会(1989-1994 年)
3. 監事：日本経済学会(2008 年-現在)
4. 編集委員：流通研究(1998-2006 年)
5. 学会賞審査委員：日本商業学会(1996-2000 年)
6. レフェリー：流通研究, 経済研究, 日本経済研究, *Journal of Economics*, *Applied Economics*, *Australasian Marketing Journal*, *Journal of Retailing and Consumer Services*, *Journal of the Japanese and International Economics*, *Japanese Economic Review* 他

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日経・経済図書文化賞(1993 年)
2. 日本商業学会・優秀賞(1993 年)
3. 日本商業学会・奨励賞(1989 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(A), 「アジア流通革命の基本構造－消費者行動調査をベースとした理論的・実証的研究」, 2008-2011 年(他, 文部省科学研究費：研究代表者分 9 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of Edinburgh, Department of Business Studies, U.K., 2001.
2. Visiting Scholar: OECD Economic Department, Paris, France, 1997.
3. Visiting Fellow: University of Edinburgh, Department of Business Studies, UK., 1992-1993.
4. Consultant: OECD Economic Department, Paris, France, 1991-1992.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Platforms Strategy of the Japanese Video Game Software 1984-1994: Theory and Evidence, (with Kenichi Ohkita), 35th Annual Conference of the European Association for Research in Industrial Economics, Toulouse 4-6 September, 2008.
2. The Revolution of Distribution Systems in Transition Economies: Empirical Analysis of Consumer Behavior in Hanoi, Vietnam, (with Le Viet Trung), 37th European Marketing Academy Conference, Brighton 27-30 May, 2008.(他 13 件)

【9】 現在の研究活動

1. 「アジア流通革命の基本構造－消費者行動調査をベースとした理論的・実証的研究」
2. 「補完製品の取引構造と競争に関する理論的・実証的研究」

【10】 社会活動・実務経歴

1. 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(2005-2007 年)
2. 大蔵省財政金融研究所専門委員(1999-2000 年)
3. 経済審議会専門委員(1994-1995 年)
4. 経済企画庁物価局専門委員(1993-1995 年)
5. 通産省産業構造審議会専門委員(1993-1995 年)
6. OECD Economic Department Consultant (1991-1992 年)
7. 通産省産業構造審議会専門委員(1990-1991 年)

8. 加登 豊

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1991年)

生年 1953年

学歴

1976年3月 神戸大学経営学部卒業

1978年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1978年4月 大阪府立大学経済学部助手

1981年4月 大阪府立大学経済学部講師

1986年4月 大阪府立大学経済学部助教授

1988年4月 神戸大学経営学部助教授

1994年1月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 研究指導(昼間主), コスト・マネジメント,
経営学入門, 神戸大学の生い立ち

大学院 (一般) 管理会計特論, 演習

大学院 (MBA) ビジネスモデル応用研究,
現代経営学応用研究(医療マネジメント),
現代経営学応用研究(品質管理),
プロジェクト研究, 現代経営学演習

学内役職

経営学部会計学科長(1999年4月-2002年3月)

神戸大学評議員(2006年4月-2008年3月)

経営学研究科長・経営学部長(2008年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『インサイト管理会計』, 中央経済社, 2008年.
- 『インサイト原価計算』, 中央経済社, 2008年.
- 『管理会計入門』, 日本経済新聞社, 1999年.

4. 『原価企画: 戦略的コストマネジメント』, 日本経済新聞社, 1993年.

5. 『管理会計研究の系譜』, 税務経理協会, 1989年.

(他3編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「わが国の管理会計研究論文におけるサーベイ研究の特徴と諸問題」, 『管理会計学』, 第16巻, 第1号, 2008年, 3-18, (大浦啓輔・新井康平と共著).

2. 「わが国の経営企画部の実態調査」, 『原価計算研究』, 第31巻, 第1号, 2007年, 52-62, (大浦啓輔・石川潔・新井康平と共著).

(他5編)

3. その他国内論文

1. 「日本企業の品質管理問題と人づくりシステム」, 青島矢一編著『人を育てるシステムの変容: 「失われた10年」における錯誤と迷走』, 第4章, 2008年.

2. 「現代管理会計研究の方法論上の特徴と諸問題—Zimmerman 論争をめぐる—」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第2号, 2007年, 1-18.

3. 「日本的品質管理を鍛える: 「失われた10年」からの教訓」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第52巻, 第3号, 2004年, 52-63.

(他論文9編, 書評8編, 翻訳2編, 辞典項目執筆45項目)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The Design and Effects of Control Systems: Tests of Direct-and Indirect-Effects Models, *Accounting, Organizations and Society*, Vol.25, No.2, 2000, 185-202, (co-authored with M. D. Shields and F. J. Deng).

2. The Use of Organizational Controls and Their Effectiveness on Data Manipulation and

Management Myopia, *Accounting, Organizations and Society*, Vol.21, No.2/3, 1996, 175-192,
(co-authored with C. W. Chow and K. Merchant).

(他4編)

3. その他海外論文

1. Target Costing in Japan, in K. Dellmann and K. P. Franz (eds.), *Neuere Entwicklungen im Kostenmanagement*, Verlag Paul Haupt, 1994, 191-222, (co-authored with Takeyuki Tani).

(他2編)

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. 日本品質管理学会
3. 日本会計研究学会
4. 日本原価計算研究学会
5. 日本管理会計学会
6. 日本ベンチャー学会

【4】 学会における活動

1. 会長：日本原価計算研究学会(2006-2009年)
副会長：関西ベンチャー学会(2003-2005年), 日本管理会計学会(2005-2007年)
常任理事：日本原価計算研究学会(2003-2006, 2009年-現在), 関西ベンチャー学会(2001-2008年)
理事：日本管理会計学会(1994-2005年, 2008年-現在), 日本ベンチャー学会(1998-2009年), 関西ベンチャー学会(2005-2008年)
評議員：日本会計研究学会(2009年-現在)
2. 雑誌編集員：Management Accounting Research (1995-Present), International Journal of Strategic Cost Management (1997-2004), Journal of Accounting and Organizational Change (2006-Present), 原価計算研究(1998年-現在), 管理会計学(2003-2008年).
3. レフェリー：The Accounting Review, Management Accounting Research, 組織科学, 原価計算研究, 管理会計学, 経済科学(名古屋大学), 国民経済雑誌, ビジネス・インサイト, ベンチャーズレビュー, 品質管理, 一橋ビジネスレビュー
4. 学会賞審査委員：日本管理会計研究学会(審査委員長)(2006-2008年), 日本原価計算研究学会(1998-2004年, 2006-2009年), American Accounting Association(1998年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本原価計算研究学会・学会賞(著作賞)(1998年)
2. 日本原価計算研究学会・学会賞(論文賞)(1995年)
3. 日本会計研究学会・太田賞(1992年)
4. 経営科学文献賞(1991年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 日本学術振興会社会科学・人文科学研究推進プロジェクト, 「失われた10年の克服—日本の社会システムの再構築(日本の品質管理の検証)」, 2005-2008年
2. 文部省科学研究費：基盤研究(A)(2), 「管理会計における非財務情報の活用」, 2002-2005年
(その他16件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Senior Academic Fellow (Academic Visitor): School of Accounting and Finance, London School of Economics and Political Science, 9-11, 2002
2. Visiting Researcher: Graduate School of Business Administration, University of Colorado at Boulder, U. S. A., 1996, 2000-2001
(他学会報告・研究調査のための海外渡航多数)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「日本的品質管理システムの検証」: 昨今急速に増加している品質管理問題の原因究明を行い, 品質立国の地位に返り咲くための実践的研究活動を行っている。
2. 「組織間コストマネジメント・システム」: 製品開発マネジメントの分野について, 組織をまたがるコストマネジメントの有効性を検討している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 公認会計士試験問題作成委員(2005-2008年)
2. ㈱セキュアヴェイル社外監査役(2004-2008年)
(他多数)

9. 金井壽宏

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1992年)
Ph.D.(マサチューセッツ工科大学)(1990年)

生年 1954年

学歴

1978年3月 京都大学教育学部卒業
1980年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1980年4月 神戸大学経営学部助手
1983年4月 神戸大学経営学部講師
1987年12月 神戸大学経営学部助教授
1994年4月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 経営管理, 経営学入門
大学院 (一般) 定性的方法論研究, 経営管理研究,
演習
大学院 (MBA) 組織行動応用研究,
現代経営学応用研究(コーチング),
プロジェクト研究, 現代経営学演習

学内役職

経営学部経営学科長(1999年4月-2000年3月)
経営学部経営学科長(2002年4月-2003年3月)
経営学研究科マネジメント・システム専攻長
(2002年4月-2003年3月)
神戸大学評議員(2004年4月-2006年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『危機の時代の「やる気」学』, ソフトバンク・クリエイティブ, 2009年.
- 『語りと騙りー羅生門的現実と人間のリスク

ンシビリティ』, ナカニシヤ出版, 2009年, (高井俊次, 中西真知子, 森岡正芳と共著).

- 『過剰管理の処方箋』, かんき出版, 2009年, (岸良裕司と共著).
 - 『やる気! 攻略本』, 有斐閣, 2008年.
 - 『リーダーシップの旅-見えないものを見る』, 光文社新書, 2007年, (野田智義と共著).
 - 『実践と成長のリーダーシップ』, 産業能率大学, 2007年.
 - 『サーバント・リーダーシップ入門』, かんき出版, 2007年, (池田守男と共著).
 - 『時代を拓く キャリア開発とキャリア・カウンセラー-内的キャリアの意味』, 日本キャリア・カウンセリング研究会, 2007年, (E.H. シャイン他と共著).
 - 『働くみんなのモチベーション論』, NTT出版, 2006年.
 - 『リーダーシップ入門』, 日本経済新聞社, 2005年.
 - 『組織行動の考え方』, 東洋経済新報社, 2004年, (高橋潔と共著).
- (他9冊)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「個人と組織のかかわり合いとキャリア発達」, 『日本労働研究雑誌』, 第455号, 1998年, 13-25, (鈴木竜太, 松岡久美と共著).
- 「ピア・ディスカッションを通じての『気づき』の共有」, 『組織科学』, 第23巻, 第2号, 1989年, 80-90.
- 「ミドル・マネジャーにとってのメンタリング」, 『一橋ビジネス・レビュー』, 第44巻, 第2号, 1989年, 50-78.
- 「リーダーシップの代替物」, 『組織科学』, 第15巻, 第3号, 1981年, 44-55.

3. その他国内論文

- 「実践的持論の言語化が促進するリーダーシップ共有の連鎖」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第6号, 2009年, 1-29.
- 「リーダーシップ論 7つの扉」, 『Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー』, 第33巻第2号, 2008年, 38-52.
- 「組織理論における感情の意義」, 『組織科学』, 第41巻, 2008年, 4-14, (高橋潔との共著).

- 日向野幹也, アラン・バード, 立教大学リーダーシップ研究所編『入門ビジネス・リーダーシップ』, 日本評論社, 2007年, 3-45.
- 「活私開公型のキャリア発達とリーダーシップ開発」, 山脇直司・金泰昌編, 『公共哲学』, 第18巻, 東京大学出版会, 2006年, 261-301.
(他学術論文 90 編, 解説・書評等 46 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Entrepreneurial Networks Across Oceans to Promote International Strategic Alliances for Small Businesses, *Journal of Business Venturing*, Vol.9, No.6, 1994, 489-507, (co-authored with George Hara).

3. その他海外論文

- Entrepreneurial Networking Organizations: Cases, Taxonomy, and Paradoxes, in W. Mark Fruin (ed.), *Networks, Markets, and the Pacific Rim*, Oxford University Press, 1998, 53-78.

【3】 主要所属学会

- 組織学会
- 経営行動科学学会
- 産業・組織心理学会
- 日本経営学会
- Academy of Management

【4】 学会における活動

- 会長：経営行動科学学会(2000-2002年)
- 常任理事：産業・組織心理学会(1998-2003年), 組織学会(1995-2005年)
理事：組織学会(2005-2007年)
- 学会誌編集：組織科学編集副委員長(1996-2002), 同誌 SE(シニア・エディター)(2008年), 一橋ビジネスレビュー(1997年-現在)

- レフェリー：Organization Science, 組織科学, 経営行動科学, ビジネス・インサイト
- 学会賞審査委員：経営行動科学学会(2002年-現在), 組織学会(2009-2010年)

【5】 学会賞等の受賞歴

- 経営科学文献賞(1993年)
- 組織学会・高宮賞(著書部門)(1992年)
- 日経・経済図書文化賞(1992年)
- 組織学会・高宮賞(論文部門)(1988年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

- 文部省科学研究費：基盤研究(A), 「再復興期に国家レベルの競争力を高める企業のコア人材の体系的な育成に関する国際比較」, 2005-2007年.

【7】 海外における研究・教育活動

- Visiting Professor: COR (Center for Organizational Research), London Business School, 1994-1995.
- Visiting researcher and Ph.D. candidate: Massachusetts Institute of Technology, 1984-1987.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

- “Symposium organized and presented on Top athletes' transition to new career horizons”, the 29th International Congress of Psychology, July 2008, Berlin(co-chaired by Kiyoshi Takahashi).

【9】 現在の研究活動

- リーダーシップ開発の持論アプローチ
- モチベーションの自己調整と持論アプローチ
- 選抜型での次期経営者育成モデルの開発
- ミドルのキャリア発達課題としての世代継承性
- サーバント・リーダーとしての人事部

【10】 社会活動・実務経験

- 日本生命評議員(2005年-現在)
- 日本CHO協会 アドバイザー(2005年-現在)

こがちとし
10. 古賀智敏

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1991年)

生年 1947年

学歴

1971年3月 山口大学経済学部卒業
1973年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程修了
1974年7月 ミシガン州立大学経営大学院経営学修士課程退学
1976年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程退学
1976年8月 イリノイ大学経営大学院修士課程修了

職歴

1976年9月 日商岩井アメリカ(株)入社
1979年9月 クーパーズ・ライブランド会計事務所入社
1980年11月 アーサー・ヤング会計事務所入社
1982年4月 龍谷大学経営学部助手
1983年4月 龍谷大学経営学部講師
1986年4月 龍谷大学経営学部助教授
1993年4月 龍谷大学経営学部教授
1994年4月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 研究指導(昼間主), 国際会計,
大学院 (一般) 演習, 会計制度特論, 国際会計研究,
大学院 (MBA) 現代経営学演習, 会計制度応用研究

学内役職

神戸大学評議員(2004年4月-2006年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『財務会計のイノベーション』, 中央経済社, 2009年, (編著).
- 『知的資産の会計』, 東洋経済新報社, 2005年.
- 『ファイナンス型会計の探究』, 中央経済社, 2003年, (編著).
- 『会計基準のグローバル化戦略』, 森山書店, 2002年, (五十嵐則夫と共著).
- 『価値創造の会計学』, 税務経理協会, 2000年.
- 『デリバティブ会計』, 森山書店, 1996年, (同第2版1999年).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「知的資産情報と投資意思決定有用性ー『ファンドマネジャー』対『ベンチャーキャピタル』, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第5号, 2008年, 1-13, (榊原茂樹, 姚俊と共著).
- 「金融商品と公正価値会計ー『原則主義』対『細則主義』の視点からー, 『国際会計研究学会 年報』, 2007年度学会誌, 111-121.
- 「会計基準グローバル化の認識基点ー会計基準グローバル化に向けての同化と分化ー, 『産業経理』, 第67巻, 第2号, 2007年, 13-21.
- 「会計理論の変容と経済的実質主義」, 『會計』, 第172巻, 第3号, 2007年, 1-14.

【2】 海外出版

1. 著書

- Japan GAAP Guide*, CCH Asia Pte Limited, A Wolters Kluwer Company, 2006.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- The Japanese government's intellectual Capital reporting guideline – What are the challenges for firms and capital market agents? , *Journal of Intellectual Capital*, Special Edition, 2006, 474-491, (co-authored with U.Johanson, M.Skoog, and J.Henningsson).
- International Harmonisation and the Japanese Accounting System, *Asian Review of Accounting*,

Vol.9, No.2, 2001, 99-116, (co-authored with K. Houghton and A. Tran).

3. その他海外論文

1. Accounting harmonisation and Diffusion of International Accounting Standards: The Japanese Case, in J. Godfrey and K. Chalmers (eds.), *Globalisation of Accounting Standards*, Edward Elgar, 2008, 218-237, (co-author with G.Rimmel).
2. Accountants' Services on Prospective Financial Information, *The CPA Journal*, Vol.59, No.10, 1989, 42-49, (co-authored with Jack C. Robertson).

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 国際会計研究学会
3. 日本監査研究学会
4. 日本簿記学会
5. 税務会計研究学会

【4】 学会における活動

1. 理事：国際研究学会(2008年-現在), 日本簿記学会(2005年-現在), 日本会計研究学会(2003-2009年), 税務会計研究学会(2003年-現在)
2. 評議員：日本会計研究学会(2000年-現在)
3. 審査委員：日本会計研究学会学会賞および太田・黒澤賞審査委員(2003-2009年), 国際会計研究学会学会賞審査委員(2008年-現在)
4. Editorial Board Member：The International Journal of Accounting (2002-2007年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本会計研究学会・太田・黒澤賞(1996年9月)
2. 日本公認会計士協会・学術賞(1991年7月)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(A)(1), 「知的財産の戦略的利用と会計・監査・課税に関する総合研究」, 2003-2005年
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(A)(1), 「各国におけるデリバティブの会計・監査および課税制度に関する総合研究」, 2000-2002年

3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「財務報告の経済的実質主義に関する学際的総合研究」, 2009-2011年

【7】 海外における研究・教育活動

1. 社会人大学院集中講義：チュラロンコン大学, タイ国, 2002年11月
2. Visiting Scholar：Department of Business Administration, School of Economics and Commercial Law, Goteborg University, Sweden, 2002.8-2002.9
3. Visiting Scholar：Department of Accounting and Finance, School of Commerce, Australian National University, 1998.4-1998.9

【8】 国際会議での発表状況(過去3年間)

1. “Japanese Financial Institutions (JFIs) and their use of company intangibles information in corporate investment decisions-Ba, SECI, Kata and JFIs as knowledge creating firms”, *3rd Workshop on Visualising, Measuring and Managing Intangibles and Intellectual Capital/2ND Workshop on Visualising, Measuring and Managing Intangibles and Intellectual Capital*, October 2007, Ferrara, Italia(jointly presented with Holland J・Henningsson J・Johanson U・Koga C・Sakakibara S).

【9】 現在の研究活動

1. 知的資産の戦略的マネジメントと新規事業創造に関する研究
2. 会計基準の導入と企業行動に関する総合研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 大学評価・学位授与機構大学評価委員会評価員(2003-2004年, 同分科会委員 2009-2010年)
2. 科学研究費委員会専門委員(2002-2003年, 2005-2006年)
3. 通商産業省中小企業庁・中小企業の会計に関する委員会委員(2002年), 同中小企業政策審議会臨時委員(2005-2006年), 同産業構造審議会・知的資産経営小委員会委員(2008年)

くわはらてつや
11. 桑原哲也

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1993年)

生年 1947年

学歴

1969年3月 長崎大学経済学部卒業

1970年3月 長崎大学専攻科経理経営専攻修了

1972年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程修了

1976年12月 シラキュース大学(Syracuse University)経営学大学院修士課程修了

1978年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程単位修得退学

職歴

1976年9月 京都産業大学経営学部講師

1981年4月 京都産業大学経営学部助教授

1988年4月 京都産業大学経営学部教授

1995年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 国際経営, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 経営制度特論, 定性的方法論研究, 経営史特殊研究, 国際経営研究, 演習

大学院 (MBA) 国際経営応用研究

学内役職

経営学部国際経営環境学科長(1997年4月-1998年3月)

経営学部経営学科長(2000年4月-2001年3月)

経営学研究科マネジメント・システム専攻長(2004年4月-2005年3月)

神戸大学評議員(2006年4月-2008年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『企業国際化の史的分析—戦前における日本紡績企業の中国投資—』, 森山書店, 1990年.
(他1篇)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「日本紡績業の寡占体制の形成と後発紡績企業の成長戦略—内外綿会社—」, 『経営史学』, 第18巻, 第4号, 1984年, 64-92.

3. その他国内論文

1. 「多国籍企業の現地経営と駐在員政策—高度成長期の日本におけるネスレー」『国民経済雑誌』, 第199巻第4号, 2009年4月, 15-39.

2. 「多国籍企業の対日投資と製品ライフサイクル—J.P.コーツ, 1907~1973年—」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第2号, 2008年, 1-19.

3. 「日本市場へ後発的に参入した多国籍企業の経験—ユニリーバ, 1964-2000年—」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第1号, 2007年, 69-90.

4. 「日本企業の国際経営に関する歴史的考察—両大戦間期、中国における内外綿会社—」, 『日本労働研究雑誌』, No.262, 2007年, 17-29.

5. 「第2次世界大戦後の多国籍企業の対日進出と組織能力形成」, 『経営史学』, 第40巻, 第3号, 2005年, 44-52.

6. 「多国籍企業の対日進出と組織能力の構築—高度成長期, ゼネラル・フーズの流通チャネル政策を中心として—」, 『国民経済雑誌』, 第192巻, 第4号, 2005年, 1-23.

7. 「紡績業の発展と労務管理の革新—武藤山治と大原孫三郎—」, 佐々木聡編著『日本の企業家群像II』, 丸善書店, 2003年, 1-37.

(他, 学術論文39編, 辞典(分担執筆)1編, 書評4編, 翻訳2編, その他7編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “The Establishment of Oligopoly in the Japanese Cotton Spinning Industry and the Business Strategies of Latecomers: Case of Naigaiwata & Co.”, Keiichiro Nakagawa and Hidemasa Morikawa ed., *Japanese Yearbook on Business History*, vol.3, 1986, 103-437.

3. その他海外論文

1. “Development of Factory Management in Japan in the Early Stage of Industrialization: Kanegafuchi Cotton Spinning Company, 1900-1913”, in Douglas Farnie and David Jeremy (eds.), *The Fibre That Changed the World: The Cotton Industry in International Perspective, 1600-1990s*, Oxford University Press, 2004, 495-517.(査読あり)
2. “Local Competitiveness and Management of Japanese Cotton Spinning Mills in China in the Early Twentieth Century”, David Jeremy ed., *The Transfer of International Technology: Europe, Japan and the USA in the Twentieth Century*, Edward Elgar Publishing Ltd. January, 1992.

(他学術論文 5 編, 辞典 1 編, 書評 1 編, コメント論文 1 編)

【3】 主要所属学会

1. 経営史学会
2. 社会経済史学会
3. 日本経営学会
4. 国際ビジネス学会

【4】 学会における活動

1. 理事: 経営史学会(1994-1998 年, 2004-2008 年)
2. 監事: 経営史学会(2000-2004 年)
3. 学会賞選考委員: 国際ビジネス研究学会(2005 年), 経営史学会(1996-2000 年), 日本産業技術史学会(2009 年)
4. レフェリー: 経営史学会(2004 年), 国際ビジネス研究学会(2008 年), 国民経済雑誌(2009 年)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費: 基盤研究(C)(2), 「外国企業の対日投資と在日経営に関する経営史的研究」, 2004-2006 年度.
2. 村田学術振興財団, 「外国に本社をおく多国籍企業の対日投資に関する経営史的研究」, 2003 年度.
3. 文部省科学研究費: 基盤研究(C)(2), 「在華紡の盛衰: 1920-40 年代における内外綿会社の分析」, 1999-2002 年(阿部武司と共同).

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Professor: Centre for International Business History, University of Reading, U. K., 1998-1999.
2. Research Associate: Hagley Museum and Library, Wilmington, Delaware, U.S.A., 1988-1989.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 工業化初期の日本的経営の形成を, 武藤山治の事例を中心とし, 「鐘紡資料」を用いて研究。
2. 「在華紡」(戦前, 中国における日本資本の紡績企業)の経営を, 「内外綿資料」を用いて研究。
3. 戦前, 戦中, 戦後の多国籍企業の対日進出と日本における経営についての研究。
4. 戦前の実業高等教育機関の経営戦略についての研究。

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師: 大阪大学(2004 年度), 京都大学(1997 年度)
2. 神戸市『新修神戸市史, 産業経済篇(第二次産業)』, および同『新修神戸市史, 産業経済篇(総論)』の調査, 執筆委員(1985-2002 年).

しょうじけんいち
12. 正司健一

職名 教授

学位 博士(商学)(神戸大学)(1998年)

生年 1955年

学歴

1977年3月 神戸大学経営学部卒業

1979年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1979年4月 神戸大学経営学部助手

1982年4月 神戸大学経営学部講師

1986年4月 神戸大学経営学部助教授

1998年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 交通論

大学院 (一般) 演習, 交通研究,
市場経済分析特殊研究(交通論)

大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学部市場システム学科長(2001年6月-2002年3月,
2003年4月-2004年3月)

経営学部夜間学部主事(2002年4月-2003年3月)

経営学研究科長・経営学部長(2006年4月-2008年3月)

神戸大学評議員(2008年4月-2009年3月)

理事・副学長(2009年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『都市公共交通政策：民間供給と公的規制』,
千倉書房, 2001年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「大手私鉄の多角化戦略に関する一考察：多角化の程度と収益性の関係」, 日本交通学会, 『交通学研究 2000年研究年報』, 2001年, 185-194(B. Killeen と共著).

(他1編)

3. その他国内論文

- 「都市公共交通整備政策についての一考察：費用負担構造の日欧比較」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第2号, 2008年, 21-38.
- 「都市公共交通の運営形態についての考え方」, 『都市問題研究』, 第59巻, 第12号, 2007年, 53-71, (酒井裕規と共著).
- 「わが国の都市鉄道整備補助制度についての一考察」, 『国民経済雑誌』, 第190巻, 第6号, 2004年, 33-51.
- 「ロードサイドビジネスの発展とその背景」, 北村隆一編著『ポスト・モータリゼーション：21世紀の都市と交通戦略』, 学芸出版社, 2001年, 67-91(第3章).
- Lessons from Japanese Experience of Role of Public and Private Sectors in Urban Transport, *Japan Railway & Transport Review*, No.29, 2001, 12-18.

(他学術論文47編, 解説・書評等23編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Rail Operation-Infrastructure Separation: the Case of Kobe Rapid Transit Railway, *Transport Policy*, vol.11, No.3, 2004, 251-263, (co-authored with F. Mizutani).
- The Japanese Experience with Non-Verticalised Urban Private Railways: An Analysis of Strategy and Performance of the 'Minor' Companies, *Transporti Europei*, Vol.VIII, No.20/21, 2002, 89-95, (co-authored with B.J. Killeen).
- A Comparative Analysis of Financial Performance:

U.S. and Japanese Urban Railways, *International Journal of Transport Economics*, Vol.24, No.2, 1997, 207-239, (co-authored with F. Mizutani).

3. その他海外論文

1. Lessons from the Great Hanshin Earthquake: Towards Transportation Infrastructure Improvement, *World Transport Research: Proceedings of the 8th World Conference on Transport Research*, Elsevier Science, 1999, 499-512, (co-authored with F. Mizutani).

(他 1 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本交通学会
2. 海運経済学会
3. 公益事業学会
4. World Conference on Transport Research Society

【4】 学会における活動

1. 常務理事：日本交通学会(2005年-現在)
理事：日本交通学会(1997-2005年)
監事：海運経済学会(1991年-現在)
2. 編集委員：交通学研究(1997-2003年)
3. レフェリー：交通学研究, 公益事業研究, 国民経済雑誌, 土木学会論文集, 都市計画論文集, World Conference on Transport Research, IATBR (Selected Proceeding, Kyoto)
4. 学会賞審査委員：日本交通学会(2003年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 尼崎市制 90 周年記念 市政功労賞(2006年)
2. 国際交通安全学会賞 著作部門(2002年)
3. 日本交通学会賞 著書の部(2002年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費：基盤研究(B), 「持続可能な交通体系に関する基礎的研究：評価指標についての実証的検討」, 2009-2011年度, 水谷文俊 他 2名と共同

(その他 5件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scientist: Department of Environment and Civil Engineering, Massachusetts Institute of Technology, 1990-1991, 1997
 2. Visiting Research Fellow: Transport Studies Unit, University of Oxford, 1991
 3. Visiting Scholar: Transport Studies Group, University College London, 1983-1984
- (他学会報告, 研究調査のための海外渡航多数)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「公共交通運営に関する諸研究」: 効率的かつ有効な公共交通サービス供給体制をいかに確立し, これを維持するかについて, 民間供給を鍵言葉に多面的に分析。
2. 「持続可能な都市交通」: 環境的だけではなく, 社会的にも経済的にも持続可能なまちと交通をめざす各国の総合交通政策の動向の分析とわが国においてこれをにやう人材の育成。

【10】 社会活動・実務経験

1. 神戸市 EST 推進協議会(近畿運輸局交通環境部 境課, 神戸市企画調整局, 神戸市環境局, 2005年 8月-2008年 3月), 神戸 EST 省エネルギー詳細ビジョン策定委員会委員長(2006年度), KOBEST2007 実行委員会委員長(2007年度)
2. 滋賀県新幹線新駅問題対策専門委員(滋賀県, 2006年 10月-2008年 3月)
3. 大阪市道路公社経営監視委員会委員(大阪市建設局, 2007年 3月 27日-現在)
4. 地域と創る持続可能な離島観光モデルづくり・離島単独航路の維持活性化調査研究委員会委員長(神戸運輸監理部), 2008年 8月-2009年 2月
5. 芦屋市コミュニティバス検討委員会委員長(芦屋市, 2006年 10月-2008年 10月)
6. アピア逆瀬川の再生に関する調査専門委員会 主席委員(宝塚市, 2009年 5月-2011年 5月)
7. 尼崎市地域交通会議委員長(尼崎市企画財政局, 2009年 7月-現在)
8. 阪和育英会理事 (他多数)

13. 後藤雅敏

ごとうまさとし

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1998年)

生年 1958年

学歴

1982年3月 名古屋大学経済学部卒業

1984年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

1986年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1986年4月 滋賀大学経済学部助手

1987年4月 滋賀大学経済学部講師

1989年4月 滋賀大学経済学部助教授

1990年4月 神戸大学経営学部講師

1991年4月 神戸大学経営学部助教授

1998年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 会計学基礎論, 研究指導(昼間主),
初級簿記, 工業簿記, 外国書講読(昼間主),
財務会計特殊講義(実証・実験会計学),
社会科学のフロンティア

大学院 (一般) 会計学基礎研究, 演習

大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学部会計学科長(2002年4月-2003年3月)

経営学研究科会計システム専攻長(2005年4月-2008
年3月)

神戸大学評議員(2008年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『会計と予測情報』, 中央経済社, 1997年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 証券市場における情報量と取引報酬の関係,
『会計』, 第170巻, 第2号, 2006年8月, 15-24,
(神戸大学経済経営研究所・山地教授と共著).

2. コーポレート・ガバナンスの実験的分析, 『組
織科学』, 第39巻1号, 2005年9月, 36-46, (神
戸大学経済経営研究所・山地教授と共著).

3. 収支計算(会計学)と最大化計算(経済学), 『会
計』, 第166巻, 第5号, 2004年11月, 27-38,
(神戸大学経済経営研究所・山地教授と共著).
(他学術論文28編, 解説・書評等5編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Management Forecasts of Accounting Numbers in
Japan and Daily Stock Returns Behavior, in Shyam
Sunder and Hidetoshi Yamaji (eds.), *The Japanese
Style of Business Accounting*, Quorum, 1999,
119-136.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本シミュレーション&ゲーミング学会
3. American Accounting Association

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費：基盤研究(C)(2), 「企業価値の簿価と時価の差異が利益予測の正確性に及ぼす影響」, 1998-1999年
2. 科学技術融合振興財団, 1999-2000年
3. 文部省科学研究費：特定領域(A), 「2つの情報処理教室を結んだ証券の発行市場と流通市場の体験学習システムの作成」, 2001年
4. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「会計情報の理解可能性に関する実証・実験研究」, 2006-2008年.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Stanford University, 1993

【8】 国際学会における発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 会計情報に関する研究
2. コーポレート・ガバナンス

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師：近畿大学(1998-2002年), 大阪産業大学(1997-2002年)

たかしまかつよし
14. 高嶋克義

職名 教授

学位 博士(商学)(神戸大学)(1995年)

生年 1958年

学歴

1982年3月 京都大学経済学部卒業
1984年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1987年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程単位修得退学

職歴

1987年4月 近畿大学商経学部講師
1990年4月 近畿大学商経学部助教授
1991年4月 神戸大学経営学部講師
1991年8月 神戸大学経営学部助教授
1998年4月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 経営学入門,
マーケティング・マネジメント
大学院 (一般) 演習, マーケティング特論
大学院 (MBA) 現代経営学演習

学内役職

経営学部市場システム学科長(2004年4月-2005年3月)
経営学研究科市場科学専攻長(2004年4月-2005年3月)
神戸大学評議員(2009年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『現代マーケティング論』, 有斐閣, 2008年, (桑原秀史と共著).
- 『生産財マーケティング』, 有斐閣, 2006年, (南知恵子と共著).
- 『営業改革のビジョン』, 光文社, 2005年.
- 『営業プロセス・イノベーション』, 有斐閣,

2002年.

- 『現代商業学』, 有斐閣, 2002年.
- 『日本型マーケティング』, 千倉書房, 2000年(編著).
- 『生産財の取引戦略』, 千倉書房, 1998年.
- 『マーケティング・チャネル組織論』, 千倉書房, 1994年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「小売業態革新に関する再検討」, 『流通研究』, 第9巻, 第3号, 2007年, 33-51.
- 「営業管理様式の選択に関する新視点」, 『流通研究』, 第3巻, 第2号, 2000年, 1-16.
- 「品揃え形成概念の再検討」, 『流通研究』, 第2巻, 第1号, 1999年, 1-13.
- 「産業広告の効果に関する実証研究」, 『日経広告研究所報』, 第165号, 1996年, 59-68, (竹村正明・大津正和と共著).

3. その他国内論文

- 「延期的生産システムの再検討」, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第4号, 2008年, 1-16.
- 「EC事業における競争優位の戦略」, 『ビジネス・インサイト』, 56号, 2007年, 6-19.
- 「関係性マーケティング論の再検討」, 『国民経済雑誌』, 第193巻, 第5号, 2006年, 27-41.
- 「日本の医療用医薬品産業におけるDTC広告の可能性」, 『日経広告研究所報』, 第39巻, 第6号, 2005年, 24-30, (春間由香と共著).
- 「組織行動がブランド・マネジメントに与える影響」, 『マーケティング・ジャーナル』, 第25巻, 第2号, 2005年, 20-37, (小林哲と共著).
- 「Eコマースにおける競争構造」, 『国民経済雑誌』, 第190巻, 第4号, 2004年, 31-43.
- “Behavior-Based Salesforce Control Systems and Interdepartmental Communication,” *Business Research, Kobe University*, No.51, 2004, 1-18.
- 「小売業態革新の分析枠組み」, 『国民経済雑誌』, 第187巻, 第2号, 2003年, 69-83.
- 「チーム型営業体制と関係性管理」, 『同志社商学』, 第53巻, 第1号, 2001年, 20-33.
- 「営業活動の情報支援に関する考察—顧客データベースによる営業革新の展開」, 『国民経済雑誌』, 第183巻, 第5号, 2001年, 63-78.
- 「インターネットによるBtoBコミュニケーション

ョンの変容」、『日経広告研究所報』, 第 194 号, 2000 年, 9-14.

12. 「営業管理様式の選択に関する新視点」、『流通研究』, 第 3 巻, 第 2 号, 2000 年, 1-16.
13. 「日本型マーケティングの分析視角」, 高嶋克義編『日本型マーケティング』, 千倉書房, 2000 年, 1-18.
14. 「日本企業における営業プロセス管理」、『国民経済雑誌』, 第 179 巻, 第 5 号, 1999 年, 61-76.
15. 「生業志向のマーケティング行動—資源ベース視点による考察—」, 『国民経済雑誌』, 第 176 巻, 第 1 号, 1997 年, 47-60.
16. 「営業の情報化」, 『ビジネス・インサイト』, 第 5 巻, 第 2 号, 1997 年, 20-33.
17. 「流通ダイナミクスにおける選択と革新」, 『マーケティング・ジャーナル』, 第 65 号, 1997 年, 4-15.
18. Sales Process Innovation in Japan , *The Annals of the School of Business Administration, Kobe University*, No. 41, 1997, 179-193.
19. 「流通取引制度の分析視角」, 『流通科学』, 第 13 号, 1996 年, 3-11.
20. 「製販同盟の論理」, 『ビジネス・インサイト』, 第 4 巻, 第 2 号, 1996 年, 22-7.
21. 「コスト優位の行動的側面」, 『国民経済雑誌』, 第 172 巻, 第 5 号, 1995 年, 63-82.

(他学術論文 25 編, 解説・書評等 14 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会

【4】 学会における活動

1. 理事：日本商業学会 (2006-2008 年)
2. 部会代表理事：日本商業学会 (2002-2004 年)
3. 本部理事：日本商業学会 (1996-2000 年)
4. 学会賞審査委員：日本商業学会 (2004-2008 年)(審査委員長 2004-2006 年)
5. 編集委員：流通研究(2008 年-現在)
6. レフェリー：流通研究, マーケティング・ジャーナル

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本商業学会・論文賞(2001 年 5 月)
2. 日本商業学会・優秀賞(1995 年 5 月)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 吉田秀雄記念事業財団研究助成金, 1999 年
2. 文部省科学研究費：基盤研究(B)(2), 「営業活動のプロセス革新に基づく競争優位の基盤構築に関する研究」, 2006-2008 年

(その他 1 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of California, Berkeley, 1994-1995

【8】 国際学会における発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「生産財マーケティングに関する研究」生産財マーケティングにおける顧客との関係や部門間連携に関わる組織の問題についての実証的研究
2. 「営業活動および営業戦略に関する研究」営業活動の組織的な展開や支援の体制, 営業部門と開発部門などの他の部門との協力関係を考察し, 営業改革についての実証的研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 文部科学省大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)専門委員(2006-2007 年度)
2. 豊中市産業振興懇話会委員(1997-2000 年)

みづたにふみとし
15. 水谷文俊

職名 教授

学位 Ph.D.(ハーバード大学)(1993年)

生年 1957年

学歴

1981年3月 京都大学工学部卒業

1983年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

1993年11月 ハーバード大学大学院博士課程修了

職歴

1983年4月 清水建設(株), エンジニア

1988年4月 社団法人海外コンサルティング企業協会, プロジェクト・エンジニア

1994年4月 (株)ポリテクニクコンサルタンツ, 副主任研究員

1994年8月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2000年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 企業政府関係, Business-Government Relations Special Lecture, 社会科学のフロンティア

大学院 (一般) 演習, 市場経済分析特論, 企業政府関係研究, Advanced Business-Government Relations

大学院 (MBA) 現代経営学応用研究(公益事業経営)

学内役職

経営学部経営学科長(2003年4月-2004年3月)

経営学研究科マネジメント・システム専攻長(2005年4月-2006年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「私鉄経営とビジネスシステム」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第56巻, 第1号, 2008年, 34-45.

2. 「公益事業におけるヤードスティック規制」, 『国民経済雑誌』, 第195巻, 第5号, 2007年, 1-18.

(他学術論文16編, 解説・書評等6編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Japanese Urban Railways: A Private-Public Comparison*, Avebury, 1994.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Does Yardstick Regulation Really Work? Empirical Evidence from Japan's Rail Industry, *Journal of Regulatory Economics*, Vol.36, No.3, 2009, 308-323, (co-authored with H. Kozumi, N. Matsushima).

2. Privatization of the Japan Highway Public Corporation: Focusing on Organizational Structure Change, *Transport Reviews*, Vol.28, No.4, 2008, 469-493, (co-authored with S. Uranishi).

3. The Effects of Privatization on Productivity and Capital Adjustment, *International Journal of Transport Economics*, Vol.34, No.2, 2007, 197-224, (co-authored with S. Uranishi).

4. Industrial Diversity and Metropolitan Unemployment Rate, *Annals of Regional Science*, Vol.40, No.1, 2006, 157-172, (co-authored with K. Mizuno and N. Nakayama).

5. Operation and Infrastructure Separation: The Case of Kobe Rapid Transit Railway, *Transport Policy*, Vo.11, No.3, 2004, 251-263, (co-authored with K. Shoji).

6. Privately Owned Railways' Cost Function, Organization Size and Ownership, *Journal of Regulatory Economics*, Vol.25, No.3, 2004,

297-322.

7. A Private-Public Comparison of Bus Service Operators, *International Journal of Transport Economics*, Vol.30, No.2, 2003, 167-185, (co-authored with T. Urakami).
8. The Post Office vs. Parcel Delivery Companies: Competition Effects on Costs and Productivity, *Journal of Regulatory Economics*, Vol.23, No.3, 2003, 299-319, (co-authored with S. Uranishi).

(他学術論文 7 編)

【3】 その他海外論文

1. Regulation and Deregulation in the Japanese Rail Industry, *CESifo DICE Report: Journal for Institutional Comparisons*, Vol.3, No.4, 2005, 10-15.
2. The Japanese Experience with Railway Restructuring, in T. Ito and A. O. Krueger (eds.), *Governance, Regulation and Privatization*, The University of Chicago Press, 2004, 305-336, (co-authored with K. Nakamura).

(他学術論文 8 編)

【3】 主要所属学会

1. 公益事業学会, 日本交通学会, World Conference on Transport Research Society, Regional Science Association International, American Economic Association など (その他 4 件)

【4】 学会における活動

1. 編集委員: 公益事業研究 (1999-2001 年, 2003-2005 年), 国民経済雑誌(2002-2004 年), 運輸政策研究(2004 年-現在), 交通学研究(2005-2008 年), 交通経済ハンドブック編集委員(2009 年-現在)
2. レフェリー: Journal of Transport Economics and Policy, International Journal of Industrial Organization, Environment and Planning-C, Papers in Regional Science, Journal of the Japanese and International Economies, Transport Policy, Annals of Regional Science, Transport Reviews など

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Public Transport Prize (World Conference on Transport Research Society) (1998)
2. 日本交通学会賞(1996 年)
3. 公益事業学会賞(1995 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「公益事業における構造分離アプローチに関する計量分析」, 2007-2009 年(正司健一, 浦西秀司, 浦上拓也と共同)など他 3 件.
2. その他: 国際交流基金フェローシップ(1997 年度)など他 1 件.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Research Associate: Regulatory Policy Research Center, Oxford and Transport Studies Unit of the University of Oxford, 1997-1998

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. International Congress CIRIEC, September 22-24, 2008, Sevilla, Spain
2. The 48th ERSA Congress, European Regional Science Association, August 27-31, 2008, Liverpool, U.K.

【9】 現在の研究活動

1. 公益事業における規制及び民営化に関する研究
2. 自動車の社会的費用の推定
3. 組織スラックとパフォーマンスの関係に関する実証研究

【10】 社会活動・実務経験

審議会・委員会等

1. 阪神水道企業団経営懇談会委員(2008 年-現在)
2. 内閣府公共料金分野における規制影響分析検討委員会鉄道 WG 委員(2005 年)など

実務経験・プロジェクト

1. Transport Economist (1997 年): オランダ運輸省及びオランダ国鉄共同委託鉄道事業の規制政策研究プロジェクトに参加 など

こくぶかつひこ
16. 國部克彦

職名 教授

学位 博士(経営学)(大阪市立大学)(1993年)

生年 1962年

学歴

1985年3月 大阪市立大学商学部卒業

1987年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科前期
博士課程修了

1990年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科後期
博士課程単位修得退学

職歴

1990年4月 大阪市立大学商学部助手

1991年10月 大阪市立大学商学部講師

1993年10月 大阪市立大学商学部助教授

1995年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2001年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 研究指導, 社会環境会計, 総合科目Ⅱ

大学院 (一般) 演習, 定性的方法論研究

大学院 (MBA) 現代経営学応用研究(環境経営)

学内役職

1. 経営学研究科会計システム専攻長(2008年4月
-2009年3月)

2. 環境管理センター・環境教育研究支援部門長
(2008年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『マテリアルフローコスト会計(第二版)』, 日本
経済新聞出版社, 2008年, (共著).

2. 『実践マテリアルフローコスト会計』, 産業環境
管理協会(編著), 2008年.

3. 『環境経営・会計』, 有斐閣, 2007年, (共著).
4. 『環境経営のイノベーション』, 生産性出版,
2006年, (共編著).
5. 『環境会計の新しい展開』, 白桃書房, 2005年,
(共編著).
6. 『環境管理会計入門』, 産業環境管理協会, 2004
年, (編著).
7. 『日本企業の環境報告』, 省エネルギーセンター,
2003年, (共編著).
8. 『マテリアルフローコスト会計』, 日本経済新聞
社, 2002年, (共著).
9. 『環境会計の理論と実際』, ぎょうせい, 2001
年, (編著).
10. 『IBMの環境経営』, 東洋経済新報社, 2001年,
(共著).
11. 『環境会計(改訂増補版)』, 新世社, 2000年.
12. 『社会と環境の会計学』, 中央経済社, 1999年.
13. 『ソーシャル・インベストメントとは何か』, 日
本経済評論社, 1998年, (共著).
14. 『アメリカ経営分析発達史』, 白桃書房, 1994
年. (他, 共編著2冊, 共訳書4冊, 監修書3冊)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「日本型環境管理会計の特徴と課題」, 『原価計
算研究』, 第33巻第1号, 2009年, 1-9.
2. 「環境会計と企業経営評価」, 『経営分析研究』,
第22号, 2006年, 50-57. (他学術論文多数)

3. その他国内論文

1. 「マテリアルフローコスト会計の意義と展望」,
『企業会計』, 第59巻, 第11号, 2007年, 18-24.
2. 「CSR会計の体系」, 『廃棄物学会誌』, 第18巻,
第4号, 2007年, 231-236. (他学術論文多数)

【2】 海外出版

1. 著書

1. 『環境会計』(韓国語), 2001年.
2. 『マテリアルフローコスト会計』(韓国語), 2006
年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Implementing Material Flow Cost Accounting in a

Pharmaceutical Companies, *Environmental Management Accounting for Cleaner Production*, (Springer), 2008, 395-410.

2. Environmental Management Accounting Practices in Japanese Manufacturing Sites, *Environmental Management Accounting for Cleaner Production*, (Springer), 2008, 365-378.
3. 「日本の環境会計」, 中国環境科学学会『中国環境保護優秀論文精選』, 2006年, 433-442(中国語). (他学術論文多数)

【3】 その他海外論文

1. Sustainable Accounting Initiatives in Japan : Pilot projects of material flow cost accounting in J. D. S. Hausmann, C. Liedtk and E. U. Weizsacker(eds.) *Eco-efficiency and Beyond*, Greenleaf Publishing, pp.100-112.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 環境経済・政策学会
3. 日本社会関連会計学会
4. 日本原価計算研究学会
5. 環境経営学会

【4】 学会における活動

1. 常任理事 : 日本原価計算研究学会(2006-2009年)
2. 理事 : 日本社会関連会計学会(1998年-現在), 環境経営学会(2001年-現在), 環境経済・政策学会(2008年-現在)
3. Advisory Board Member: *Accounting, Auditing and Accountability Journal*(1995年-現在)
4. 編集委員 : *Accounting, Auditing and Accountability Journal*, *Austrarian Accounting Review*, *International Journal of Social and Environmental Accounting*, 社会関連会計研究
5. レフェリー : 原価計算研究他

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 中国環境科学学会優秀論文賞(2006年)
2. 日本原価計算研究学会・学会賞・著書(2003年)
3. 日本原価計算研究学会・学会賞・論文(2000年)
4. 日本公認会計士協会・学術賞(2000年)

5. 「環境管理」優秀論文賞(2000年)
6. 経営哲学学会・研究奨励賞(1998年)
7. 日本会計史学会・学会賞(1995年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費 : 基盤研究(A), 「環境経営意思決定を支援する環境会計システム」(2009-2011年)
2. 文部省科学研究費 : 基盤研究(C), 「ステイクホルダー・マネジメントのためのCSR会計フレームワークに関する研究」, 2006-2008年(他11件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: London School of Economics, (2005 and 1994)
2. Visiting Researcher: University of Adelaide (2001-2002)
3. International Associate: Centre for Social and Environmental Accounting Research, University of St Andrews (1995- 現在)

【8】 国際学会での発表(過去3年間)

1. “Material Flow Cost Accounting”, 7th Australasian Conference for Social and Environmental Accounting Research, December 2008, University of South Australia. (他7件)

【9】 現在の研究活動

1. マテリアルフローコスト会計を中心とする企業経営を支援する環境管理会計手法の開発
2. CSR経営・会計の体系化に関する研究
3. 会計実践の社会的分析

【10】 社会活動・実務経験

1. ISO/TC207/WG8(MFCA)議長(2009年-現在)
2. 経済産業省委託・サプライチェーン省資源化促進連携事業評価委員会委員長(2008-2009年)
3. 経済産業省委託・マテリアルフローコスト会計普及開発促進委員会委員長(2006-2009年)
4. 株式会社環境管理会計研究所取締役(2003年-現在)
5. 日本MFCAフォーラム会長(2009年-現在)

ふじわらけんや
17. 藤原賢哉

職名 教授

学位 経済学博士(神戸大学)(1990年)

生年 1961年

学歴

1984年3月 関西学院大学経済学部卒業
1986年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了
1990年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1990年8月 広島大学経済学部講師
1993年8月 広島大学経済学部助教授
1996年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2003年2月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 金融システム, 研究指導(昼間主),
ファイナンス A, 経営学入門,
社会科学のフロンティア
大学院 (一般) ファイナンス特論, 演習,
金融システム研究
大学院 (MBA) 現代経営学応用研究(負債理論と
市場の効率性)

学内役職

経営学研究科市場科学専攻長(2007年4月-2009年3
月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『金融制度と組織の経済分析-不良債権問題と
ポストバブルの金融システム』, 中央経済社,
2006年.

2. 『金融システム論』, 有斐閣, 2005年, (田中
敦ほかと共著).
3. 『金融論入門』, 中央経済社, 2002年, (家森信
善と共編著).
(他1編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「金融機関への役員派遣について」, 『金融経済
研究』, 第13・14号, 1997年, 70-85, (家森信
善と共著).
2. 「M&A からみたメインバンクの機能について
- 日本的 M&A メカニズムの特徴と評価 -」,
『経済学論集』, 第62巻, 第3号, 東京大学,
1996年, 43-62.
3. 「企業倒産とメインバンク制-メインバンクの
救済機能について-」, 『金融経済研究』, 第4
号, 1993年, 37-48.

3. その他国内論文

1. 「倒産法制の経済分析-破綻処理効率性に関す
る展望と検証」, 斎藤彰編『市場と適応』, 法律
文化社, 2007年, 228-257.
2. 「金融仲介機関」, 『金融経済学ハンドブック』,
丸善, 2006年, 459-602, (丸茂俊彦と共訳).
3. 「企業の破綻処理と公的金融機関-政府系金融
機関はソフト・バジェットカー」, 『フィン
シャル・レビュー』, 第79号, 2005年, 52-78.
4. 「債務免除と企業再生」, 『証券アナリストジ
ャーナル』, 第43巻, 2005年, 34-44, (砂川伸
幸他と共著).
5. 「日本銀行政策決定会合と金融政策の効率性」,
『国民経済雑誌』, 第190巻, 第6号, 2004年,
67-92.
6. 「わが国信託銀行業の生産性と効率性の検証」,
『信託研究奨励金論集』, 第24号, 2003年, 88-101,
(播磨谷浩三他と共著).
7. 「インデックス型投資信託と金融市場の効率
性」, 齊藤誠編著, 『日本の金融再生戦略』, 中央
経済社, 2002年, 167-195.
8. 「わが国投資信託のパフォーマンスについて」,
『国民経済雑誌』, 第183巻, 第6号, 2001年,
63-79.
9. 「伝統的金融システムからの脱却」, 『エコノ
ミクス5』, 東洋経済新報社, 2001年, 162-172, (家
森信善と共著).

(他学術論文 35 編, 解説・書評 3 編, 辞典 3 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Addition to the Nikkei 225 Index and Japanese Market Response: Temporary Demand Effect of Index-arbitrageurs, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.14, No.4, 2006, 395-409, (co-authored with Okada, K., Isagawa, N.)
2. Why do Japanese Banks get involved in the Bad Loan Problem: An Investigation of Bank Organization and Lending Behavior, *Finance India*, 14, 2005, 871-886.

3. その他海外論文

1. Corporate Debt Restructuring and Public Institutions in Japan: Do government-Affiliated Financial Institutions Soften Budget Constraints?, *Public Policy Review*, Vol.2, No.1, 2006, 141-176.
2. Does the Japanese Closed-End Fund Puzzle Exist? : An Empirical Study of the Efficiency of the Financial Market in Japan, *International Journal of Business*, Vol.11, No.1, 2006, 33-45.

【3】 主要所属学会

1. 日本金融学会
2. 日本経済学会
3. American Economic Association
4. 金融法学会
5. 消費者金融サービス研究学会
6. 生活経済学会
7. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. 理事: 金融学会(2006年-現在)
2. 編集委員: 金融経済研究(2001-2007年)
3. レフェリー: Asian Economic Review, International Journal of Business, 金融経済研究, Journal of the

Japanese and International Economics, 生活経済学研究, ビジネス・インサイト, 国民経済雑誌, 日本経営学会誌

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 金融ジャーナル賞優秀論文賞(2001年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 全国銀行学術研究振興財団, 1999年度
2. 文部省科学研究費: 奨励研究(A), 「金融取引ルールに関する基礎的研究」, 1998-1999年
(その他2件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Fellow: Macquarie University, 2003.
2. Visiting Fellow: University of Southern California, 2003.
3. Visiting Scholar: Korean Institute for International Economic Policy, 2006.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. シンジケートローンが金融取引全般(企業・銀行間関係, 破たん処理, 監督体制)に及ぼす影響について
2. 倒産法制と企業の負債再構築のあり方
3. 日本の金融システムと金融監督行政の変遷
4. 地方自治体と金融機関との関係

【10】 社会活動・実務経験

1. 兵庫県資金管理委員会委員(2007年-現在)
2. 日本生命保険相互会社総代
3. 金融庁金融審議会「金融機関に対する公的資金制度のあり方について」WG委員(2003年)
4. 金融庁金融審議会「金融の基本問題に関するスタディー・グループ」委員(2000-2001年)
など

18. 小川 進

おがわ すすむ

職名 教授

学位 Ph.D.(マサチューセッツ工科大学)(1998 年)
博士(商学)(神戸大学)(2000 年)

生年 1964 年

学歴

1987 年 3 月 神戸大学経営学部卒業

1989 年 3 月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1989 年 4 月 神戸大学経営学部助手

1992 年 4 月 神戸大学経営学部講師

1994 年 8 月 神戸大学経営学部助教授

1999 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2003 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009 年度)

学 部 流通システム, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 流通システム研究, 演習

大学院 (MBA) マーケティング応用研究,
現代経営学演習

学内役職

1. 経営学研究科市場科学専攻長(2005 年 4 月-2007
年 3 月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『3 分でわかるクリティカルシンキング』(平井
孝志との共著), 日本実業出版社, 2009 年.

2. 『カルビー戦略史』株式会社カルビー社史(松尾
雅彦との共著), 2008 年.

3. 『競争的共創論』, 白桃書房, 2006 年.

4. 『ドクターオガワに会いにいこう』, 千倉書房,
2005 年.

5. 『稼ぐ仕組み』日本経済新聞社, 2003 年.

6. 『ダイヤモンド・チェーン経営』, 日本経済新聞社,
2000 年.

7. 『イノベーションの発生論理』, 千倉書房, 2000
年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「複線型開発」, 『流通研究』, 第 8 巻, 第 1 号,
2005 年, 1-16.

2. 「コンビニエンス・ストアにおけるシステム優
位」, 『流通研究』, 第 7 巻, 第 2 号, 2004 年,
1-17.

3. 「顧客との対話モードと新製品開発成果」, 『一
橋ビジネス・レビュー』, Vol. 44, No. 4, 1997 年,
55-70.

4. 「イノベーションと情報の粘着性」, 『組織科
学』, 第 30 巻, 第 4 号, 1997 年, 60-71.

3. その他国内論文

1. 「携帯ウォーズ」, 『プレジデント』, 6 月 30 日
号, 2008 年, 128-135.

2. 「ユーザー起動法とブランド・コミュニティ」,
『組織科学』, 第 39 巻, 第 3 号, 2006 年, 27-39.

3. 「セブン-イレブンの事業システム」, 『国民経
済雑誌』, 第 191 巻, 第 6 号, 2005 年, 87-97.

4. 「ユーザー起動型ビジネスモデル」, 『国民経
済雑誌』, 第 185 巻, 第 5 号, 2002 年, 65-76.

5. 「流通システムの新しい担い手: ユーザー起動
型ビジネスモデル」, 『組織科学』, 第 35 巻, 第
4 号, 2002 年, 20-31.

6. 「エンジン-tanomi.com(たのみこむ)」, 『一橋ビ
ジネスレビュー』, 第 50 巻, 第 2 号, 2002 年,
179-189.

7. 「フルセット型流通革新モデル」, 『ビジネスレ
ビュー』, 第 49 巻, 第 2 号, 2001 年, 45-57.

8. 「ユーザー起点のイノベーション: ユーザーの
ニーズ・プッシュとテクノロジー・プル」, 『ビ
ジネス・インサイト』, 第 7 巻, 第 1 号, 1999
年, 78-100.

9. Previous Studies on the Locus of Innovation and Its
Determinants: Literature Review, *The Annals of
the Graduate School of Business Administration*,
Kobe University, No43, 1999, 49-69.

10. 「エスノマーケティング」, 石井淳蔵・石原武
政編著, 『マーケティング・ダイナミズム』, 白

桃書房, 1996年, 3-28.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Innovating Innovation, *International Commerce Review*, Vol. 7, No.2. 2007, 104-114, (co-authored with Hirofumi Matsuo).
2. Reducing the Risks of New Product Development, *MIT Sloan Management Review*, Vol. 47, No. 2. 2006, 65-71. (co-authored with Frank T. Piller)
3. The Hypothesis-Testing Ordering System: A new Competitive Weapon of the Japanese Convenience Stores in a New Digital Era, *Industrial Relations*, Vol.41, No.4, 2002, 579-604.
4. Does Sticky Information Affect the Locus of Innovation: Evidence from the Japanese Convenience-Store Industry, *Research Policy*, Vol.26, 1998, 777-790.

3. その他海外論文

1. Qualifying User Innovation in Consumer Goods: Case study of CUUSOO.COM, Japan, *Kundenorientierte Unternehmensführung*, 2008, 531-554, (co-authored with Kohei Nishiyama).
2. Innovations of Store Ordering Systems in Japan, in M.R. Czinkota & M. Kotabe (eds.), *Japanese Distribution Strategy*, Business Press, 2000, 263-279.

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 組織学会

【4】 学会における活動

1. 雑誌編集員: 組織科学(2006年, 2008年),
2. レフェリー: 組織学会, 商業学会, Research Policy

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 組織学会高宮賞(2001年)
2. 日本商業学会学会賞(奨励賞)(2001年)
3. 第17回電気通信普及財団賞(テレコム社会科学賞)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

1. MIT等でのユーザー・イノベーション研究に関するワークショップへの参加・発表(2005年, 2007年, 2009年)
2. Visiting Scholar: Sloan School of Management, Massachusetts Institute of Technology, USA, 1994-1998

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. “Profit-enhancing know-how disclosure: A strategic view/ Profit-enhancing know-how disclosure: A strategic view”, User Innovation Conference 2007/ User Innovation Conference 2007, Copenhagen Business School, (jointly presented with Noriaki Matsushima).

【9】 現在の研究活動

1. 流通企業の革新活動
2. ビジネス・モデル研究: イノベーターの分布とその説明要因について, アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリアの研究者と共同研究をしている。マーケティングと研究開発の両分野への貢献を目指している。

【10】 社会活動・実務経験

なし

19. 黄 磷

職名 教授

学位 商学博士(神戸大学)(1990年)

生年 1962年

学歴

1985年3月 神戸大学経営学部卒業
1987年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了
1990年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

1990年4月 神戸大学経済経営研究所助手
1992年4月 小樽商科大学商学部助教授
1995年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 市場システム特殊講義
(グローバルマーケティング), 総合科目 I
大学院 (一般) グローバル・マーケティング研究,
市場システム特別研究(グローバル・
マーケティング), 演習
大学院 (MBA) 国際経営応用研究, 現代経営学演習

学内役職

中国コラボレーションセンター長(2004年-現在)
経営学研究科市場科学専攻長(2009年4月-現在)
国際交流推進本部・中国関係プロジェクトチーム
副リーダー(2009年4月現在)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『小売企業の国際展開』, 中央経済社, 2009年,
(向山雅夫・崔相鐵編).

2. 『神戸大学「地域再生システム論」』, 2008年.
3. 『現代中国産業経済論』, 世界思想社, 2007年,
(佐々木信彰編).
4. 『中国・ASEAN 経済関係の新展開』, アジア経済
研究所, 2006年, 159-182, (大西康雄編).
5. 『新興市場戦略論』, 千倉書房, 2003年.
6. 『WTO 加盟後の中国市場』, 蒼蒼社, 2002年,
(編著).
7. 『流通空間構造の動態分析』, 千倉書房, 1992年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「中国企業のビジネスシステムと競争力」, 『中国
経営管理研究』, 第8号, 2009年, 3-22.
2. 「日本の小売企業の競争力」, 『一橋ビジネスレ
ビュー』56巻1号, 2008年, 62-75, (共著).
3. 「中国市場のリスクとその対策」, 『マーケティ
ング・ジャーナル』, 第89号, 2003年, 26-33.
4. 「海爾の市場連鎖を通じた BPR」, 『中国経営管
理研究』, 第3号, 2003年, 86-119.
5. 「海外市場参入の理論展開」, 『流通研究』, 第2
巻, 第1号, 1999年, 31-41.

3. その他国内論文

1. 「中国企業の海外直接投資と経営資源獲得戦
略」, 『国民経済雑誌』, 199巻5号, 2009年, 1-15.
2. 「阪神・淡路大震災から「創造的復興」の経験
と教訓」, 『東アジア論壇』, 第5号, 2009年,
20-22.
3. 「自動車物流ー全国市場への挑戦ー」, 『東亜
[East Asia]』, No.484, 10月号, 2007年, 38-43.
4. 「中国におけるフランチャイズ市場の発展と FC 事
業の将来性」, 『流通情報』, 436号, 2005年,
34-43.
5. 「ネットワーク編成の卸売企業」, 『国民経済雑
誌』, 第186巻, 第2号, 2002年, 43-57.
(他学術論文42編, 解説・書評等10編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. 『「阪神大震災」的教訓与「創造性復興」』, 中国
民主法制出版社, 2009年, (王柯と共編著).
2. *Greater China in the Global Market*, The Haworth
Press, 2000, (co-authored with Yigang Pan).

- 『日本流通領域的の全面革新』, 遠東出版社, 1998年.
- 『現代日本市場経済』, 湖南出版社, 1996年, (編著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Competition Based on Marketing Resources China Information, *A Journal on Contemporary China Studies*, Vol. XXIII, No. 1, March 2009, 129-157.
- Choice of Market Entry Mode in Emerging Markets: Influences of Entry Strategy in China, *Journal of Global Marketing*, International Business Press, 2000, 83-109.
- 「現代日本的市場競争機制」, 『経済学動態』(中国語), 1995年, 56-61.

3. その他海外論文

- 「グローバル・ネットワークとしての企業」, *Harvard Business Review*, 2004年, 109-112.
- Global Marketing Innovation, *Marketing: Tasks and Perspectives*, Kyungpook National University Press, 1997, 603-625.

(他学術論文3編)

【3】 主要所属学会

- 日本商業学会
- アジア政経学会
- 中国経営管理学会
- 国際ビジネス研究学会
- 中国経済学会

【4】 学会における活動

- 幹事: 日本商業学会(1998年-現在), 国際ビジネス研究学会(2007-2009年度)
- 理事: 中国経営管理研究(2004年-現在), 地域活性化学会(2008年12月-現在)
- 編集委員: 中国経営管理研究(2004-2007年)
- レフェリー: *Journal of the Asia Pacific Economy, Marketing・ジャーナル*
- 学会賞審査委員: 国際ビジネス研究学会(2009年現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

- 日本商業学会 学会賞(2003年)

- 国際ビジネス研究学会 学会賞(2003年)
- 日本商業学会・奨励賞(1993年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

- 文部科学省科学研究費: 基盤研究(A)(1), 「グローバル・ネットワーク型企業における競争基盤と資源展開に関する実証研究」, 2004-2006年
- 文部科学省科学研究費: 奨励研究(A), 「新興市場における多国籍企業の市場行動に関する研究」, 2000-2001年

【7】 海外における研究・教育活動

- Visiting Scholar: Temple University, Philadelphia, USA, 2000-2001
- Visiting Scholar: University of Washington, Seattle, USA, 1996-1997

【8】 国際学会での発表状況

- 「多国籍企業のグローバルマーケティング」, 国際会議『多国籍企業のグローバルマーケティング』天津, 2009年4月.
- 「アジア新時代に求められている共通課題と革新型人材像」, 北京, 2008年11月.
- 「中国の医薬品流通チャネルの変革と中国の医薬品流通制度改革」, 中国の医薬品流通革新ワークショップ, 北京, 2007年11月.
- 「中国企業の事業継承」, 中国企業伝承問題学術研究討論会ワークショップ, 2007年11月.

【9】 現在の研究活動

- グローバルマーケティング
- 流通システムのダイナミズム
- 中国経済の市場化

【10】 社会活動・実務経験

- 海外協力事業団(JICA)中国国別貿易・投資促進コース 研修指導者(2005年-現在)
- 大阪府・アジアの中核都市・大阪ビジョン策定に係る有識者懇談会 委員(2005年度)
- 関西競争力会議 委員(2002年度)
- (財)日中経済協会関西本部委員会委員(1998, 2001-2002年度)
- 神戸・阪神協議会委員(2001-2009年現在)
- 新たな中国人街形成促進研究会委員(神戸市, 1999-2000年)

まつおひろふみ
20. 松尾博文

職名 教授

学位 Ph.D. (マサチューセッツ工科大学)(1984年)

生年 1954年

学歴

1977年3月 京都大学工学部数理工学科卒業
1979年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程
数理工学専攻修了
1984年5月 マサチューセッツ工科大学大学院経
営研究科博士課程修了

職歴

1984年9月 テキサス大学オースティン校ビジネス
スクール経営学科助教授
1989年9月 テキサス大学オースティン校ビジネス
スクール経営学科准教授
1993年1月 ペンシルバニア大学ウォートンスクー
ルオペレーション・情報経営学科客員
准教授(兼任, 1994年8月まで)
1995年9月 テキサス大学オースティン校ビジネス
スクール経営学科教授
1997年9月 テキサス大学オースティン校ビジネス
スクール経営学科 Fred H. Moore
Centennial Professorship
1999年6月 筑波大学社会工学系教授
2004年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 経営学入門, SCM, 社
会科学のフロンティア
大学院 (一般) 演習, Advanced SCM
大学院 (MBA) オペレーションズマネジメント応
用研究, テーマプロジェクト研究,
現代経営学演習

学内役職

マネジメント・システム専攻長(2008年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「日本の製造企業における品質管理の現状と変
化に関する調査研究」, 『日本経営工学会論文誌』,
第60巻, 第1号, 2009年, 28-39, (共著).
(他3編)

3. その他国内論文

1. 「SCMにおけるシステムの階層的視点」, 『シス
テム/制御/情報』, Vol. 52, No. 6, 2008年, 200-206.
(他論文12編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Manufacturing Fundamentals: Necessity and
Sufficiency, Proceedings of the Third World
Conference on Production and Operations
Management*, 2008, 2739 pages, (co-edited).
(他2編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Repetitive Testing of Multiple Products with
Limited Capacity, *International Journal of Quality
and Reliability Management*, Vol.27, No.2, 2010,
247-264, (co-authored).
2. Measuring Changes in Quality Management: An
Empirical Analysis of Japanese Manufacturing
Companies, *Total Quality Management and
Business Excellence*, Vol.20, No.12, 2009,
1337-1374, (co-authored).
3. Innovating Innovation: The Case of Seven-Eleven
Japan, *International Commerce Review: ECR
Journal*, Vol. 7, No. 2, 2007, 104-114(co-authored).
4. Flexibility, Adaptability, and Efficiency in
Manufacturing Systems, *Production and
Operations Management*, Vol. 8, No. 2, 1999,
133-150, (co-authored).

5. Control Policy for a Manufacturing System with Random Yield and Rework, *Journal of Optimization Theory and Applications*, Vol. 95, No.1, 1997, 149-175, (co-authored).
6. Forecasting and Inventory Management of Short Life Cycle Products, *Operations Research*, Vol. 44, No. 1, 1996, 131-150, (co-authored).
7. Production Planning of Style Goods with High Setup Costs and Forecast Revisions, *Operations Research*, Vol.34, No.2, 1986, 226-236, (co-authored). (他31編)

3. その他海外論文

1. Operations Planning in the Presence of Innovation Diffusion Dynamics, in V. Mahajan et al (eds.), *New-Product Diffusion Models*, Kluwer Academic Publishers, 2000, 237-259, (co-authored).(他 21 編)

【3】 主要所属学会

1. Institute for Operations Research and the Management Sciences (INFORMS)
2. Production and Operations Management Society (POMS)
3. オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会
4. 日本オペレーションズ・リサーチ学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会(2008年-現在)
2. Regional Vice President Australasia: POMS (2004-2007)
3. Program Committee Chair: The Third World Conference on Production and Operations Management (August 2008)
4. Conferencel Chair: The Tenth Supply Chain Thought Leaders Roundtable (June 2007)
5. Department Editor: International Commerce Review, (2007-現在)
6. Associate Editor, Management Science (1989-1995), Operations Research (1986-1995)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Outstanding Service as Regional Vice President-Australasia, 2007.
2. スケジューリング学会賞(技術部門), 2004年

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)(2), 「サプライチェーンにおける革新的なビジネスモデルの構築」, 2002-2004年
2. 民間等との共同研究 「石油化学産業のサプライチェーンマネジメントとビジネスモデル構築方法論に関する研究」, 2001-2002年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Professor, WHU Otto Beisheim Graduate School of Management, teaching a MBA course, March-April, 2005
2. Visiting Professor, Operations Research Center, MIT, January-June, 1998.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Seven-Eleven Japan: SCM and Product Innovation, (Invited Tutorial), *The Third World Conference on Production and Operations Management*, August 2008, Tokyo. (他 5 編)

【9】 現在の研究活動

1. ハイテク産業, ファッション産業, 加工食品産業において, 商品短命化, 顧客嗜好の多様化, グローバル化等にどのようにサプライチェーンの構造を変革して対応すべきかを研究
2. 半導体製造業における, 最適なキャパシティネットワーク構築のためのオプション契約の研究
3. 在庫管理とスケジューリングの研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤嘱託社員, アドバイザー: ルネサステクノロジ(2003年-現在), 日立製作所(2000-2005年), 全日空(2004-2006年), その他
2. テキサス大学では, IBM, Dell Computer, Motorola, AMD, Applied Materials, Hewlett Packard, Frito-Lay 等とサプライチェーンマネジメントと工場管理についてのコンサルティング或いは共同研究に従事

みしなかずひろ
21. 三品和広

職名 教授

学位 Ph. D(ハーバード大学)(1989年)

生年 1959年

学歴

1982年3月 一橋大学商学部卒業

1984年3月 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了

1989年9月 ハーバード大学ビジネスエコノミクス博士課程修了

職歴

1989年9月 ハーバード大学ビジネススクール助教授

1995年10月 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究調査センター助教授

1997年4月 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科助教授

2002年10月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2004年10月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 経営戦略, 研究指導(昼間主), 経営学入門

大学院 (一般) 経営戦略研究, 演習

大学院 (MBA) ゼネラルマネジメント応用研究,
ケースプロジェクト研究, プロジェクト実習

学内役職

経営学研究科マネジメント・システム専攻長(2006年4月-2008年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『戦略不全の因果』, 東洋経済新報社, 2007年.
- 『経営戦略を問いなおす』, ちくま新書, 2006

年.

- 『経営学のフィールド・リサーチ』, 日本経済新聞社, 2006年, (小池和男他と共著).
- 『企業とガバナンス』, 有斐閣, 2005年, (伊丹敬之他と共著).
- 『経営は十年にして成らず』, 東洋経済新報社, 2005年, (編著).
- 『戦略不全の論理』, 東洋経済新報社, 2004年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「役員階からの展望：時機読解の戦略論」, 『組織科学』, 第42巻, 第3号, 2009年, 59-67.
- 「見えざる利益」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第56巻, 第1号, 2008年, 64-77.
- 「基本戦略と利益成長：日本企業 1,013社の実証分析」, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第3号, 2008年, 13-23.
- 「日本企業の長期利益：1960-1999」, 『国民経済雑誌』, 第193巻, 第5号, 2006年, 43-56.
- 「経営体制のライフサイクル」, 『組織科学』, 第39巻, 第4号, 2006年, 27-42.
- 「専門経営者の帝王学」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第52巻, 第2号, 2004年, 64-77.
- 「経営者を造り込む」, 『労政時報』, 第3587号-第3592号, 2003年.
- 『ハーバードビジネススクールにおけるFD』, IDE・現代の高等教育, 2003年, 52-55.
- 「日本型企業モデルにおける戦略不全の構図」, 『組織科学』, 第35巻, 第4号, 2002年, 8-19.
- 「企業戦略の不全症」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第50巻, 第1号, 2002年, 6-23.
- 「日本企業の競争力は低下したか」, 『エコノミクス』, 夏号, 東洋経済新報社, 2001年, 140-141.
- 「ジャストインタイム・マネジメントの道程—トヨタからTOYOTAへ—」, 『日本企業の経営行動 第2巻 企業家精神と戦略』, 有斐閣, 1998年, 144-167.
- 「『蓄積』対『組み合わせ』—日米比較の仮説」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第45巻, 第2号, 1997年, 75-83.
- 「モノ造りシステム」, 『経営学がわかる』, 朝日新聞社, 1997年, 91-94.

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Learning by Doing: in Markets, Firms, and Countries*, The University of Chicago Press, 1999, (co-authored with Naomi R. Lamoreaux, Daniel M. G. Raff and Peter Temin).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. The Collaborative Mindset in Action, in www.impm.org, IMPM, 2002.
2. Beyond Flexibility: Toyota's Robust Process-Flow Architecture, in Yannick Lung, Lean-Jacques Chanaron, Takahiro Fujimoto, and Daniel Raff(eds.), *Coping with Variety: Flexible Productive Systems for Product Variety in the Auto Industry*, Ashgate, Hampshire, England, 1999, 149-180.
3. Making Toyota in America: Evidence from the Kentucky Transplant, 1986-1994, in Robert Boyer, Elsie Charron, Ulrich Jurgens, and Steven Tolliday (eds.), *Between Imitation and Innovation: the Transfer and Hybridization of Productive Models in the International Automobile Industry*, Oxford University Press, 1998, 99-127.
4. A Misguided Trajectory?: Automatically Guided Vehicles in Auto Assembly, in Koichi Shimokawa, Ulrich Jurgens, and Takahiro Fujimoto (eds.), *Transforming Automobile Assembly: Experience in Automation and Work Organization*, Springer, Berlin, 1997, 344-359.

(他教材 16 編)

【3】 主要所属学会

1. 組織学会

【4】 学会における活動

1. 評議員：組織学会(2007-2011 年)
2. 編集委員：『組織科学』(2007-2011 年)

3. シニアエディター：『組織科学』(2006 年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 第 45 回エコノミスト賞(2005 年)
2. 第 21 回組織学会高宮賞(2005 年)
3. 第 5 回 BizTech 賞(2005 年)
4. ハーバード大学ビジネススクールプライズ賞(1988 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「名専門経営者の識別に向けた基礎研究」, 2005-2006 年

【7】 海外における研究・教育活動

1. ハーバード大学ビジネススクール助教授, 1989 年 9 月-1996 年 9 月
2. IMPM 日本モジュールディレクター, 2000-2004 年

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Making Things and Making Money, TOM Seminar, April 2008, ハーバード大学.

【9】 現在の研究活動

1. 「名専門経営者の識別に向けた基礎研究」: 日本の大企業 1013 社, 1960 年から 40 年間をカバーする業績データベースを構築し, 戦略が機能した企業と機能していない企業を識別し, それぞれの戦略と経営体制を検証する研究を行っている。

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本能率協会, 部長のためのエグゼクティブ・マネジメントコース主任講師(2006 年-現在)
2. 日本能率協会, マネジメントインスティテュート評議会副議長(2005 年-現在)

22. ^{はら}原 ^{たくじ}拓志

職名 教授

学位 Ph.D.(エディンバラ大学)(2001年)

生年 1962年

学歴

1985年3月 神戸大学経営学部卒業

1993年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

職歴

1985年4月 東洋紡績(株)入社

1990年2月 東洋紡績(株)退社

1993年4月 神戸大学経営学部助手

1996年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2004年11月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 工業経営, 研究指導(昼間主), 経営制度

大学院 (一般) 経営制度特論, 定性的方法論研究, 演習, 工業経営研究

大学院 (MBA) 現代経営学演習, テクノロジーマネジメント応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「研究アプローチとしての「技術の社会的形成」, 『年報 科学・技術・社会』, 第16巻, 2007年, 37-57.

2. 「医薬品の社会的形成」, 『日本経営学会誌』, 第8号, 2002年, 66-76.
3. 「企業における技術の形成」, 『科学技術社会論研究』, 第4号, 2006年, 43-53.

3. その他国内論文

1. 「日本企業の技術イノベーションー技術の社会的形成の視点からー」, 日本経営学会経営学論集, 第79集, 2009年, 5-16.
2. 「安全の社会的形成に関する予備的考察」, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第4号, 2008年, 31-44.
3. 「B-Bridgeのビジネスモデル」, 安室憲一・ビジネスモデル研究会編著『ケースブック ビジネスモデル・シンキング』, 文眞堂, 2007年, 79-90.
4. 「日本における欧米製薬企業: 歴史的概観」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第1号, 2007年, 91-107.
5. 「日本の製薬企業におけるイノベーション」, 日本経営学会経営学論集, 第77集, 2007年, 76-87.
6. 「バイオインフォマティクス時代の医薬品研究開発」, 『国民経済雑誌』, 第193巻, 第5号, 2006年, 57-72.
7. 「生命科学分野における日本のTLO」, 『国民経済雑誌』, 第190巻, 第4号, 2004年, 75-89.
8. 「イノベーションと『説得』ー医薬品の研究開発プロセス」, 『ビジネス・インサイト』, 第12巻, 第1号, 2004年, 20-33.
9. 「医薬品イノベーションの類型」, 『国民経済雑誌』, 第187巻, 第2号, 2003年, 85-103.
10. 「『IT』の社会的形成(序論的考察)」, 『国民経済雑誌』, 第184巻, 第1号, 2001年, 53-70.
11. 「技術変化の道筋」, 『国民経済雑誌』, 第180巻, 第2号, 1999年, 77-88.
12. 「日本の医薬品産業における技術変化」, 『研究年報』, 第43巻, 1997年, 157-175.
13. 「日本の製薬企業における技術変化」, 『国民経済雑誌』, 第175巻, 第5号, 1997年, 79-91.
14. 「産業の技術軌道と企業の技術伝統: 日本における抗生物質および合成抗菌剤の開発」, 『研究年報』, 第42巻下巻, 1996年, 175-204.
15. 「塗料工業における技術革新」, 『研究年報』, 第42巻上巻, 1996年, 163-190.
16. 「化学産業における技術変化: 塗料企業の事例からの考察」, 『研究年報』, 第41巻, 1995年, 157-200.

(他学術論文10編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008,(co-authored and co-edited with Norio Kambayashi, Noboru Matsushima).
2. *Innovation in the Pharmaceutical Industry: The Process of Drug Discovery and Development*, Edward Elgar, 2003.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Innovation Management of Japanese Pharmaceutical Companies: the Case of an Antibiotic Developed by Takeda, *International Journal of Technology Management*, Vol. 30, No. 3/4, 2005, 351-364.

3. その他海外論文

1. Technology Transfer in Pharmaceuticals: the Case of an Antibiotic in Japan, *Asia Pacific Tech Monitor*, Vol.22, No.6, 2005, 27-32.
2. Pharmaceutical Innovation: Too Important for the Private Sector? (Book Review), *Metascience*, Vol. 14, No. 1, 2005, 89-93.

【3】 主要所属学会

1. 日本経営学会
2. 組織学会
3. 企業家研究フォーラム
4. 科学技術社会論学会
5. Academy of Management
6. Society for Social Studies of Science
7. 工業経営研究学会

【4】 学会における活動

1. 理事：企業家研究フォーラム(2009年-現在)
2. 幹事：企業家研究フォーラム(2002-2009年)日本経営学会(1995-1998年, 2004年-現在)
3. 部会幹事：日本経営学会(1998-2004年)
4. 編集委員：日本経営学会誌(2006年-現在)
5. レフェリー：日本経営学会誌, 組織科学, 日本ベンチャー学会誌

6. 学会賞審査委員：日本経営学会(2008年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金:基盤研究(C),「高度技術システムの安全確保のためのテクノロジーマネジメントの研究」, 2007-2009年.
2. 文部科学省科学研究費:基盤研究(C)(2),「バイオインフォマティクス時代における医薬品開発に関する調査及び研究」, 2003-2005年
3. 文部省科学研究費:奨励研究(A),「日本の医薬品工業における技術革新の分析」, 1996年
4. 文部省科学研究費:奨励研究(A),「日本の化学工業経営における技術変化と技術管理」, 1995年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Ph.D. Programme in Sociology: The University of Edinburgh, 1998-2001

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 安全の社会的形成に関わる研究。
2. バイオメディカル分野におけるイノベーションに関する社会学的研究。
3. バイオクラスターの形成と変化に関する研究。
4. 各種製造業におけるテクノロジーマネジメント一般に関わる研究。
5. イノベーションの理論に関する研究。

【10】 社会活動・実務経験

1. 兵庫地方最低賃金審議会委員(2009年-現在)
2. 非常勤講師:関西大学(2007年-現在), 甲南大学(2006-2007年), 神戸女子短大(2001-2002年)
3. 関西生産性本部「技術経営」交流研究会幹事(2004年-現在)
4. 化学工場での労務管理(1985-1990年)

みなみ ちえこ
23. 南 知恵子

職名 教授

学位 博士(商学)(神戸大学)(1998年)

生年 1960年

学歴

1984年3月 神戸大学文学部卒業

1988年6月 米国ミシガン州立大学大学院コミュニケーション学科修士課程修了

1992年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

1993年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程退学

職歴

1984年4月 神戸大学経済学部助手

1986年10月 大阪外国語大学留学生別科非常勤講師

1993年4月 横浜市立大学商学部専任講師

1994年4月 横浜市立大学助教授

1996年4月 横浜市立大学大学院経営学研究科助教授

2002年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2004年12月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 研究指導(昼間主), 消費者行動論,
市場システム特殊講義(消費者行動)

大学院(一般) 演習, 定性的方法論研究

大学院(MBA) マーケティング応用研究,
プロジェクト研究, 現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『生産財マーケティング』, 有斐閣, 2006年, (高

嶋克義と共著).

2. 『顧客リレーションシップ戦略』, 有斐閣, 2006年.

3. 『リレーションシップ・マーケティング—企業間における関係管理と資源移転—』, 千倉書房, 2005年.

4. 『ギフト・マーケティング 儀礼的消費における象徴と互酬性』, 千倉書房, 1998年.
(他2編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「ファッション・ビジネスの論理—ZARAに見るスピードの経済—」, 『流通研究』, 第6巻, 第1号, 2003年, 31-42.

3. その他国内論文

1. 「ZARAのSPA戦略とグローバル化」, 向山雅夫, 崔相鐵編著, 『小売企業の国際展開』所収, 中央経済社, 2009年, 181-204.

2. 「インターナル・アウトソーシングと内部市場戦略 —キリンビジネスシステムのケース—」, 『季刊マーケティング・ジャーナル』, 第112号, 2009年, 2-17, (吉田満梨, 依田祐一との共著).

(他38編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The New Role of Call Centres for Manufacturers, *The Marketing Review*, Vol.9, No.2, 2009, 115-126.

2. The CRM process in retail and service sector firms in Japan: Loyalty development and financial return, *Journal of Retailing and Consumer Services*, Vol.15 (5), 2008, 375-385, (co-authored with John Dawson).

3. その他海外論文

1. New Roles of Inter-firm Relationships in Service Development: The Case of the Japanese ICT Industry, *Proceedings for The 2009 Naples Forum on Service: Service-Dominant Logic, Service Science, and Network Theory, EIASM*, 2009, 1-22, (co-authored with Kenichi Nishioka).

(他 6 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. The Academy of Marketing Science
4. Academy of Marketing
5. 組織学会

【4】 学会における活動

1. 代表理事：日本商業学会関西支部(2008年-現在)
2. エリアエディター：日本消費者行動研究学会学会誌『消費者行動研究』(2008年-現在)
3. 国際交流委員長：日本商業学会(2006年-現在)
4. 幹事：日本商業学会関西支部(2006年-現在)
5. 理事：日本消費者行動研究学会(2006年-現在), 日本商業学会関東支部(2000-2001年)
6. 年報刊行委員：日本商業学会(1996-1997年)
7. レフェリー：組織科学

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本商業学会賞奨励賞(1999年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「ソリューションビジネスにおける顧客関係管理の有効性」, 2009-2011年
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「流通企業の顧客関係構築戦略と組織学習プロセスに関する研究」, 2006-2007年
3. 文部省科学研究費：基盤研究(C), 「法人対応マーケティングにおける組織型営業戦略」, 1999-2000年

(他 4 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. 英国エディンバラ大学訪問研究員(2005年3月-2006年2月 文部科学省海外派遣)
2. 英国エディンバラ大学訪問研究員(2001年6月-8月)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. “The effect of service-oriented R&D activities on inter-firm relationships: a longitudinal case study of the Japanese telecom industry,” *Academy of Marketing, Annual Conference*, UK, (co-authored with Kenichi Nishioka and John Dawson), 2009.
2. CRM Strategy in Retail Firms in Japan, *15th Annual Conference of EIRASS (European Institute of Retailing and Services Sciences)*, July 2008, Zagreb, Croatia.
3. New Roles of Call Centres for Manufactures, *Academy of Marketing, Annual Conference*, July 2008, Aberdeen, UK.

(他 3 件)

【9】 現在の研究活動

1. CRM 及びリレーションシップ・マーケティングに関する実証研究
2. サービスイノベーション政策に関する国際共同研究(内閣府経済社会研究所受託研究)
3. 日本版 CSI(customer satisfaction index)モデル開発及び企業への導入成果に関する研究(サービス産業生産性協議会, 経済産業省受託研究)

【10】 社会活動・実務経験

1. 神戸市水道局審議会委員(2009年-現在)
 2. 大阪市経済局中小企業対策審議会委員(2006年-現在)
 3. 日本マーケティング協会『マーケティングジャーナル』編集委員(2006年-現在)
 4. 中外製薬研究倫理委員会委員(2002年-現在)
- (他, 兵庫県, 神奈川県, 東京都, 神戸市, 横浜市, 藤沢市, 審議会委員 8 件)

かんばやし のりお
24. 上林憲雄

職名 教授

学位 Ph. D. (ウォーリック大学)(2000年)
博士(経営学)(神戸大学)(2003年)

生年 1965年

学歴

1989年3月 神戸大学経営学部卒業
1991年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1992年7月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学
1999年9月 英国ウォーリック大学大学院ドクター
プログラム修了

職歴

1992年7月 神戸大学経営学部助手
1994年4月 神戸大学経営学部講師
1994年8月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 人的資源管理, 研究指導(昼間主)
大学院 (一般) 経営制度特論, 定性的方法論研究,
演習, 人的資源管理研究
大学院 (MBA) 現代経営学演習, 人材マネジメント
応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. ジョン・ブラットン, ジェフリー・ゴールド著
『人的資源管理 一理論と実践一(第3版)』, 文真
堂, 2009年, (原口恭彦他2名と翻訳・監訳).

2. 『経験から学ぶ経営学入門』, 有斐閣, 2007年,
(奥林康司他4名と共著).
3. 『異文化の情報技術システム』, 千倉書房, 2001
年. (他1冊)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「情報技術と社会的コンテクスト—ビジネス・
プロセス・リエンジニアリング論再考—」, 『日
本労務学会誌』, 第2巻, 第2号, 2000年, 1-12.
2. 「情報技術の利用形態とナショナル・カルチャ
ー—作業組織の日英比較—」, 『日本経営学会誌』,
第4号, 1999年, 61-73.
3. 「ME 化職場における現場作業者の職務内容と
管理システム」, 『大原社会問題研究所雑誌』, 第
440号, 1995年, 1-15.

3. その他国内論文

1. 「人事労務管理から人的資源管理へ?—日本型
人事の回顧と展望」『JSHRM Insights』(日本人材
マネジメント協会, vol. 50 記念号), 2009年, 9-14.
(他学術論文54編, 解説・書評等11編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008,
(co-edited/authored with Takuji Hara and Noboru
Matsushima).
2. *Management Education in Japan*, Chandos
Publishing, 2007(co-authored with Masaya Morita
and Yoko Okabe).
3. *Cultural Influences on IT Use: A UK-Japanese
Comparison*, Palgrave Macmillan, 2002.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Culture-specific IT use in Japanese factories, *Asian
Business & Management Journal*, Vol. 3, No. 2,
2004, 241-262.
2. Cultural influences on IT use amongst factory
managers: a UK-Japanese comparison, *Journal of
Information Technology*, Vol.16, No.4, 2001,
221-236, (co-authored with Harry Scarbrough).

3. その他海外論文

1. Changes in Organisational Structure and New Development in Personnel Management, *Journal of Japanese Economic Studies*, Vol.23, No.5, 1995, 74-96.
2. New Forms of Management Organisation under New Technology: Empirical Evidence from Japanese Manufacturing Companies, *Journal of Management*, Vol.3, No.1, 1996, 17-27.

【3】 主要所属学会

1. 日本労務学会
2. 日本経営学会
3. 組織学会
4. 経営学史学会

【4】 学会における活動

1. 代表理事：日本労務学会(2009年-現在)
2. 常任理事：日本労務学会(2005-2007年)
3. 理事：日本労務学会 (2003-2007年), 現代経営学研究所 (2004-2006年度)
4. 大会プログラム委員長：日本労務学会(2006年)
5. 幹事：日本労務学会 (1993-2000年), 日本経営学会 (1998-2004年, 2009年-現在)
6. 部会幹事：日本経営学会関西部会 (1992-1998年, 2004-2008年)
7. 日本経営学会国際交流委員 (2002年-現在)
8. 日本経営学会学会誌編集委員(2006年-現在)
9. 日本労務学会大会プログラム委員 (2003年, 2009年)
10. 学会誌等編集委員：『国民経済雑誌』, 『日本経営学会学会誌』 (2006年-現在), 『日本労務学会誌』 (2007年-現在)
11. 学会賞審査委員長：日本労務学会賞研究奨励賞 (2005-2006年), 同学術賞(2008-2009年)
12. レフェリー：『組織科学』, 『日本労務学会誌』, 『日本経営学会誌』, 『国民経済雑誌』, 『ビジネス・インサイト』, 『日本労働研究雑誌』, ICIS 2003 World Conference (B2B e-marketplace track), *Asian business & Management*.

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本労務学会賞・学術賞(2002年)

2. 日本労務学会賞・研究奨励賞(1996年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金：基盤研究(B), 「日本型HRMシステム」モデルの探求, 2008-2012年. (他5件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Ph.D. programme student: Warwick Business School, University of Warwick, UK, 1996-1999. (他3件)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Job characteristics of in-house coordinators: a comparative survey between Europe and Japan, ETCO(欧州移植コーディネータ協会会議)年次大会, 2007年2月, プラハ.

【9】 現在の研究活動

1. 日本型人的資源管理システムに関する研究
2. 日本企業におけるワーク・ライフ・バランス導入・推進の方途について

【10】 社会活動・実務経験

1. 厚生労働省「高年齢者・障害者雇用対策関係委託事業委員会」評価委員(2007年-現在)
2. 金融庁：公認会計士試験 第2次試験委員(2009年-現在)
3. 関西経営者協会・連合「ワーク・ライフ・バランス研究会」主査(2007年)
4. 関西経営者協会「技能継承問題」調査委員(2007年)
5. 兵庫県「多様な働き方検討会」座長(2005-2007年), 「ワーク・ライフ・バランス研究会」座長(2008年-現在)
6. 神戸市「男女共同参画推進会議」委員(2008年-現在)
7. 非常勤講師：関西大学会計専門職大学院(2010年-現在), 関西大学経済学部, 甲南大学経営学部(2009年-現在), 関西学院大学大学院商学研究科・商学部(2002年-現在), 岡山商科大学商学部(2002-2005年), 甲南大学EBAコース(2005-2008年) (他7件)

25. ^{はらだ つとむ}原田 勉

職名 教授

学位 Ph.D.(スタンフォード大学)(1997年)
博士(経営学)(神戸大学)(2000年)

生年 1967年

学歴

1989年3月 一橋大学商学部卒業
1991年3月 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
1994年9月 一橋大学大学院商学研究科博士課程退学
1997年4月 スタンフォード大学大学院経済学部博士課程修了

職歴

1997年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2008年度)

学 部 戦略マネジメント, 外国書講読(昼間主),
研究指導(昼間主)
大学院 (一般) 演習, 戦略マネジメント特殊研究,
戦略マネジメント研究
大学院 (MBA) プロジェクト研究, 現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『汎用・専用技術の経済分析-新たなイノベーション・モデルの構築-』, 白桃書房, 2007年.
- 『ケース演習でわかる 技術マネジメント』, 日本経済新聞出版社, 2007年.
- 『実践力を鍛える 戦略ノート[企業価値評価

編]』, 東洋経済新報社, 2007年.

- 『実践力を鍛える 戦略ノート[マーケティング編]』, 東洋経済新報社, 2006年.
- 『MBA 戦略立案トレーニング』, 東洋経済新報社, 2003年.
- 『ケースで読む 競争逆転の経営戦略』, 東洋経済新報社, 2000年.
- 『知識転換の経営学』, 東洋経済新報社, 1999年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「日本におけるITの経済的効果とパラドクス」, 『経済研究』, 第55巻, 第4号, 2004年, 299-312.
- 「ITの利用形態と組織能力の活用」, 『組織科学』, 第37巻, 第2号, 2003年, 49-61.
- 「技術吸引能力仮説の再検討: 旧技術によるスピルオーバー効果」, 『組織科学』, 第36巻, 第2号, 2002年, 64-90.
- 「コミュニケーション・ネットワークと相互作用による学習: ネットワーク・インターフェイスにおける知識転換」, 『ビジネス・レビュー』, 第46巻, 第4号, 1999年, 49-68.
- 「境界連結活動における学習効率性」, 『ビジネス・インサイト』, 第7巻, 第2号, 1999年, 100-116.
- 「技術革新プロセスにおける情報フロー媒介性の検討: ネットワーク中心性再考」, 『経営行動科学』, 第13巻, 第1号, 1999年, 33-42.
- 「研究開発組織における3段階のコミュニケーション・フロー: ゲートキーパーからトランスフォーマーへ」, 『組織科学』, 第32巻, 第2号, 1998年, 78-96.
- 「汎用・専用技術の相互浸透: インターフェイス知識の蓄積」, 『組織科学』, 第31巻, 第4号, 1998年, 93-111.

3. その他国内論文

- 「情報化、ネットワーク化における技術普及とその決定要因」, 『国民経済雑誌』, Vol. 195, No. 2, 2007年, 95-114.
- 「シュンペーター的企業の条件—メタ組織論へのいざない」, 『中小公庫マンスリー』, Vol. 54, No. 6, 2007年, 6-13.

(他学術論文18編, 解説・書評等2編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “The Division of Labor in Innovation between General Purpose Technology and Special Purpose Technology”, Journal of Evolutionary Economics (DOI: 10.1007/s00191-009-0165-5).
2. “Three Steps in Knowledge Communication: The Emergence of Knowledge Transformers”, Research Policy, 2003, Vol. 32, Issue 10, 1737-1751.

3. その他海外論文

1. Japanses Puzzle, in A.Arora, R.Landan and N.Rosenberg (eds.), Chemicals and Long-term Economic Growth, Wiley-Interscience, 1998, 103-135.

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 中小企業学会
3. 日本経済学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: 組織科学, ビジネス・インサイト, 経済科学, 国民経済雑誌, 日本経営学会誌(2008年), International Journal of Technology Management(2009年), Economics of Innovation and New Technology (2009年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 組織学会・高宮賞 著書部門(2000年)
2. 経営科学文献賞・奨励賞(2000年)
3. 日本ナレッジ・マネジメント学会・研究奨励賞(2000年)
4. 組織学会・高宮賞 論文部門(1999年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 稲盛財団, 1998年
2. 社会経済生産性本部, 1997年

【7】 海外における研究・教育活動

1. ハーバード大学ケネディスクール客員研究員(2006年1月-2006年6月)
2. ハーバード大学国際問題研究所フルブライト研究員(2004年10月-2005年7月)
3. INSEAD 客員研究員(2003年12月-2004年10月)

【8】 国際学会における発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 技術的変化の方向と頻度がどのような要因によって規定され、それが経済成長や社会厚生にどのような影響を与えているのか、についての理論的モデル構築。
2. 研究開発組織における技術マネジメント, 特に, タスク分化, 確率管理という観点からの技術マネジメント論の体系化・実証研究。
3. 上記2の観点からの組織論構築。

【10】 社会活動・実務経験

1. 関西情報・産業活性化センター「e-Kansai レポート」委員会主査(2009年7月-現在)
2. 日本経営協会「MOT 研究会」コーディネーター(2009年6月-現在)
3. 関西経営品質賞判定委員会副委員長(2003年10月-現在)
4. 関西生産性本部「関西経営品質協議会」企画実践委員会副委員長(2001年-現在)
5. 日本学術振興会産業構造中小企業第118委員会委員(1999年-現在)
6. 科学技術庁科学技術政策研究所客員研究官(1998-1999年)

26. ^{くつなけんじ} 忽那憲治

職名 教授

学位 博士(商学)(大阪市立大学)(1997年)

生年 1964年

学歴

1989年3月 大阪市立大学商学部卒業

1991年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科前期博士課程修了

1994年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程単位修得退学

職歴

1992年4月 日本証券経済研究所大阪研究所研究員

1995年4月 大阪市立大学経済研究所講師

1997年4月 大阪市立大学経済研究所助教授

2002年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 金融市場, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 演習

大学院 (MBA) ベンチャー起業応用研究,
ベンチャーファイナンス応用研究,
現代経営学応用研究(アントレプレナー
ファイナンス), 現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『IPO市場の価格形成』, 中央経済社, 2008年.
- 『テキスト ライフサイクルから見た中小企業論』, 同友館, 2007年, (安田武彦, 高橋徳行, 本庄裕司と共著).
- 『ベンチャーキャピタル ハンドブック』, 中

央経済社, 2006年, (長谷川博和, 山本一彦と共編著).

- 『日本の新規開業企業』, 白桃書房, 2005年, (安田武彦と共編著).
- 『日本のベンチャー企業—アーリーステージの課題と支援—』, 日本経済評論社, 1999年, (山田幸三, 明石芳彦と共編著).
- 『中小企業金融とベンチャー・ファイナンス—日・米・英の国際比較—』, 東洋経済新報社, 1997年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「高成長中小企業の輩出のための支援制度—大阪商工会議所の取り組み—」, 『商工金融』, 第58巻, 第5号, 2008年, 4-21.
- 「IPO市場のアンダープライシング現象と価格決定方式」, 『証券アナリストジャーナル』, 第45巻, 第9号, 2007年, 35-44.
- 「新規株式公開における企業価値評価—ブックビルディング方式における公開価格決定プロセスと初期収益率—」, 『ビジネス・インサイト』, 第12巻, 第2号, 2004年, 44-57.

(他論文84編, 書評3編, 翻訳2編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Public Information, IPO Price Formation, and Long-run Returns: Japanese Evidence, *Journal of Finance*, Vol.64, No.1, 2009, 505-546, (co-authored with Smith, J.K. and Smith, R.).
- Why Are IPOs Underpriced? Evidence from Japan's Hybrid Auction-Method Offerings, *Journal of Financial Economics*, Vol.85, No.3, 2007, 637-666, (co-authored with Kerins F. and Smith R.).
- Banking Relationships and Access to Equity Capital Markets: Evidence from Japan's Main Bank System,

Journal of Banking and Finance, Vol.31. No.2.
2007, 335-360, (co-authored with Smith, J.K. and
Smith, R.).

4. Why Does Book Building Drive Out Auction
Methods of IPO Issuance? Evidence from Japan,
Review of Financial Studies, Vol.17, No.4, 2004,
1129-1166, (co-authored with Smith R.)

(他論文 4 編)

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本ファイナンス学会
3. 証券経済学会
4. 日本ベンチャー学会
5. 企業家研究フォーラム
6. American Finance Association
7. Financial Management Association

【4】 学会における活動

1. 理事：日本ベンチャー学会(2006年-現在), 証券
経済学会(2007年-現在), 企業家研究フォーラム
(2009年-現在)
2. 雑誌編集委員：企業家研究(2002年-現在), 証券
経済学会年報(2001-2005年), 日本ベンチャー学
会誌ベンチャーズレビュー(2005年-現在),
Venture Capital(2000年-現在)
3. レフェリー：Journal of International Money &
Finance, Venture Capital, Asia-Pacific Financial
Markets, 日本ベンチャー学会誌ベンチャーズレ
ビュー, 企業家研究, 証券経済学会年報, 国民
経済雑誌, Review of Finance, The Japanese
Economic Review, Japan and the World Economy
4. 学会賞審査委員：日本ベンチャー学会(清成忠男
賞)(2008年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 第1回企業家研究フォーラム賞(論文の部)(2007
年7月)
2. 商工総合研究所・平成17年度中小企業研究奨励
賞本賞受賞(2006年2月)

(他 4 件)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(B), 「未公開企業
に対する銀行行動の決定要因とその影響に関
する計量分析」, 2007-2010年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Warwick Business School, Centre for Small and
Medium-sized Enterprises, Visiting Scholar, 1998.
2. Claremont Graduate University, Peter F. Drucker
and Masatoshi Ito Graduate School of Management,
Visiting Scholar, 2006-2007.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 未公開企業に対する銀行行動：銀行の融資行動
は、未公開企業と公開企業とではどのように異
なっているかについて実証分析を実施する。
2. 成長企業の特徴：会社設立後短期間で急成長を
とげる企業はどのような特徴を持っているか
について実証分析を実施する。
3. ベンチャーキャピタルの投資行動：新産業領域
で急成長企業を輩出するために、ベンチャーキ
ャピタルが果たすべき役割が何かについて実
証分析を実施する。

【10】 社会活動・実務経験

1. 中小企業基盤整備機構「ベンチャーファンド
出資事業評価・検討委員会」委員(2007年2月
-現在)
2. 経済産業研究所「NTBFs研究会」委員(2008年
2月-2009年12月)
3. 大阪商工会議所「大商EVEシステム」審査委
員会座長(2005年4月-現在)
4. 大阪商工会議所「ベンチャー振興委員会委員」
副委員長(2003年1月-現在)
5. 国民生活金融公庫総合研究所研究顧問(2004年
4月-2005年3月)

(他多数)

すえひろひでお
27. 末廣英生

職名 教授

学位 Ph.D.(スタンフォード大学)(1989年)

生年 1956年

学歴

1979年3月 神戸大学経済学部卒業

1981年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了

1982年9月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1982年10月 神戸大学経営学部助手

1985年10月 神戸大学経営学部講師

1989年11月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2005年10月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), ゲーム理論,
経営数学入門, 市場システム特殊講義
(市場科学の方法), 経営学入門

大学院 (一般) 演習, ゲーム理論研究, 決定分析特
殊研究(ゲーム理論), 方法論特殊研
究(論文作成セミナー),
市場システム特別研究

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「シグナリング・ゲーム実験における均衡と均衡化」, 『国民経済雑誌』, 第196巻第6号, 2007年, 45-65.
2. 「交替手番によるスロット・マシーン問題: 熟練プレイヤーと未熟練プレイヤーの場合」, 『国民経済雑誌』, 第193巻, 第2号, 2006年, 51-74.
3. 「事前の仕事割り当て問題」, 『国民経済雑誌』, 第189巻, 第5号, 2004年, 81-98.
4. 「チェーンストア・パラドックスとは何か」, 『国民経済雑誌』, 第188巻, 第1号, 2003年, 49-79.
5. 「あるスロットマシーン問題のグループによる解決」, 『国民経済雑誌』, 第186巻, 第5号, 2002年, 29-50.
6. 「リーダーシップが生まれるとき」, 『国民経済雑誌』, 第183巻, 第3号, 2001年, 65-85.
7. 「逐次合理性をめぐる諸問題」, 『国民経済雑誌』, 第179巻, 第4号, 1999年, 35-50.
8. 「意思決定構造と組織のパフォーマンス」, 伊藤秀史編, 『日本の企業システム』, 東京大学出版会, 1996年, 117-149.

(他学術論文11編, 解説・書評等2編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Emergence of Leadership in Teams, *The Japanese Economic Review*, Vol.56, No.3, 2005, 295-316, (co-authored with Hajime Kobayashi).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. The Econometric Society
3. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: *International Economic Review*, *Japanese Economic Review*, 組織科学

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「情報とリーダーシップのゲーム理論的研究」, 2009-2012 年度
2. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「リーダーシップ発生のゲーム実験研究」, 2006 年度
3. 松下国際財団, 1995 年度
4. 日本経済研究奨励財団奨励金, 1993 年度
5. Postdoctoral Research Fellowship, Tilburg University, Holland, 1991-1992
6. 学術振興野村基金, 1991 年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. Postdoctoral Research Fellow: Tilburg University, Holland, 1991-1992
2. Visiting Scholar: Delta, France, 1996-1997

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Leadership by Confidence in Teams, *Econometric Society, European Meeting*, Milan 2008.

【9】 現在の研究活動

1. 「展開型ゲームにおける均衡選択の研究」(ディスカッション・ペーパー): 展開型ゲームの均衡の精緻化の分野では, これまで, 人々が1つの均衡理解に沿って行動している場合を想定して, 人々の行動を予測・説明しようとしてきた。しかし, 行動原理の異なる人々が混在する状況で, 各人が固有の行動原理をとりうることを示した。
2. 「メカニズムデザイン・アプローチによる階層組織とチーム設計の研究」(Nahum Melumad(コロンビア大学)との共著ディスカッション・ペーパー): 階層構造の下でのチーム・マネジメント

にとって, チームのマネージャーの選択が重要であることは誰もが認識しているが, その選択基準についての研究は意外にない。個人のチーム価値への貢献度がその選択基準となることを示した。

3. 「チームにおける, 自信に基づくリーダーシップの研究」(日本経済学会 2006 年度春期大会招待セッションでの“Leadership by Confidence”の研究発表, 共同研究者小林創, 発表者小林創): 自発的リーダーシップ行動の要因は, 実証研究はあるが, 理論研究がほとんどない。チーム生産に関する私的部分情報がある下での動学チーム生産ゲームの Cho-Kreps 安定均衡を研究し, 一定の条件の下で, チーム生産性に関して楽観的見通し, 自信のあるプレーヤーが自発的に行動してリーダーの役割を果たすことを示した。
4. 「チームにおける, 自信に基づくリーダーシップの実験研究」: チーム生産に関する私的部分情報がある下での動学的チーム生産ゲームを実験室実験し, チーム生産性に関して楽観的見通し, 自信のあるプレーヤーが自発的にリーダーの役割を果たすという理論予測を裏付けた。

【10】 社会活動・実務経験

なし

28. ^{ひらの みつとし}平野光俊

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1998年)

生年 1957年

学歴

1980年3月 早稲田大学商学部卒業

1994年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

1998年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1980年4月 ジャスコ(現イオン)株式会社入社

1996年4月 近畿カンパニー人事教育部長

2000年3月 本社経営企画室次長

2002年3月 同 退職

2002年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 経営システム特殊講義(人事制度設計),
経営制度, 研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 戦略的人的資源管理特殊研究, 演習

大学院 (MBA) 人材マネジメント応用研究,
現代経営学演習, 現代経営学応用研
究(人材マネジメント)

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『日本型人事管理—進化型の発生プロセスと
機能性—』, 中央経済社, 2006年.

2. 『フラット型組織の人事制度』, 中央経済社,
2004年, (奥林康司との共編著).

3. 『キャリア開発と人事戦略』, 中央経済社, 2004
年, (奥林康司との共編著).

4. 『キャリア・ドメイン—ミドル・キャリアの分
化と統合—』, 千倉書房, 1999年.

5. 『キャリア・ディベロップメント—その心理的
ダイナミクス—』, 文眞堂, 1994年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「非正規労働者の質的基幹化と組織の境界—
分業モデルの構築—」, 『日本労務学会誌』, 第
10巻, 第1号, 2008年, 17-30, (朴弘文との
共著).

2. 「自律型キャリア発達と人的資源管理改革」,
『産業カウンセリング研究』, 第7巻, 第2号,
2005年, 1-12.

3. 「キャリア発達の視点から見た社員格付け制
度の条件適合モデル—職能資格制度と職務等
級制度の設計と運用の課題—」, 『経営行動科
学』, 第17巻, 第1号, 2003年, 15-30.

3. その他国内論文

1. “Knowledge Combination and Value-Creation
Mechanism under the Japanese-Style Career
System”, *Japan Labor Review*, Vol.16, No.3, 2009,
95-114, (co-authored with Y. Uchida and R.
Suzuki).

2. 「内部労働市場における雇用区分の多様化と
転換の合理性—人材ポートフォリオ・システム
からの考察—」, 『日本労働研究雑誌』, 第51巻,
第5号, 2009年, 5-19.

3. “Theoretical and Empirical Studies about the
Concept of the Human Resource Portfolio Model”,
*Tokyo Meeting for ESRI International
Collaboration Projects 2007 Report*, 2008, 17-51.

4. 「仕事のモジュール化とスキル評価—IT企業2
社の事例研究—」, 『日本労働研究雑誌』, 第50
巻第8号, No. 577, 2007年, 17-28, (千田直毅・
朴弘文との共著).

5. 「日本的キャリアシステムの価値創造のメカ
ニズム」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第56巻第
1号, 2007年, 76-92, (内田恭彦・鈴木竜太と
の共著).

6. 「人材ポートフォリオの動的・個別的マネジ
メント—HRM方針と非典型労働者の態度のギャ
ップの経験的考察—」, 『国民経済雑誌』, 第

197 巻第 3 号, 2007 年, 25-48.
(他学術論文 12 編, 書評 3 編, 報告書 11 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Japanese-Style Career System and Its Functionality, *IL Politico(Univ. Pavia, Italy)*, ANNO LXXIII, No.2, Oct 2008, 203-220.

【3】 主要所属学会

1. 日本労務学会
2. 経営行動科学学会
3. 日本産業カウンセリング学会
4. 組織学会
5. 日本経営学会
6. 日本キャリアデザイン学会

【4】 学会における活動

1. 副会長: 経営行動科学学会(2008 年-現在)
2. 常任理事: 日本労務学会(2007 年-現在)
3. 編集委員: 日本労務学会誌(2004-2005 年), 組織科学シニア・エディター(2007 年-現在), 日本労働研究雑誌, Japan Labor Review, 経営行動科学(2008 年-現在)
4. 編集委員長: 日本労務学会誌(2005-2006 年), 経営行動科学学会編『経営行動科学ハンドブック』(2008 年-現在)
5. 経営行動科学学会優秀研究賞審査委員(2008 年)
6. レフェリー: 日本労働研究雑誌, 組織科学, 日本労務学会誌, 経営行動科学, 日本経営学会誌, キャリアデザイン研究

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 労働政策研究研修機構・労働関係図書優秀賞(2006 年)
2. 日本労務学会・学術賞(2006 年)
3. 経営行動科学学会・優秀研究賞(2006 年)
4. 日本産業カウンセリング学会・学術賞(論文賞)(2006 年)
5. 日本労務学会・研究奨励賞(1996 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C)(2), 「日本企業の人的資源管理における個人情報への非対称性と粘着性に関する調査及び研究」, 2003-2005 年
2. 帝人奨学寄付金, 2004-2005 年
3. コープ流通企業研究奨学寄付金, 2005-2006 年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Researcher: Pavia University, Italy, 2007

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Dynamic Capabilities in Human Resource Management in Japan, *Simposio "Giappone ed Europa" a Università degli Studi di Pavia*, October 2007, Pavia University.

【9】 現在の研究活動

1. 人事管理, 組織コーディネーション, 事業戦略の補完的關係に着眼した事例・質問票調査から, 日本型人事管理の進化形態とその機能性を探求している。
2. 多元化する雇用区分および区分間の転換を可能にする雇用システムの事例・質問票調査から, 機能的な人材ポートフォリオを探求している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 経済産業省「産学連携人材育成事業(「人材マネジメント型企業変革リーダー育成プログラム開発・実証委員会」委員)(2008 年-現在)
2. NPO 法人現代経営学研究所(RIAM)常務理事(2005 年-現在)
3. 日本学術振興会経営問題第 108 委員会委員(2002 年-現在)
4. 内閣府国際共同研究委員(2007 年)

こずみひでお
29. 古澄英男

職名 教授

学位 博士(経済学)(神戸大学)(2000年)

生年 1967年

学歴

1990年3月 神戸大学経済学部卒業

1992年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士前期課程修了

1994年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程中退

職歴

1994年4月 北海道大学経済学部講師

1997年4月 北海道大学経済学部助教授

2000年4月 北海道大学大学院経済学研究科助教授

2004年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 経営統計, 経営数学入門, 経営学演習
研究指導(昼間主), 情報基礎

大学院(一般) 統計の方法論研究, 演習,
統計の決定研究, 経営統計研究

大学院(MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

『確率と統計-基礎と応用』, 朝倉書店, 2003年, (木村俊一, 鈴川晶夫と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「ディリクレ過程事前分布を用いた構造変化のベイズ分析」, 和合 肇 編『ベイズ計量経済分析—マルコフ連鎖モンテカルロ法とその応用』, 2005年, 235-258.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Bayesian and non-Bayesian analysis of gamma stochastic frontier models by Markov chain Monte Carlo methods, *Computational Statistics*, Vol.20, No.4, 2005, 575-593, (co-authored with Zhang, X.).
2. Posterior analysis of latent competing risk models by parallel tempering, *Computational Statistics and Data Analysis*, Vol.46, No. 3, 2004, 441-458.
3. Estimation of Lorenz curves: A Bayesian nonparametric approach, *Journal of Econometrics*, Vol.115, No.2, 2003, 277-291, (co-authored with Hasegawa, H.).
4. A Bayesian analysis of endogenous switching models for count data, *Journal of the Japan Statistical Society*, Vol.32, No.2, 2002, 141-154.
5. Bayesian analysis on Engel curves estimation with measurement errors and an instrumental variable, *Journal of Business & Economic Statistics*, Vol.19, No.3, 2001, 292-298, (co-authored with Hasegawa, H.).
6. A Bayesian analysis of discrete survival data with a hidden Markov chain, *Biometrics*, Vol.56, No.4, 2000, 1002-1006.
7. A Bayesian analysis of structural changes with an application to displacement effect, *Manchester School*, Vol.68, No.4, 2000, 476-490, (co-authored with Hasegawa, H.).
8. Testing for negativity in a demand system: A Bayesian approach, *Empirical Economics*, Vol.24, No.2, 1999, 211-223, (co-authored with Hasegawa, H., Hashimoto, N).

(他数編)

3. その他海外論文

1. A Bayesian semiparametric analysis of ARCH models, in E.J. Dockner, et al. (eds.), *Optimization, Dynamics and Economic Analysis: Essays in Honor of Gustav Feichtinger*, Springer, 2000, 389-400, (co-authored with Polasek, W.).
2. Irregularly spaced AR (ISAR) models, in C.Hayashi, et al. (eds.), *Data Science Classification and Related Methods*, Springer, 1998, 255-260, (co-authored with Pai, J.S. and Polasek, W.).

(他数編)

【3】 主要所属学会

1. 日本統計学会
2. 日本経済学会
3. American Statistical Association

【4】 学会における活動

1. レフェリー: Journal of Econometrics, Journal of the Japan Statistical Society, Statistical Methodology, Statistics and Probability Letters, Metrika, Bulletin of Economic Research, Journal of Economic Inequality

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「時空間データのための計量モデルの開発ならびにその応用」, 2007-2009 年度
2. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「クレジット・スコアリングのための計量分析に関する研究」, 2005-2006 年
3. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「取引ごとに観測される金融データの計量分析に関する研究」, 2002-2004 年度
4. 「取引ごとに観測される株価データの計量分析」全国銀行学術研究振興財団(2002 年度)
5. 文部省科学研究費: 奨励研究 (A), 「標本選別があるカウントデータの計量経済学的分析」, 2000-2001 年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Researcher: Institute for Advanced Studies, Austria,(2006 年)
2. Visiting Researcher : University of Basel, Switzerland, (1994-1996 年)

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. ベイズ統計学の枠組みにおいて, 統計的方法の理論的研究ならびにその応用
2. マルコフ連鎖モンテカルロ法を中心としたシミュレーション法による推定方法の開発

【10】 社会活動・実務経験

なし

30. ^{たかはし}高橋 ^{きよし}潔

職名 教授

学位 Ph.D.(ミネソタ大学)(1996年)

生年 1960年

学歴

1984年3月 慶應義塾大学文学部 卒業
1986年3月 慶應義塾大学大学院 社会学研究科前期博士課程修了(社会学修士)
1995年3月 慶應義塾大学大学院 商学研究科後期博士課程 単位取得退学
1996年12月 ミネソタ大学経営大学院 産業関係学部博士課程修了(Ph.D.)

職歴

1997年4月 南山大学経営学部 講師
1998年4月 南山大学経営学部 助教授
2000年4月 南山大学総合政策学部 助教授
2004年4月 神戸大学大学院経営学研究科 助教授
2006年12月 神戸大学大学院経営学研究科 教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 研究指導(昼間主), 社会科学のフロンティア
大学院 (一般) 演習, 社会調査法特殊研究,
サーベイリサーチ法特殊研究
大学院 (MBA) 組織行動応用研究, 現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 産業・組織心理学会編『産業・組織心理学ハンドブック』, 丸善, 2009年.
2. 『経営組織心理学』, ナカニシヤ出版, 2009年, (若林満他と共著).
3. 日本経団連編『働きがいのある職場づくり事例

集』, 日本経団連出版, 2008年.

4. 『あなたが職場で嫌われる理由』, プレジデント社, 2008年, (内藤誼人他と共著).
5. 日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』, 日本経済新聞社, 2007年.
6. 『よくわかる産業・組織心理学』, ミネルヴァ書房, 2007年, (山口裕幸他と共著).
7. 経営能力開発センター編『経営学検定試験公式テキスト経営用語・キーワード集』, 中央経済社, 2007年.

(その他9編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「成果主義人事制度成否の決定因」, 『人材育成研究』, 第1巻, 第1号, 2005年, 23-32.
2. 「作為回答場面での5大因子性格検査に関する反応妥当性尺度の役割」, 『産業・組織心理学研究』, 第17巻, 第2号, 2004年, 65-77, (堀尾志保と共著).
3. 「成果主義制度と人事評価における公平性の関連: 職場の競争的雰囲気及ぼす影響に着目して」, 『経営行動科学』, 第16巻, 第1号, 2002年, 15-24, (林洋一郎と共著).
4. 「わが国における職務満足研究の現状: メタ分析による検討」, 『産業・組織心理学研究』, 第15巻, 第1号, 2001年, 55-64, (大里大助と共著).

(その他, 学術論文10編)

3. その他国内論文

1. 「組織理論における感情の意義」, 『組織科学』第41巻第4号, 2008年, 4-15, (金井壽宏と共著).
2. 「内部・外部労働市場における職業能力評価の役割」, 『日本労働研究雑誌』, 第50巻, 第8号, 2008年, 4-16.
3. 「モンテカルロ・シミュレーションによる人材採用・選抜方法の社会的影響に関する研究」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第6号, 2008年, 51-62.
4. 「職場の相性研究」, 『福岡女学院大学紀要』,

第8号, 2007年, 21-25, (大里大助と共著).

5. 「Jリーガーがピッチを去るということ」,
『Business Insight』, 第59号, 2007年, 5-21.
(その他学術論文22編, 寄稿59編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *New Perspectives on International Industrial/Organizational Psychology*. San Francisco, CA: New Lexington Press. 1997, (Edited by P.C. Earley & M. Erez).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Effects of Wage and Promotion Incentives on the Motivation Levels of Japanese Employees. *Career Development International*, Vol. 11, No.3, 2006, 193-203.

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. Academy of Management
2. American Psychological Association
3. 日本心理学会
4. 産業・組織心理学会
5. 経営行動科学学会
6. 人材育成学会
7. 日本労務学会

【4】 学会における活動

1. 常任理事: 産業・組織心理学会(2001-2004年), 人材育成学会(2003年-現在)
2. 理事: 経営行動科学学会(2004年-現在), 産業・組織心理学会(1998-2001年, 2004年-現在)
3. 監事: 経営行動科学学会(1997-2000年)
4. 組織行動部会長: 経営行動科学学会(2000-2002年)
5. 第1回年次大会準備副委員長: 経営行動科学学会(1998年度)

6. 国際関係委員: 産業・組織心理学会(1998-2001年)
7. 第19回大会実行委員長: 産業・組織心理学会(2003年度)
8. 機関誌編集委員長: 経営行動科学学会(2000-2002年)
9. 機関誌編集委員: 産業・組織心理学会(2001年-現在), 人材育成学会(2004年-現在)
10. 機関誌ゲストエディター: 経営情報学会(2005年度)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本労務学会賞(1999年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar, University of Edinburgh, 2007-2008.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Top athletes' transition to new career horizons. Symposium in the 29th International Congress of Psychology, Berlin. (Presented with Kanai, T., Toyoda, N., Hattori, Y., Ogawa, C. Hara, R., & Sato, Y.) 2008.

【9】 現在の研究活動

1. 「リーダーシップ測定尺度の開発研究」
2. 「新規学卒者採用適性検査に関する開発研究」
3. 「新しい人事評価法に関する調査研究」
4. 「プロスポーツ選手のリーダーシップ開発に関する研究」

【10】 社会活動・実務経験

1. 信州大学経済学部非常勤講師(2009年)
2. (財)中部産業・労働政策研究会研究主査(2009年)
3. (社)日本経営協会「ビジネス能力開発フォーラム」実行副委員長(2009年)

いさがわのぶゆき
31. 砂川伸幸

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2000年)

生年 1966年

学歴

1989年3月 神戸大学経営学部卒業

1995年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1989年4月 新日本証券(株)入社

1995年4月 神戸大学経営学部助手

1998年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 コーポレートファイナンス,
研究指導(昼間主)

大学院 (一般) 演習, 経営財務研究,
コーポレートファイナンス研究

大学院 (MBA) ファイナンス応用研究,
プロジェクト研究, 現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『日本企業のコーポレートファイナンス』, 日本経済新聞出版社, 2007年, (川北英隆, 杉浦英徳と共著).
- 『パーソナル・ファイナンス入門』, 中央経済社, 2006年, (榎原茂樹, 姜喜永, 城下賢吾と共著).
- 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経

済新聞社, 2004年.

(他2編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「株主優待導入の短期的影響」, 『証券アナリストジャーナル』, Vol.46, No.7, 2008, 107-121, (鈴木健嗣と共著).
- 「株式持ち合い解消のシグナリング・モデル」, 『現代ファイナンス』, 第15号, 2004年, 23-34.
- 「借手のリスクインセンティブと貸手のリスクインセンティブ」, 『経営財務研究』, 第23巻, 第1号, 2004年, 77-87, (山下忠康と共著).

(他学術論文2編)

3. その他国内論文

- 「企業のペイアウトと株価の長期パフォーマンス」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第2号, 2007年, 22-46, (山口聖と共著).
- 「ペイアウトと現金保有」, 『証券アナリストジャーナル』, 第44巻, 第7号, 2006年, 6-21, (畠田敬, 山口聖と共著).
- 「債務免除と企業再生」, 『証券アナリストジャーナル』, 第43巻, 第4号, 2005年, 34-44, (藤原賢哉, 山下忠康と共著).

(他学術論文2編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- A theory of unwinding of cross-shareholding under managerial entrenchment, *Journal of Financial Research*, Vol. 30, 2007, 163-179.
- Addition to the Nikkei 225 Index and Japanese market response: Temporary demand effect of index arbitrageurs, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.14, 2006, 395-409, (co-authored with K. Okada and K. Fujiwara).
- Lender's Risk Incentive and Debt Concession, *International Review of Economics and Finance*, Vol. 15, 141-150, 2006.

4. Stock Price Behavior Surrounding Stock Repurchase Announcements: Evidence from Japan, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol. 12, 271-290, 2004, (co-authored with T. Hatakeda).
5. Managerial Opportunism and Capital Structure Adjustments: Equity-for-debt Swap and Convertible Debt, *International Review of Finance*, Vol.3, No.1, 2002, 53-69.
6. Callable Convertible Debt under Managerial Entrenchment, *Journal of Corporate Finance*, Vol.8, 2002, 255-270.
7. Open-market Repurchase Announcements and Stock Price Behavior in Inefficient Markets, *Financial Management*, Vol.31, 2002, 5-20.
8. Open-Market Stock Repurchase and Stock Price Behavior when Management Values Real Investment, *Financial Review*, Vol. 35, No. 4, 2000, 95-108.
9. Convertible Debt: An Effective Financial Instrument to Control Managerial Opportunism, *Review of Financial Economics*, Vol. 9, No. 1, 2000, 1-12.

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経営財務研究学会
2. 日本ファイナンス学会
3. 証券経済学会
4. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. 理事：証券経済学会(2009年-現在), 日本ファイナンス学会(2006年-現在)
2. 評議員：日本経営財務研究学会(2008年-現在)
3. 雑誌編集委員：証券経済学会誌年報(2006-2007年), 現代ファイナンス.
4. レフェリー：Journal of Corporate Finance, International Review of Economics and Finance, Pacific-Basin Finance Journal, 現代ファイナンス, 経営財務研究, 証券経済学会年報, 組織科学

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Outstanding Article Awards 2007, Journal of

Financial Research, (2008).

2. 日本経営財務研究学会・学会賞(2007年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. みずほ証券寄付金
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「わが国企業のペイアウト政策に関する定量的・定性的研究」, 2006-2008年
3. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「株式持ち合い解消と企業財務のリストラクチャリングに関する理論的・実証的研究」, 2004-2005年(その他多数)

【7】 海外における研究・教育活動

1. 客員研究員：University of Washington, Business School, 2000-2001年

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「日本企業のペイアウト」1990年代以降の日本企業のペイアウトについて定量的・定性的に研究している。とくに、株主優待が企業価値に与える影響について検証している。
2. 「経営戦略と企業価値、財務戦略の関係」企業価値を経営指標とした企業の経営戦略分析について研究を始めた。経営戦略と財務戦略の関係について、理論的かつ実証的に研究している。

【10】 社会活動・実務経験

1. ハウス食品独立委員会(2007年-現在)
2. 関経連「関西企業価値研究会」アドバイザー(2006年)
3. フジッコ「企業価値判定委員会」委員(2006-2007年)
4. 京都大学経営管理大学院みずほ証券寄附講座教員(2005年-現在)

とくついちろう
32. 得津一郎

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1994年)

生年 1953年

学歴

1976年3月 神戸大学経営学部卒業
1978年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1980年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1980年4月 立命館大学経営学部助手
1981年4月 立命館大学経営学部助教授
1988年4月 神戸大学経営学部助教授
1994年1月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授
2002年4月 甲南大学EBA 高等教育研究所教授
2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 市場経済入門
大学院 (一般) 統計的方法特殊研究(応用回帰分析)
大学院 (MBA) 統計解析応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『生産構造の計量分析』, 創文社, 1995年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. An international comparison of the input-output structure, *Journal of Applied Input-Output Analysis*, Vol.7, No.1 (December 2001): 35-60, (co-authored with Mitsuo Saito).

3. その他国内論文

1. 「日本の地価・株価 — 資金循環勘定に基づく計量経済学的分析」, 辻村和佑・溝下雅子編『資金循環分析の軌跡と展望』, 東京: 慶應義塾大学出版会, 2008年, 177-210, (小川一夫, 斎藤光雄と共著).
2. 「アジア域内貿易の構造 — 可変投入係数モデルによる産業連関分析」, 『イノベーション&IO テクニク: 産業連関』, 第11巻, 第1号, 2003年, 4-16, (斎藤美香と共著).
3. 「年金制度の計量分析 — 日本経済の成長経路をめぐって」, 『季刊社会保障研究』, 第27巻, 第4号, 1992年, 395-421, (稲田義久, 小川一夫, 玉岡雅之と共著).
4. 「日本経済の多部門資産市場モデル」, 小川一夫, 斎藤光雄, 二宮正司編『多部門経済モデルの実証研究』, 東京: 創文社, 1992年, 229-332, (小川一夫, 斎藤光雄と共著).
5. 「多部門 CES 生産関数の推定 — 日本経済のエネルギー投入構造」, 小川一夫, 斎藤光雄, 二宮正司編『多部門経済モデルの実証研究』, 東京: 創文社, 1992年, 27-48.
6. 「エネルギー価格の変動とエネルギー需要」, 『エネルギー・資源』, 第11巻, 第2号, 1990年, 156-160, (斎藤光雄と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Why do Japanese firms prefer multiple bank relationship?, *Economic Systems*, Vol.31, No.1 (March 2007): 49-70, (with Kazuo Ogawa and Elmer Sterken).
2. Quadrilateral market dependence, *Journal of Policy Modeling*, Vol.24, No.2 (May 2002): 119-150.
3. The flow-of-funds equations of Japanese nonfinancial firms, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.8, No.1 (March 1994): 72-105, (co-authored with Kazuo Ogawa and Mitsuo Saito).

4. Price-endogenized input-output model, *Economic Systems Research*, Vol.6, No.4 (December 1994): 323-345.
5. The cost of capital to corporations in Japan and the U.S.A., *Journal of Banking and Finance*, Vol.11, No. 2 (June 1987), 13-327, (with Irwin Friend).

【3】 その他海外論文

1. Multiple bank relationships and the main bank system, in Calcagnini, G. and E. Saltari(eds.), *The Economics of Imperfect Markets*, Heidelberg: Springer-Verlag(November 2009): 73-90, (with Kazuo Ogawa and Elmer Sterken).
2. Dynamic properties of an asset market model, in Klein, L.R. (ed.), *Studies in Economic Dynamics*, Singapore: World Scientific Publishing Co. (April 1995): 1-14, (with Kazuo Ogawa and Mitsuo Saito).
3. The flow-of-funds equations of Japanese banks, in Dutta, M. A. (ed.), *Economics, Econometrics, and the Link*, Amsterdam: North-Holland Publishing Co. (March 1995): 469-493, (with Mitsuo Saito and Kazuo Ogawa).
4. Technological trends in the pacific basin, in Chiang, Y. K. and L. R. Klein (eds.), *Economic Development of ROC and the Pacific Rim in the 1990s and Beyond*, Singapore: World Scientific Publishing Co.(September 1994): 243-272, (with Mitsuo Saito).
5. Il livello tecnologico del settore manifatturiero: una comparazione internazionale, *Diritto ed Economia*, Vol.12, No.1-2(Gennaio/Agosto 1994), 297-339, (con Mitsuo Saito).
6. An international comparison of the multi- sectoral production structure of the United States, West Germany, and Japan, in Hickman, B. G. (ed.), *International Productivity and Competitiveness*, New York: Oxford University Press (March 1992): 177-202, (with Mitsuo Saito).

【3】 主要所属学会

1. Econometric Society
2. International Input Output Association
3. 日本経済学会
4. 日本統計学会
5. 環太平洋産業連関分析学会

【4】 学会における活動

1. 運営委員：環太平洋産業連関分析学会，1998-2001年.
2. 編集委員：イノベーション&IO テクニーク，1998-2003年.
3. Editor：Journal of Applied Input Output Studies, 2000-2001年.

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(C)(2)課題番号14530032, 「国際産業連関表に基づく国際貿易構造の理論的・実証的研究」, 2002-2003年.
2. 全国銀行学術研究振興財団, 「企業統治構造と銀行借入金契約形態に関する実証的研究」, 2001年.
3. (助)学術振興野村基金, 「EU統合の経済効果に関する計量経済学的研究」, 1999年.

【7】 海外における研究・教育活動

1. 客員研究員(Visiting Scholar), 国際通貨基金 IMF インスティテュート, 2005年11月.
2. 客員教授(Gast Professor), マールブルグ大学経済学部, 1998年4月-1998年8月.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 資金循環と実物経済の連関に関する研究：90年代日本経済の一般均衡分析, 科学研究費補助金, 基盤研究(B)(研究代表者：大阪大学社会経済研究所, 小川一夫)の研究分担者.

【10】 社会活動・実務経験

なし

33. 三矢 裕

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2001年)

生年 1966年

学歴

1990年3月 神戸大学経営学部卒業
1995年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了
2001年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

1990年4月 川崎製鉄株式会社入社(水島製鉄所総務部経理課勤務)
1993年3月 川崎製鉄株式会社退社
1997年4月 学習院大学経済学部専任講師
2000年4月 学習院大学経済学部助教授
2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 管理会計基礎, 経営学入門,
研究指導(昼間主)
大学院 (一般) 定性的方法論研究, 管理会計特論定
大学院 (MBA) 現代経営学演習

学内役職

経営学研究科会計システム専攻長(2009年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『事業部制の業績評価』, 東洋経済新報社, 2005年.
- 『企業再編と分権化の管理会計: 企業価値を高める再生の手法』, 中央経済社, 2005年, (櫻井

通晴と共著).

- 谷武幸編著『成功する管理会計システム: その導入と進化』, 中央経済社, 2004年.
- 『アメーバ経営論: ミニ・プロフィットセンターのメカニズムと導入』, 東洋経済新報社, 2003年.
- 『アメーバ経営が会社を変える: やる気を引き出す小集団部門別採算制度』, ダイヤモンド社, 1999年, (加護野忠男, 谷武幸と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「新須磨病院整形外科における BSC 導入についての時系列分析: アクションリサーチとエンピリカルリサーチの統合アプローチ」, 『原価計算研究』, 第 29 巻, 第 1 号, 2005 年, (松尾貴巳, 谷武幸と共著).
- 「任せる経営のメカニズム—事例研究: 京セラ・アメーバ経営—」, 『ビジネス・インサイト』, 第 5 巻, 第 4 号, 1997 年, 64-77.

3. その他国内論文

- 「細部のこだわりと人材育成: 中国へのアメーバ経営導入プロセスアクションリサーチから」, 『国民経済雑誌』, 第 194 巻, 第 1 号, 2006 年, 81-94.
- 「京セラのアメーバ経営によるエンパワメントとコントロール」, 『企業会計』, 第 56 巻, 第 5 号, 2004 年, 689-695.
- 「ミニ・プロフィットセンター研究のレビュー: 課題と展望」, 『会計』, 第 164 巻, 第 2 号, 2003 年, 108-122.
- 「管理会計システムの導入の研究手法: トライアンギュレーションとアクションリサーチの有効性」, 『会計』, 第 161 巻, 第 5 号, 2002 年, 96-109.
- (翻訳)「第 13 章企業間改善コスト管理」, 『企業連携のコスト戦略: コストダウンを実現する全体最適マネジメント』, ダイヤモンド社, 2000 年, 237-254, (清水孝, 長谷川恵一と共訳).
- 「NEC 埼玉におけるラインカンパニー制: ミニ・プロフィットセンターの管理会計の構築に向けて」, 『国民経済雑誌』, 第 177 巻, 第 3 号, 1998 年, 17-34, (谷武幸と共著).
- 「Japanese Micro-profit Center: A Case Study of the Amoeba System at Kyocera Corporation」, 『学

習院大学経済論集』, 第 35 卷, 第 2 号, 1998 年, 71-83.

8. 「管理者の予算関連行動」, 『企業会計』, 第 48 卷, 第 2 号, 1996 年, 131-137.

(他論文 7 編, 翻訳 1 編, 事典項目執筆 8 項目)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Japanese Micro-profit Center: A Case Study of the Amoeba System at Kyocera Corporation, in Y. Monden (eds.), *Value-based Management of the Rising Sun*, World Scientific Publishing Company, 2006, 235-246.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本原価計算学会
3. ヨーロッパ会計学会
4. American Accounting Association
5. 日本管理会計学会
6. 経営行動科学学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：日本原価計算研究学会
2. レフェリー：国民経済雑誌, 原価計算研究

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本原価計算研究学会・論文賞(2007 年)
2. 日本会計研究学会太田・黒澤賞(2004 年)
3. 日本原価計算研究学会・著作賞(2004 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省平成科学研究費：基盤研究(C), 「アメーバ経営の導入に関する実証的研究」, 2009-2011 年.
2. メルコ学術振興財団国際交流助成金, 2009 年.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Associate Researcher: Paul Merage School of Business, University of California, Irvine, U. S. A. (2006-2008 年)

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Strategy, Incentive Design and Performance: Empirical Evidence, アメリカ会計学会, New York, 2009 年 8 月 4 日.

【9】 現在の研究活動

1. アメーバ経営の導入に関する実証研究
2. 成果主義的業績評価の影響

【10】 社会活動・実務経験

1. 医療機関や企業へのバランスト・スコアカードの導入実践
2. 企業へのミニ・プロフィットセンターシステムの導入実践
3. 企業への日次決算システムの導入実践
4. 厚生労働省診断群分類を活用した調査研究医療経済班
5. 川崎製鉄株式会社水島製鉄所総務部経理課での会計事務(1990-1993 年)

おとがわかずひさ
34. 音川和久

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1997年)

生年 1969年

学歴

1992年3月 神戸大学経営学部卒業
1994年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1997年4月 大阪府立大学経済学部講師
2000年4月 大阪府立大学経済学部助教授
2001年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 財務会計, 初級簿記,
研究指導(昼間主・夜間主)
大学院 (一般) 財務会計特殊研究(財務報告),
財務会計特論, 演習
大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『投資家行動の実証分析—マーケット・マイクロストラクチャーに基づく会計学研究—』, 中央経済社, 2009年.
- 『在阪企業の活性化に関する多角的研究』, 大阪府立大学経営研究叢書, 2002年, (上野恭裕, 近藤真司, 山下竜一と共著).
- 『会計方針と株式市場』, 千倉書房, 1999年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「利益発表と投資家の株式売買行動」, 『経営財務研究』, 第28巻, 第2号, 2008, 2-16, (若林公美と共著).
- 「Do Japanese Firms Manage Earnings in Response to Tax Reductions in the Late 1990s? 」, 『管理会計学』, 第16巻, 第1号, 2008, 41-59, (山下裕企と共著).

3. その他国内論文

- 「無形資産集約的企業と投資家の評価」, 『會計』, 第176巻, 第2号, 2009年, 82-94, (石光裕と共著).
 - 「高頻度データを利用した投資家行動の分析—大量保有報告書データの利用可能性—」, 『国民経済雑誌』, 第199巻, 第5号, 2009年, 47-59.
 - 「マーケット・マイクロストラクチャー」, 『現代のディスクロージャー』, 中央経済社, 2008年, 445-464.
 - 「利益発表とビッド・アスク・スプレッド」, 『産業経理』, 第68巻, 第3号, 2008年, 92-101.
 - 「利益情報とマーケット・マイクロストラクチャー」, 『企業会計』, 第60巻, 第7号, 2008年, 34-41.
 - 「損益会計要素の持続性」, 『会計制度の設計』, 白桃書房, 2008年, 195-211.
 - 「株式持合と利益の質に関する実証研究」, 『會計』, 第172巻, 第6号, 2007年, 28-40, (北川教央と共著).
 - 「会計操作とビッド・アスク・スプレッド」, 『会計操作』, ダイアモンド社, 2007年, 197-217.
 - 「企業情報の開示と株主資本コストの関連性—アナリストの情報精度の観点から—」, 『會計』, 第169巻, 第1号, 2006年, 79-93, (村宮克彦と共著).
 - 「ストック・オプションの権利付与と会計上の損失に関する予備的証拠」, 『国民経済雑誌』, 第192巻, 第5号, 2005年, 37-54, (高田知実と共著).
- (他, 論文24編, 書評2編, 翻訳1編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. European Accounting Association
3. 日本会計研究学会
4. 国際会計研究学会
5. ディスクロージャー研究学会
6. 日本経営財務研究学会
7. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：日本会計研究学会(2006年-現在)
2. 理事：ディスクロージャー研究学会(2008年-現在)
3. 編集委員：ディスクロージャー研究学会(2008年-現在)
4. レフェリー：ビジネス・インサイト，経営財務研究，会計プロGRESS，現代ディスクロージャー研究

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本会計研究学会・太田・黒澤賞(2009年9月)
2. 日本管理会計学会・論文賞(2008年8月)
3. 日本会計研究学会・学会賞(2003年9月)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)，「会社法・金融商品取引法における財務報告と投資家行動に関する実証研究」，2008-2010年。
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B)，「会計利益の諸特性と証券市場における経済的帰結に関する実証研究」，2004-2006年

3. 澤村正鹿学術奨励基金，「企業の財務報告と証券市場の非対称情報に関する実証研究」，2002年度
4. 文部科学省科学研究費：奨励研究(A)，「新興企業向け証券市場における会計・監査問題に関する研究」，2001-2002年
5. (財)全国銀行学術研究振興財団，「新興企業向け証券市場における会計・監査問題」，2000年度。

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of Washington (2003年8月-2004年5月)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Accrual Anomaly, Private Information, and Market Price Discovery Process: Evidence from Japan, 2008 Annual Meeting of American Accounting Association, Anaheim, U.S.A., Aug. 2008 (jointly presented with K. Muramiya and T. Takada).
2. The Impact of Earnings Announcements on Market Liquidity: Evidence from Japan, 2008 Annual Meeting of American Accounting Association, Anaheim, U.S.A., Aug. 2008.
3. The Behavior of Small Traders around Earnings Announcements: An Empirical Evidence from Japan, 2007 Annual Meeting of American Accounting Association, Chicago, U.S.A., Aug. 2007, (jointly presented with H. Wakabayashi).

(その他 11 件)

【9】 現在の研究活動

1. 財務報告と投資家行動に関する実証研究
2. 会計情報を活用した企業評価に関する実証研究
3. 会計情報の経済的実質主義に関する実証研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師：大阪府立大学(2001-2002年)

まつおまこと
35. 松尾 睦

職名 教授

学位 Ph.D.(Management Learning)(英国ランカスター大学) (2004 年)
博士(学術)(東京工業大学) (1999 年)

生年 1964 年

学歴

1988 年 3 月 小樽商科大学商学部商業教員養成課程卒業
1992 年 3 月 北海道大学大学院文学研究科行動科学専攻修士課程修了
1999 年 10 月 東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士課程修了
2004 年 5 月 英国ランカスター大学経営大学院博士課程修了

職歴

1988 年 4 月 塩野義製薬株式会社
1992 年 4 月 株式会社東急総合研究所 研究員
1994 年 4 月 岡山商科大学商学部産業経営学科助手
1995 年 4 月 岡山商科大学商学部産業経営学科専任講師
1998 年 4 月 岡山商科大学商学部産業経営学科助教授
1999 年 10 月 小樽商科大学商学部商学科助教授
2004 年 4 月 小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻助教授
2007 年 10 月 小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 教授
2009 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2007-2009 年度)

学 部 顧客関係管理
大学院 (一般) マーケティング特殊研究(顧客関係管理), 顧客関係管理研究
大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『経験からの学習：プロフェッショナルへの成長プロセス』, 同文館出版, 2006 年.
2. 『内部競争のマネジメント：営業組織のイノベーション』, 白桃書房, 2002 年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「組織内部の競争と協調がイノベーションに及ぼす影響：営業部門の実証研究」, 『日本経営学会誌』, 第 8 号, 2002 年, 54-65.
2. 「営業組織の革新性：内部競争と顧客志向の連動」, 『流通研究』, 第5巻, 第1号, 2002年, 61-78.
3. 「サービス・クオリティ次元に関する実証研究：SERVQUAL の再検討」, 『流通研究』, 第 4 巻, 第 1 号, 2001 年, 29-38.

3. その他国内論文

1. 「経験からの学習：営業における熟達化」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第 54 巻, 第 1 号, 2006 年, 6-27.

【2】 海外出版

1. 著書

1. *The role of internal competition in knowledge creation: An empirical study in Japanese firms*, Peter Lang, 2005.
2. *Knowledge acquisition in sales organization: Empirical research of Japanese firms*, UMI, 2000.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Experienced-based learning of Japanese IT professionals: A qualitative research, *Journal of Strategic Information Systems*, Vol.17, 2008, 202-213, (co-authored with C.W.Y. Wong and K. Lai).
2. Beyond the knowledge sharing dilemma: The role of customization, *Journal of Knowledge*

Management, Vol.12, No.4, 2008, 30-43,
(co-authored with M. Easterby-Smith).

3. Customer orientation, conflict, and innovativeness in Japanese sales departments, *Journal of Business Research*, No.59, 2006, 242-250.
4. Salesperson's procedural knowledge, experience and performance: An empirical study in Japan, *European Journal of Marketing*, Vol.36, No.7, 2002, 840-854, (co-authored with T. Kusumi).
5. The organizational learning process: A review, *Euro Asia Journal of Management*, No.22, 2001, 31-49.

3. その他海外論文

1. The Influence of service climate and personality on nurse customer orientation, The proceedings of 2008 American Marketing Association Winter Educators' Conference, Austin, U.S.A., 2008.
2. Determinants of salesperson customer orientation: Service climate or personality?, The proceedings of 2007 Academy of Marketing Science Annual Conference, Miami, U.S.A., 2007.
3. Customer orientation as a type of ability to learn from experience: Empirical studies of Japanese salespeople, The proceedings of 2007 International Conference on Organizational Learning, Knowledge, and Capabilities, Ontario, Canada, 2007, (co-authored with T. Kusumi).
4. Experiential learning in different domains: Qualitative research of Japanese IT experts, Paper presented at European Academy of Management Conference, Oslo, 2006.
5. M. Easterby-Smith Knowledge sharing dilemma: Knowledge and knowing in Japanese firms, Paper presented at the Academy of Management Annual Meeting, New Orleans, 2004.

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. Academy of Management
3. 組織学会
4. 日本経営学会
5. 日本社会心理学会

【4】 学会における活動

1. レビューアー：流通研究, 組織科学, *Journal of Business Research*, *Journal of Academy of Marketing Science*, 経営行動科学, 日本経営学会誌, 組織科学
2. 学会賞審査委員：日本社会心理学会・学会賞(2008年), 認知心理学会・独創賞評価委員(2009年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本社会心理学会・着想独創賞(1995年)
2. Hans B. Throelli award for excellence (Best paper of *European Journal of Marketing* in 2002)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「プロフェッショナル組織における学習プロセスの実証的研究」, 2008-2009年.

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. プロフェッショナルである医師・看護師・教師・知的財産部門社員営業担当者を対象に, 経験学習プロセスを分析している。また, 若手社員の学習プロセスや OJT の実践知についても研究している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 1988年4月から1990年3月まで塩野義製薬株式会社・第二営業部において, 営業担当者として勤務。1992年4月から1994年3月まで, 株式会社東急総合研究所・総合生活研究部において, 研究員として勤務。2004年4月から2008年3月まで, 株式会社Bサポートにおいて社外アドバイザー。

ひさもとひさお
36. 久本久男

職名 准教授

学位 経済学修士(神戸大学)(1979年)

生年 1952年

学歴

1977年3月 神戸大学経済学部卒業

1979年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了

1981年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1981年4月 神戸大学経営学部助手

1984年4月 神戸大学経営学部講師

1988年2月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 経営数学入門, 外国書講読(昼間主),
経営数量分析

大学院 (一般) 演習, 統計的方法論特殊研究(確率
モデル)

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「ケーニッヒの補題の拡張」, 『国民経済雑誌』, 第195巻, 第5号, 2007年, 19-24.
2. 「様相論理におけるシークエント計算とタブロー法」, 『国民経済雑誌』, 第189巻, 第2号, 2004年, 33-41.
3. 「母数模型分散分析の幾何学的解釈」, 『国民経済雑誌』, 第185巻, 第6号, 2002年, 57-77.
4. 「被支配戦略と論理」, 『国民経済雑誌』, 第182巻, 第4号, 2000年, 35-46.
5. 「被支配戦略と決定」, 『国民経済雑誌』, 第178巻, 第5号, 1998年, 45-54.
6. 「合理性と計算可能性」, 『国民経済雑誌』, 第169巻, 第6号, 1994年, 93-107.
7. 「ゲーム理論はコミュニケーションをどのように取り扱ってきたか」, 『国民経済雑誌』, 第163巻, 第6号, 1991年, 55-93, (末廣英生と共著).
8. 「合理的プレーヤーは合理的か?」, 『国民経済雑誌』, 第161巻, 第4号, 1990年, 95-126, (末廣英生と共著).
9. 「戦後日本鉄鋼業の設備投資競争」, 『国民経済雑誌』, 第155巻, 第4号, 1987年, 93-123.
10. Production, Investment and Production Technique, *The Annals of the School of Business Administration*, Kobe University, No.30, 1986, 83-104.

(他学術論文12編, 解説・書評等9編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本統計学会
2. 日本経済学会

3. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー：International Economic Review

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 澤村正鹿学術奨励基金, 1991 年(池田新介と共同)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Northwestern University, 1986-1989
(他学会報告のため海外渡航)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 繰り返しゲームにおける均衡パターン：繰り返しゲームにおけるサブゲームパーフェクト均衡のパターン構造を分析する。均衡におけるパターン複雑度の特徴を把握することができる。
2. 認識の階層構造とゲーム：ゲームの均衡がプレーヤに要請する認識構造を分析する。認識論理におけるシンタックスにおいて利用される統合的方法を利用して、認識の階層構造にアプローチする。

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師：京都大学(1993 年度), 流通科学大学(2003 年度)

37. ^{すずきかずみ}鈴木一水

職名 准教授

学位 経営学修士(神戸大学)(1987年)

生年 1959年

学歴

1984年3月 神戸大学経営学部卒業
1987年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了
1990年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程単位修得退学

職歴

1984年4月 前田公認会計士事務所会計士補
1990年4月 鈴木公認会計士事務所公認会計士
1991年4月 近畿大学商経学部講師
1994年4月 近畿大学商経学部助教授
1995年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 税務会計, 研究指導(昼間主), 会計制度, 経営学演習, 経営学入門, 社会科学のフロンティア
大学院(一般) 会計制度特論, 税務会計研究, 演習
大学院(MBA) 現代経営学応用研究(企業評価), 会計制度応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『連結会計入門』, 中央経済社, 2009年, (広瀬義州他と共著).
2. 『会計制度の設計』, 白桃書房, 2008年, (須田

一幸と共著).

3. 『日本的企業会計の形成過程』, 中央経済社, 1994年, (山地秀俊, 梶原晃, 松本祥尚と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「税務法令と財務会計における問題」, 須田一幸編『会計制度の設計』, 白桃書房, 第5章, 2008年, 67-89.
2. 「法人税法の改正と会計制度」, 須田一幸編『会計制度の設計』, 白桃書房, 第8章, 2008, 138-161.
3. 「役員給与に関する会計基準及び税制の影響」, 『租税研究』, 第710号, 2008年, 31-41.
4. 「財務報告と課税所得計算の関係」, 『会計基準』, 第21巻, 2008年, 92-94.
5. 「自己株式の会計と税務」, 『税研』, 第23巻, 第4号, 2008年, 50-55.
6. 「財務会計と税務会計の交流とその断絶」, 『会計』, 第173巻, 第1号, 2008年, 49-63.
7. 「新会計基準導入後の会計と税務の分離」, 『租税研究』, 第698号, 2007年, 44-69.
8. 「棚卸資産と税務会計」, 『企業会計』, 第58巻, 第11号, 2006年, 50-56.
9. 「申告納税制度の契約構造」, 『産業経理』, 第66巻, 第2号, 2006年, 109-116, (宮原泰之と共著).
10. 「税コストと財務報告コストの関係」, 『国民経済雑誌』, 第192巻, 第4号, 2005年, 57-69.
11. 「中小企業の会計・開示のあり方と『会計指針』」, 『税務弘報』, 第53巻, 第10号, 2005年, 8-13.
12. 『会計とコントロールの理論』, 勁草書房, 1998年, (山地秀俊, 梶原晃, 松本祥尚と共訳). (他学術論文58編, 解説・書評等16編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Emerging Process of Accounting Practices in Japan in the Demension of Accounting Standards, *12th World Congress of Accounting Historians, Congress Proceedings*, Vol. II, 2008, 1703-1710.
2. Emerging Process of Accounting Practices in Japan, *Proceedings of International Conference on Business, Economics, and International Technology Hanoi*, 2008, 291-294.
3. Corporate Groups and Their Auditors, in Shyam Sunder and Hidetoshi Yamaji (eds.), *The Japanese Style of Business Accounting*, Quorum Books, 1999, 69-96.
4. Relationship between Corporate Groups and Auditors in Japan, *The Cooperation Strategy of Korean and Japanese Firms in the Era of Globalization*, 1995, 121-144.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 税務会計研究学会
3. 日本監査研究学会
4. 日本簿記学会
5. American Accounting Association
6. American Taxation Association

【4】 学会における活動

1. 理事：税務会計研究学会(1998年-現在)
2. 幹事：日本会計研究学会(1997-1998年)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 近畿税理士会奨学寄附金：「税務会計の研究教育」, 2006-2008年度
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)(2), 「税制が組織構造に及ぼす影響に関する研究」, 2005-2007年
3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)(2), 「利益制御過程における報告コストと税コストの裁量的調整に関する理論的・実証的研究」, 2003-2004

年

4. 文部省科学研究費：基盤研究(C)(2), 「税務計画アプローチに基づく新しい税務会計分析のフレームワークの構築に関する研究」, 1998-1999年(他1件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Australian National University, 2003-2004
2. Visiting Scholar: University of Texas at Austin, 1999-2001

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Emerging Process of Accounting Practices in Japan in the Dimension of Accounting Standards, 12th World Congress of Accounting Historians, Istanbul, Turkey, July 2008.
2. Emerging Process of Accounting Practices in Japan, International Conference of Business, Economics, and Information Technology, Hanoi, Vietnam, March 2008.
3. Corporate Taxation in Japan, 4th Annual Guam International Accounting Forum, Guam, US, October 2007.

【9】 現在の研究活動

1. 企業の課税所得計算行動を、特に財務会計と税務会計の関係の観点から、歴史的、理論的および実証的に研究している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 企業会計基準委員会資産除去債務専門委員会委員(2006年-現在)
2. 企業会計基準委員会引当金専門委員会委員(2009年-現在)
3. 公認会計士試験試験委員(2008年度-現在)
4. 非常勤講師：兵庫県立大学経営学部・大学院経済学研究科(2007-2009年度), 愛知大学大学院会計研究科, 関西大学大学院会計研究科, 甲南大学大学院ビジネス研究科(2007年度-現在), 甲南大学(2002年), 近畿大学(1997-2005年), 滋賀大学(1999年), 流通科学大学(2001-2003年), 大阪大学(2005年)

むらかみひでき
38. 村上英樹

職名 准教授

学位 修士(商学)(神戸大学)(1992年)

生年 1964年

学歴

1985年10月 防衛大学校退学

1990年3月 神戸大学経営学部卒業

1992年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

1992年7月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1992年7月 神戸大学経営学部助手

1995年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 国際交通, 研究指導(昼間主), 経営学入門
大学院 (一般) 市場経済分析特論, 演習, 物流シス
テム研究, 国際交通研究, 統計的方法
論特殊研究(同時方程式分析)

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『航空の経済学』, ミネルヴァ書房, 2006年, (加藤一誠, 高橋望, 榎原胖夫と共編著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「ベトナムにおける日系自動車企業のロジステ

イクス」, 『日本物流学会誌』, No. 17, 2009年, 89-96, (林克彦, 小林二三夫, 久米秀俊と共著).

2. 「低費用航空会社の垂直型製品差別化モデルの一般化と米国複占市場データを用いた実証分析」, 『航空政策研究会シリーズ・低費用航空会社の研究』, 特別号, No. 473, 2007年, 25-36.
3. 「低費用航空会社参入の経済効果と時間効果の計測: 米国3社寡占市場のケース」, 『交通学研究』, 2005年研究年報, 2006年, 121-130.

(他学術論文4件)

3. その他国内論文

1. 「米国低費用航空会社の競争行動と市場成果」, 『国民経済雑誌』, 198-6, 2008年, 75-84.
2. 「国際基幹空港として期待される関西空港の役割」, 『交通学研究』, 2007年研究年報, 2008年, 53-58.
3. Deregulation and Liberalization of Air Transport: Focus on the Northeast Asian Air Transport System. *Annual Report on Transportation Economics*, 2002, 1-12, (co-authored with Tae Hoon Oum).

(他学術論文25編, 解説・書評等15編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Market Performance of Low-Cost Entry into the Airline Industry: A Case of Two Major Japanese Markets, *Asian Journal of Shipping and Logistics* Vol.1, No.1. 2009, pp.103-120.

(他学術論文3編)

3. その他海外論文

1. The Dynamic effect of Low-Cost Entry on Conduct parameter and Total Welfare, *Proceedings of the 13th Air Transportation Research Society*, 2009, 1-38.

(他学術論文2編)

【3】 主要所属学会

1. World Conference on Transportation Research Society
2. 日本交通学会
3. 日本海運経済学会
4. Air Transportation Research Society
5. The Korean Association of Shipping and Logistics

【4】 学会における活動

1. 評議員：日本交通学会(2007年-現在)
2. 幹事：関西西部会(2006年-現在)
3. 理事・事務局長：日本海運経済学会(2009年-現在)
4. 編集委員：日本交通学会編集委員(2007-現在), The Korean Journal of Shipping and Logistics(2003-現在), 海運経済研究(1995年-現在)
5. レフェリー：The Asian Journal of Shipping and Logistics, 交通学研究, The Korean Association of Shipping and Logistics

(他レフェリー2件)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. STX Scholarship Foundation, Korean Association of Shipping and Logistics, STX PRIZE, 2008
2. 日本交通学会日本交通学会賞(2006年)

(他国内学会賞2件)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「日米低費用航空会社の競争行動と市場成果の計量経済分析」, 2009-2011年.

(他文部科学省科学研究費基盤研究(C)3件, 奨励研究(A)1件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: National University of Singapore, Faculty of Arts and Social Science, Department of Economics, 2007
2. Ph.D. Candidate: University of British Columbia, Faculty of Commerce and Business Administration, Canada, 2000-present
3. Visiting Scholar: University of British Columbia, Faculty of Commerce and Business Administration, Canada, 1996-1998

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. The Dynamic effect of Low-Cost Entry on Conduct parameter and Total Welfare, 13th Air Transport Research Society Conference, Abu Dhabi, June 2009.
2. Market Performance of Low-cost Entry in Airline Industry: A Case of Two Major Japanese Markets, International Conference for Launching the Asian Journal of Shipping and Logistics Seoul, Korea, October 2008.

(他, 国際学会での発表8件)

【9】 現在の研究活動

1. 低費用航空会社の競争行動と市場成果：戦略的行動およびコンダクトパラメータの計量分析
2. 国際物流における空運および空港の市場成果に関する計量分析

【10】 社会活動・実務経験

1. 委員：国土交通省「羽田空港発着枠の配分基準検討懇談会」(2008年-現在)
2. 座長：関西空港調査会「航空交通研究会」(2008年-現在)
3. 座長：関西空港調査会「エアポートビジネス研究会」(2006年-現在)
4. 委員：国土交通省「関西地域における空港のあり方に関する有識者意見交換会」(2006年-現在)
(他, 政府関係委員3件)
5. 非常勤講師：政策研究大学院大学(2009年)
(他, 非常勤講師3件)

しみずやすひろ
39. 清水泰洋

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2000年)

生年 1973年

学歴

1995年3月 神戸大学経営学部卒業

1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2000年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2000年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 簿記, 中級簿記, 研究指導(昼間主),
経営学入門

大学院 (一般) 財務会計特殊研究(簿記), 定性的方
法論研究, 演習, 簿記研究

大学院 (MBA) 財務会計応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『アメリカの暖簾会計: 理論・制度・実務』, 中
央経済社, 2003年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「19世紀イギリスの専門職雑誌における暖簾」,
『産業経理』, 第67巻, 第4号, 2008年, 71-79.
 2. 「会社の外の複式簿記—兼松奨励会の日記帳を
題材として—」, 『財務会計研究』, 第2号, 2008
年, 69-95.
 3. 「過去簿記」, 中野常男編著『複式簿記の構造と
機能』, 同文館出版, 2007年, 第3部, 第5章,
(中野常男, 工藤栄一郎, 坂上学, 柴健次, 島本
克彦, 杉本徳栄, 高須教夫, 陳琦, 橋本武久と
共著).
 4. 「兼松における従業員持株会の生成と展開—従
業員持株制度の機能と資金上の問題点—」, 『国
民経済雑誌』, 第194巻, 第6号, 2006年, 27-46,
(井上真由美との共著).
 5. 「アメリカにおける基準設定以前の無形資産会
計」, 伊藤邦雄編著, 『無形資産の会計』, 中央経
済社, 2006年, 41-51, (執筆分担).
 6. 「無形資産の認識と資本会計」, 平林喜博編著,
『近代会計成立史』, 同文館出版, 2005年,
154-166, (執筆分担).
 7. 「会計史を巡るヒストリオグラフィー: レビュ
ー」, 『国民経済雑誌』, 第192巻, 第1号, 2005
年, 83-97.
 8. 「アメリカ不正会計とその分析: 歴史的視点」,
山地秀俊編著, 『アメリカ不正会計とその分析』,
神戸大学経済経営研究所研究叢書, 2004年,
23-50, (執筆分担).
 9. 「SEC 会計規制の生成と無形資産会計」, 『産業
経理』, 第64巻, 第4号, 2004年, 40-48.
 10. 「アメリカにおける無形資産会計基準の展開」,
『ビジネス・インサイト』, 第42号, 2003年,
28-43.
 11. 「税法における無形資産—米国連邦制の展開,
1927年から1993年—」, 『会計史学会年報』, 第
21号, 2003年, 35-48.
 12. 「米国連邦法人所得税制下での暖簾の史的展
開」, 『国民経済雑誌』, 第170巻, 第40号, 2002
年, 60-76.
 13. 興津裕康・大矢知浩司編, 『現代会計用語辞典(第
2版)』, 税務経理協会, 2002年, (編集協力, 執
筆分担).
 14. 神戸大学会計研究室編, 『会計学事典(第5版,
改訂増補版)』, 2001年, (執筆分担).
- (他学術論文7編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. Academy of Accounting Historians
2. Business History Conference
3. 日本会計研究学会
4. 日本簿記学会
5. 日本会計史学会
6. 経営史学会
7. 財務会計研究学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：日本会計史学会(2001年-現在)
日本簿記学会(2005年-現在)
2. レフェリー：Business History Review, ビジネス・インサイト

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本簿記学会・学会賞(2008年)
2. 日本会計研究学会・太田・黒沢賞(2004年)
3. 日本会計史学会・学会賞(2004年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：若手研究(B)(2), 「無形資産会計の比較制度分析」, 2005-2007年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Academics: Cardiff Business School, 2008.
2. Visiting Scholar: Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University, 2004-2005.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. The evolution of accounting history research in Japan: analysis of the research database of Kaikei, 1917-2004, 5th Accounting History International Conference/5th Accounting History International Conference, Banff Centre, Aug. 2007, (jointly presented with T. Nakano and T. Hashimoto).
2. Initial intent and development of employee ownership plans: The case of a Japanese trading company in the early twentieth century, Business History Conference/Business History Conference, Case Western Reserve University, Jun. 2007, (jointly presented with S. Fujimura and M. Inoue).

【9】 現在の研究活動

1. 「無形資産会計の史的研究」：現在米国 FASB 等の会計基準設定団体において、会計基準の改定作業が進められている領域の一つに企業結合および無形資産がある。この領域は各国間の基準の相違が現在においても比較的大きく、これらは歴史的な経緯に由来していると考えられる。本研究課題はこれらの歴史的な経緯について、現在もたらされている基準や実務がいかなる社会的、経済的な背景に影響されて展開、形成されてかを研究するものである。
2. 「日本の会計実務の史的展開」：特に 1990 年代以降、会計史研究の国際的潮流は、いわゆる「新しい会計史」を巡るヒストリオグラフィート、実際の企業の会計記録に基づいたアーカイバル・リサーチの大きく 2 つに分かれつつある。本研究は、後者を目指したもので、特に日本企業の会計記録を収集し、それについての分析を行おうと試みるものである。現在、明治期より第二次世界大戦以前の会計帳簿についての資料の収集を行っている途上であり、特にシャンド・システムと呼ばれる銀行簿記より派生した日本独特の記帳システムについて研究を進めている。

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師：大阪経済大学(2006-2008年)

40. 栗木 契

職名 准教授

学位 博士(商学)(神戸大学)(1997年)

生年 1966年

学歴

1991年3月 神戸大学経営学部卒業

1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1997年4月 岡山大学経済学部講師

1999年4月 岡山大学経済学部助教授

2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 マーケティング, 研究指導(昼間主),
経営学入門

大学院 (一般) 定性的方法論研究, 演習,
マーケティング研究

大学院 (MBA) マーケティング応用研究,
現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『ビジネス三国志』, プレジデント社, 2009年,
(石井淳蔵, 清水信年, 西川英彦, 水越康介, 吉田満梨との共著).
- 『売れる仕掛けはこうしてつくる』, 日本経済新聞社, 2006年, (余田拓郎, 清水信年と共編著).
- 『ゼミナール・マーケティング入門』, 日本経済新聞社, 2004年, (石井淳蔵, 嶋口充輝, 余田拓郎との共著).

- 『リフレクティブ・フロー: マーケティング・コミュニケーション理論の新しい可能性』, 白桃書房, 2003年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「日本企業に見るウェブサイトのマーケティング利用」, 『マーケティングジャーナル』, 第29巻, 第1号, 2009年, 45-61, (水越康介, 宮本次郎との共著).
- 「構築主義の視角によるマーケティング・リサーチ再考—マーケティングにおける質的リサーチの有効性—」, 『流通研究』, Vol.10, No.3, 2008年, 1-18, (後編). 『流通研究』, Vol.10, No.1・2, 2007年, 29-43, (前編).
- 「マーケティングにおけるデザインの畏」, 『流通研究』, 第9巻, 第1号, 2006年, 17-40.
- 「マーケティング・コミュニケーションの可能条件」, 『流通研究』, 第5巻, 第2号, 2002年, 1-15.
- 「消費における二重の情報処理: 消費者情報処理から消費欲望の創発へ」, 『流通研究』, 第4巻, 第1号, 2001年, 1-14.
- 「マーケティング理論のフロンティア: 可能性へ向かう物語」, 『マーケティングジャーナル』, 第14巻, 第2号, 1994年, 59-71.

3. その他国内論文

- 「成長拡大する事業デザイン: セグメンテーションを超えて」, 『産業広告』, 第40巻, 第7号, 2008年, 16-20.
- 「家庭用テレビゲーム産業におけるビジネスシステムの複合競争」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第56巻, 1号, 2008年, 46-60.
- 「顧客志向の標的」, 『マーケティングジャーナル』, Vol.27, No.2, 2007年, 29-40.
- 「構想としてのマーケティング・リサーチ」, 『国民経済雑誌』, 第195巻, 第5号, 2007年, 39-57.
- 「仮想経験が拡充するネット・コミュニティのビジネス・モデル」, 石井淳蔵, 水越康介編, 『仮想経験のデザイン: インターネットマーケティングの新地平』, 有斐閣, 2006年, 367-394.
- 「ブランド価値のデザイン」, 青木幸弘, 恩蔵直人編, 『現代のマーケティング戦略 第1巻・製品・ブランド戦略』, 有斐閣, 2004年, 111-135.

7. 「ロールプレイング・ゲームとコミュニティの結合：オンライン・ゲーム『リニジ』」, 石井淳蔵・渥美尚武編, 『インターネット社会のマーケティング』, 有斐閣, 2002年, 209-223.
8. 「エクセレント・サービスに見る『選択ルールの選択』」, 『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』, 第26巻, 第6号, 2001年, 123-127.
(他23編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 組織学会
3. 日本消費者行動研究学会
4. 日本情報経営学会
5. American Marketing Association

【4】 学会における活動

1. 理事：日本商業学会(2008年-現在)
2. 幹事：日本消費者行動研究学会(2009年-現在)
3. レフェリー：流通研究, マーケティングジャーナル, KEIO SFC ジャーナル
4. 特集エディター：日本情報経営学会誌

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本商業学会 優秀論文賞, 2009年度
2. 電気通信普及財団・第18回・テレコム社会科学賞・奨励賞, 2002年度
3. マーケティングジャーナル 2000年度代表論文

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 村田学術振興財団研究助成, 2009年
2. 文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B), 2003-2005年
3. ウエスコ学術振興財団助成研究, 2000年
(他2件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Research on Corporate Brand Management by Asian Productivity Organization (2007-2008年)
2. Visiting Scholar of Temple University Fox School(2005年)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. マーケティング活動が市場の潜在性を活性化するプロセス, およびそのデザイン枠組みに関する理論研究, 実証研究.
2. 日本企業によるウェブサイトのマーケティング利用に関する理論研究, 実証研究.
3. ブランド価値が消費者行動, および企業行動におよぼす影響に関する理論研究, 実証研究.

【10】 社会活動・実務経験

1. 関西生産性本部, KPC マネジメント・スクール, コース・コーディネーター(2009年)
2. 神戸経済同友会・平成20年度・提言特別委員会・特別委員(2008年)
3. 神戸の近代化遺産を再評価するための懇話会(神戸市)委員(2007年)
4. NEC 事業システム変革実践コース, コーディネーター(2003-2004年, 2007-2009年)
5. 神戸ファッション美術館再構築検討委員会(神戸市)専門委員(2003年)
6. 日本マーケティング協会, マーケティング・マスター・コース関西, アカデミック・アドバイザー(2001-2004年, 2006-2009年)
7. 社会経済生産性本部, 経営アカデミー, グループ・コーディネータ(2000-2004年, 2006-2008年)
8. 岡山商業タウンマネジメント計画策定委員会副委員長(1999年)

まつおたかみ
41. 松尾貴巳

職名 准教授

学位 修士(経済学)(大阪府立大学)(1991年)

生年 1965年

学歴

1989年3月 神戸商科大学商経学部
(現:兵庫県立大学経営学部)卒業
1991年3月 大阪府立大学大学院経済学研究科博士
前期課程修了

職歴

1991年4月 株式会社三菱総合研究所 入社
1992年4月 同 副研究員
1997年4月 同 研究員
1998年9月 同 経営コンサルティング部
経営システム研究室 退職
1998年10月 大阪府立大学経済学部助教授
2004年1月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 外国語講読(昼間主)
管理会計基礎
大学院 (一般) 演習, 管理会計基礎研究
大学院 (MBA) マネジメントコントロール応用研
究, 日英産業事情応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『自治体の業績管理システム』, 中央経済社, 2009年.
- 『グループ企業の管理会計』, 税務経理協会, 2005年, (木村幾也他と共著).

- 『成功する管理会計システム』, 中央経済社, 2004年, (谷武幸他と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「地方自治体における行政評価の有効性に関する実証研究」, 『公会計研究』, 第10巻, 第1号, 2008年, 37-56.
- 「ABC導入が財務成果に与える影響についての経験的研究」, 『原価計算研究』, 32巻, 第2号, 2008年, 84-93, (大浦啓輔, 新井康平と共著).
- 「管理会計システムの導入がもたらす組織変革プロセスの研究:(株)飯田におけるABC導入の質的研究」, 『管理会計学』, 第16巻, 第2号, 2008年, 3-21, (大浦啓輔, 新井康平と共著).
- 「新須磨病院整形外科におけるBSCの導入についての時系列分析」, 『原価計算研究』, 第29巻第1号, 2005年, 35-46, (谷武幸, 三矢裕と共著).

(他論文1編)

3. その他国内論文

- 「分権的組織の管理会計研究の回顧と展望」, 『国民経済雑誌』第198巻, 第1号, 2008年, 61-77, (挽文子, 新井康平と共著).
- 「卸売業におけるABC導入事例研究—(株)飯田のケース—」, 『会計』, 第172巻, 第6号, 2007年, 41-53, (大浦啓輔, 新井康平と共著).
- 「戦略志向の業績評価システムにおける非財務指標の導入プロセスと課題—A社のケース—」, 『国民経済雑誌』, 第194巻, 第4号, 2006年, 73-89.
- 「地方公共団体における業績評価システムの導入研究—予算編成における行政評価システムの意義とその効果についての実証分析—」, 『会計検査研究』, 第33号, 2006年, 121-135.

(他論文18編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

ともに、客員研究員

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本原価計算研究学会
3. 日本管理会計学会
4. 国際公会計学会
5. EAA(ヨーロッパ会計学会)

【4】 学会における活動

1. 常務理事, 事務局長: 国際公会計学会(2005-2007年)
2. 常務理事: 国際公会計学会(2007年-現在)
3. 常任理事: 日本原価計算研究学会(2006年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本原価計算研究学会: 論文賞(2007年)
2. 日本管理会計学会: 文献賞(2009年)
3. 日本原価計算研究学会: 学会賞(2009年)
4. 国際公会計学会: 学会賞(2009年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省 平成 20 年度大学改革推進等補助金 大学教育の国際化加速プログラム(海外先進教育研究実践支援; 研究実践型)「非営利組織経営管理の研究・教育の高度化」, 2007年
2. 文部省科学研究費: 基盤研究(C), 「パブリック・セクターにおける業績管理システムの導入研究」, 2006-2007年
3. 文部省科学研究費: 奨励研究(A), 「事業部門業績管理における活動基準原価計算およびバランススコアカードに関する研究」, 2001-2002年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Gothenburg 大学(Sweden), 2008年6月-10月
2. Zaragoza 大学(Spain), 2008年10月-2009年3月

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. “Performance Measurement in Bureaucratic Public Administration Styles : An Investigation into Spanish and Japanese Local Governments”, EGPA Conference 4th September, 2009, ST JULIANS, MALTA, (jointly presented with Lourdes Torres and Vicente Pina).
2. “An Empirical Analysis of Customer-Specific Cost Behavior”, 32th EAA Annual Congress, Tampere, 15th, May, 2009, (jointly presented with Keisuke Oura).

【9】 現在の研究活動

1. 地方自治体組織において近年導入・整備が進められてきた業績管理システムについて、管理会計システムの導入研究の観点から導入上の促進・阻害要因を検討している。
2. わが国自治体の業績管理システムの特徴について、国際的な比較研究に基づき検討している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 神戸市行財政改善懇談会 委員(2009年)
2. 奈良県営住宅指定管理者選定審査会 会長(2008年-現在)
3. 地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会委員(2008年-現在)
4. 大阪版市場化テスト監理委員会 委員長代理(2007年-現在)
5. 神戸市立市民病院経営委員会 委員(2006-2007年)
6. 伊丹市行財政改革推進懇話会 副会長(2005-07年)
7. 奈良県公の施設指定管理者選定審査会 会長(2005-07年)
8. ㈱三菱総合研究所 客員研究員(2001-2009年)
9. ㈱三菱総合研究所 社員として就業(1991-1998年)

みやほらやすゆき
42. 宮原泰之

職名 准教授

学位 博士(経済学)(神戸大学)(2000年)

生年 1971年

学歴

1995年3月 神戸大学経営学部卒業

1997年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了

2000年9月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2000年6月 神戸大学経済経営研究所講師(研究機
関研究員)

2001年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 組織と情報, 外国書講読(昼間主),
研究指導(昼間主), 情報基礎

大学院 (一般) 決定分析特論, 経営データ解析研究,
組織と情報研究

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「申告納税制度の契約構造」, 『産業経理』, 第 66 巻, 第 2 号, 2006 年, 109-116, (鈴木一水との共著).
2. 「隠れた行動と情報における効率性に関する分析」, 『国民経済雑誌』, 第 190 巻, 第 5 号, 2004 年, 27-39.
3. 「観測費用を伴う繰り返し囚人のジレンマ・ゲームにおける評判の形成: ランダム・マッチング・モデル」, 『国民経済雑誌』, 第 188 巻, 第 2 号, 2003 年, 97-108.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The Folk Theorem for Repeated Games with Observation Costs, *Journal of Economic Theory*, Vol. 139, 2008, 192-221, (co-authored with Eiichi Miyagawa and Tadashi Sekiguchi).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: Games and Economic Behavior, Japanese Economic Review

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「報酬制度における主観的評価とモニタリングに関する分析」, 2008-2010年

2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「世代重複モデルにおける企業内インセンティブ・システム設計に関する研究」, 2003 -2005 年(海外長期出張のため 2004 年辞退)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Department of Economics, Columbia University, U.S.A., 9-8, 2004-2005
2. Visiting Scholar: Department of Economics, University of Pennsylvania, U. S. A., 1-8, 2004

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 組織内におけるモニタリングに関する研究を行い、最適な報酬体型について分析している。
2. 無限繰り返しゲームにおける費用を伴う観測について分析している。
3. 有限繰り返しゲームにおいて観測が協力の創出にどのような影響を与えるのかについて分析している。

【10】 社会活動・実務経験

なし

よ さ の ただ の り 43. 與三野禎倫

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2002年)

生年 1968年

学歴

1994年3月 京都大学経済学部卒業

1999年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2002年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1994年4月 株式会社 日立製作所

1999年4月 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2002年4月 岡山大学経済学部助教授

2004年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 国際環境会計, 初級簿記, 工業簿記,
会計システム特殊講義(国際財務報告基準)

大学院 (一般) 財務会計特殊研究(会計実証分析),
会計制度特殊研究(国際会計)

大学院 (MBA) 現代経営学応用研究(企業評価)

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『知的資産ファイナンスの探求—知的資産情報と投資・融資意思決定のメカニズム』, 中央経済社, 2007年, (古賀智敏, 榊原茂樹と共編著).
- 『ストック・オプション会計と公正価値測定』, 千倉書房, 2002年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「知的資産ファイナンスにおける非財務情報の有効活用と今後の展望—実態調査を基礎として(その3・終)—」, 『企業会計』, 第61巻, 第1号, 2009年, 129-135, (古賀智敏と共著).
- 「知的資産情報と金融機関の融資条件に関する影響分析—実態調査を基礎として(その2)—」, 『企業会計』, 第60巻, 第12号, 2008年, 124-132, (古賀智敏と共著).
- 「知的資産情報と金融機関の信用評価プロセス／評価基準—実態調査を基礎として(その1)—」, 『企業会計』, 第60巻, 第11号, 2008年, 123-130, (古賀智敏と共著).
- 「企業価値評価と合併・買収に関する資本市場の影響分析」, 『国民経済雑誌』, 神戸大学経済経営学会, 第198号, 第3巻, 2008年, 63-78, (島田佳憲と共著).
- 「知的資本の重要性と開示」, 『商学論究』, 55巻, 1号, 2007年, 19-35.
- 「知的資産の重要性と開示」, 『商学論究』(関西学院大学商学研究会), 第55巻, 第1号, 2007年, 19-35, (榊原茂樹, ポー・ハンソンと共著).
- 「企業の研究開発投資と株価形成」, 『証券アナリストジャーナル』, 第44巻, 第7号, 2006年, 48-58, (榊原茂樹, 鄭義哲, 古澄英男と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Intellectual capital disclosures in Japanese IPO prospectuses, *Journal of Human Resource Costing & Accounting*, Volume:13, Issue:4, pp:316-337, 2009 (Co-authored with Rimmel, G. and Nielsen, C.).

3. その他海外論文

- Influence of Intellectual Capital Information on

Credit Risk Rating Process/Criterion and Credit Conditions -Survey Analysis of Japanese Financial Institutions, *Proceedings of 4th Work Shop on Visualising, Measuring and Managing Intangibles and Intellectual Capital*, 2008, (co-authored with Koga, C.).

2. Value Relevance of R&D Capital Information: Evidence from Tokyo Stock Exchange, *Proceedings of 2nd Work Shop on Visualising, Measuring and Managing Intangibles and Intellectual Capital*, No.6, 2006, 1-30, (co-authored with Sakakibara, S., Jung, E. J. and Kozumi, H.).
3. Japanese analysts' perception of intellectual capital information, *Proceedings of 1st Work Shop on Visualising, Measuring and Managing Intangibles and Intellectual Capital*, 2005, 1-26, (co-authored with Sakakibara, S. and Hansson, B.).

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 国際会計研究学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー：国民経済雑誌，ビジネス・インサイト

【5】 学会賞等の受賞歴

1. PriceWaterHouseCoopers Award for the “Best Junior Contribution to the Development of Intangibles and IC theory and Practice”(2008)
2. 日本会計研究学会・太田・黒澤賞(著作賞)(2003年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 日本学術振興会科学研究費補助金：基盤研究(B), 「企業の資本政策とディスクロージャーに関する理論的・実証的研究」, 2008-2010年
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「新株予約権の会計測定に関する理論的・実証的研究」, 2003-2005年
3. 文部科学省科学研究費補助金・特別研究員奨励費, 1999-2002年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar of Haas School of Business at University of California at Berkeley, U. S. (July 2009 – present).
2. Visiting Researcher Fellow of school of Sustainable Development of Society and Technology at Mälardalen University, Sweden (March 2009 – July 2009).

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. “Influence of Intellectual Capital Information on Credit Risk Rating Process/Criterion and Credit Conditions -Survey Analysis of Japanese Financial Institutions”, 4th Work Shop on Visualising, Measuring and Managing Intangibles and Intellectual Capital (Hasselt, Belgium).

【9】 現在の研究活動

1. 知的資産の開示・評価モデルと資金調達スキームの構築に関する理論的・実証的研究
2. 企業の資本政策・ディスクロージャーと資本市場に関する理論的・実証的研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 日立製作所・経理部勤務(1994-1995年)
2. 三洋電機株式会社・過年度決算調査委員会事務局長(2007年)
3. 独立行政法人・中小企業基盤整備機構・中小企業知的資産経営研究会委員(2007年-現在)
4. 独立行政法人・中小企業基盤整備機構・中小企業知的資産経営ファイナンス研究会(ワーキンググループ)委員(2007-2008年)
5. 独立行政法人・中小企業総合研究機構・平成20年度・OECD 中小企業作業部会・高成長中小企業の実態調査に関する研究会委員(2008年)
6. 経済産業省・産業技術環境局・産業技術政策課平成20年度・産業技術調査・技術評価による資金調達円滑化調査研究委員(2008-2009年)
7. 経済産業省・知的財産政策室・平成20年度・知的資産経営評価融資研究会副座長(2008-2009年)

44. 畠田 敬

はたけだ たかし

職名 准教授

学位 博士(経済学)(大阪大学)(2002年)

生年 1970年

学歴

1993年3月 神戸大学経営学部卒業
1996年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期修了
1999年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学

職歴

1999年4月 流通科学大学商学部専任講師
2002年4月 日本大学経済学部専任講師
2003年4月 日本大学経済学部助教授
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 金融機関, 研究指導(昼間主), 証券市場
大学院 (一般) ファイナンス特殊研究, 演習,
ファイナンス特論, 金融機関研究
大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「日本における銀行信用波及経路の重要性」,
『ファイナンス研究』, 第22号, 1997年, 15-32.

3. その他国内論文

1. 「わが国の銀行部門における流動性需要について—共和分回帰分析による検証—」, 『国民経済雑誌』, Vol.196, No.3, 2007年, 43-55.
2. 「『説明困難な壁』を乗り越える挑戦(<第57回ワークショップ特集>配当政策の理論と実践)」, 『Business insight: the journal for deeper insights into business』, Vol.15, No.2, 2007年, 6-21.
3. 「ペイアウトと現金保有」, 『証券アナリストジャーナル』, 第44巻, 第7号, 2006年, 6-20, (砂川伸幸, 山口聖と共著).
4. 「自己株式取得による株価への効果—2001年10月の商法改正以降のイベントを用いたマーケット・モデルによるイベントスタディ分析—」, 『茨城大学人文学部紀要(社会科学論集)』, 第42号, 2005年, 67-97, (池田義男と共著).
5. 「収入に関する不確実性および費用に関する不確実性が設備投資に及ぼす影響」, 『紀要』, 第35号, 2005年, 99-109.
6. 「自己株式取得による株価への効果—2001年10月の商法改正以降のイベントを用いたマーケット調整済み収益モデルによるイベントスタディー分析—」, 『産業経営研究』, 第27号, 2005年, 27-48.
7. 「規制緩和と自社株買入れ発表による株価への効果」, 『経済学集志』, 第73巻, 第3号, 2003年, 211-220.
8. 「企業の設定投資行動と資本市場の不完全性: 近年の実証分析による展望」, 『経済集志』, 第72巻, 第4号, 2002年, 127-136.
9. 「産業全体に関する錯乱的な要因による変動が与える設備投資への短期的・長期的な効果」, 『経済集志』, 第72巻, 第3号, 2002年, 595-612.
10. 「わが国の信用市場において」, 『政策メッセ99論文集』, No.1, 2000年, 100-109.
11. 「わが国の信用市場における株価(資産価格)の役割」, 『流通科学大学論集—経済・経営情報編』, 第8巻, 第3号, 2000年, 33-45.
12. 「流動性制約と銀行貸出の関係について」, 『流通科学大学論集—経済・経営情報編』, 第8巻, 第3号, 2000年, 21-32.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Stock Price Behavior Surrounding Stock Repurchase Announcements: Evidence from Japan, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.12, No.3, 2004, 271-290, (co-authored with N. Isagawa).
2. Bank lending behavior under a liquidity constraint, *Japan and the World Economy*, Vol. 12, No.2, 2000, 127-141.

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: Japan and the World Economy, 金融経済研究, 現代ファイナンス, 日本経営財務研究

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「銀行による流動性需要について」, 2006-2007年
2. 全国銀行学術研究振興財団, 「Bank's Share Repurchase Behavior: Evidence from Japan」, 2005年度

(その他2件)

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「銀行による流動性需要について」 近年においてわが国の銀行部門による流動性需要の高まりについてどのような要因によって説明されるかについて理論モデルを構築し, そのモデルに基づいて実証的な検証を行う(科研費・若手研究(B))。
2. Bank's Share Repurchase Behavior: Evidence from Japan, 商法改正後の2002年3月から2003年3月の期間において, 日本の銀行業に関する自己株式取得に関する意思決定問題についての検証を行う(全国銀行学術振興財団)。
3. 「企業の設備投資と資本構成の関係について」, わが国の個別企業データを用いて, 企業の資本構成が設備投資行動にどのように影響を与えるかについて実証的な検証を行う。

【10】 社会活動・実務経験

なし

45. 鈴木 竜太

すずきりゅうた

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1999年)

生年 1971年

学歴

1994年3月 神戸大学経営学部卒業

1996年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

1999年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1997年4月 静岡県立大学経営情報学部助手

2001年4月 静岡県立大学経営情報学部専任講師

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国語講読(昼間主), 研究指導(昼間主),
企業と経営

大学院 (一般) 経営管理特殊研究(組織行動), 演習

大学院 (MBA) 組織行動応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『自律する組織人：組織コミットメントとキャリア論からの展望』, 生産性出版, 2007年.

2. 『組織と個人：キャリア発達と組織コミットメントの変化』, 白桃書房, 2002年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「組織文化と組織コミットメントの関

する実証研究：クロスレベル分析を通じて」, 『組織科学』, 第41巻, 2007年, 106-116, (北居明と共著).

2. 「大卒ホワイトカラーにおける組織を背負う意識に関する実証研究」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 2007年, 57-73, (北居明と共著).

3. 「30代ホワイトカラーのキャリア・マネジメントに関する実証研究：ミス＝ドリフト・マトリクスの視点から」, 『経営行動科学』, 第20巻, 第3号, 2007年, 301-316, (加藤一郎と共著).

4. 「コープこうべの店舗における組織コミットメントとその決定要因：組織文化とリーダー行動を中心として」, 『経営行動科学』, 第14巻, 第3号, 2001年, 129-141.

5. 「個人と組織のかかわり合いとキャリア発達」, 『日本労働研究雑誌』, 第455号, 1998年, 13-26, (金井壽宏, 松岡久美と共著).

3. その他国内論文

1. 「日本的キャリアシステムの価値創造メカニズム」, 一橋ビジネスレビュー, 第56巻, 第1号, 76-92, 2008年.

2. 「組織文化と組織コミットメントの関係に関する実証研究：クロス・レベル分析を通じて」, 神戸大学ディスカッションペーパー 2006-36, 2006年, (北居明と共著).

3. 「大卒ホワイトカラーにおける組織を背負う意識に関する実証研究」, 神戸大学ディスカッションペーパー 2006-13, 2006年.

4. 「組織行動論における集団特性の分析手法：マルチレベル分析に関する研究ノート」, 神戸大学ディスカッションペーパー 2005-45, 2005年, (北居明と共著).

5. 「大学生のベンチャー志向と大企業志向に関する実証研究」, 静岡県立大学経営情報学部紀要『経営と情報』, 第17巻, 第1号, 2004年, 11-19.

6. 「キャリア・ドリフト論序説」, 静岡県立大学経営情報学部紀要『経営と情報』, 第13巻, 第1号, 2001年.

7. “An empirical research about differences of organizational commitment between full-timer and part-timer”, 静岡県立大学経営情報学部 Working Paper Series 0005, 2000年.

8. 「組織コミットメント研究におけるサイドベクトル理論の展開」, 静岡県立大学経営情報学部紀要

『経営と情報』, 第10巻, 第1号, 11-26, 1998年.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “Career “Mist,” “Hope,” and “Drift””: Conceptual Framework for Understanding Career Development in Japan”, *Career Development Journal*, Vol. 11, No. 3, 2006, 265-276, (co-authored with Ichiro Kato).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 経営行動科学学会
3. Academy of Management

【4】 学会における活動

1. 監事：経営行動科学学会(2004-2008年)
2. レフェリー：組織学会，経営行動科学学会，産業組織心理学会
3. 学会賞審査委員：経営行動科学学会
4. 評議員：組織学会(2009年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 第1回 経営行動科学学会優秀研究賞(2003年)
2. 第25回 組織学会高宮賞(2009年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：若手研究(B)，2007年-現在
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B)，「日本型キャリア発達論に関する実証研究」，2002-2004年
3. 社会経済生産性本部研究助成金，2006年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting researcher: University of North Carolina, Chapel hill (1999-2000)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Matsumoto, Y., Kato, I., & Suzuki, R., “Are we bad dancers? Skills and its influences on career in Japan”, European Group for Organizational Studies, Wien, Austria, 2007.

【9】 現在の研究活動

1. 日本型マネジメントの組織行動論的分析
・日本企業のマネジメントを組織行動論の観点から分析し，日本的なマネジメントの特徴を明らかにした上で，日本的経営の再検討を行う
2. マルチレベル分析を用いた組織コミットメントの研究
・組織・職場・個人という異なるレベルの要因が組織コミットメントにどのように影響しているのかをマルチレベル分析の手法を用いて分析し明らかにする。また組織を背負う意識に注目し，あわせてマルチレベル分析によってその影響要因を明らかにする。
3. 日本の大卒ホワイトカラーのキャリアの研究
・キャリア論においてあまり注目されていない初期と中期の間におけるキャリア課題を明らかにするとともに，日本の文脈に乗っ取ったキャリア論を構築する。

【10】 社会活動・実務経験

なし

46. ^{まつしま}松嶋 ^{のぼる}登

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2002年)

生年 1973年

学歴

1997年3月 琉球大学法文学部経済学科卒業
1999年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
2002年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2002年4月 東京都立大学経済学部講師
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国語講読(昼間主),
研究指導(昼間主・夜間主)
大学院 (一般) 経営管理特殊研究(組織理論),
定性的方法論研究, 演習
大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「制度的企業家というリサーチ・プログラム」,
『組織科学』, Vol.43, No.1, 2009年, 43-52, (高橋勅徳と共著).
2. 「経営情報学における解釈主義の「実践」」, 『日

本情報経営学会誌』, Vol. 29, No.2, 2008年, 14-25.

3. 「制度的戦略のダイナミズム：オンライン証券業界における企業間競争と市場の創発組織科学」, 『組織科学』, Vol.42, No.2, 2008年, 4-18, (水越康介と共著).
4. 「病院組織の情報経営：都立病院における電子カルテ導入事例の計量的モノグラフ」, 『日本情報経営学会誌』, 第28巻, 第1号, 2007年, 67-76.
5. 「経営学における技術研究の理論的射程」, 『科学技術社会論研究』, 第4号, 2006年, 15-29.
6. 「経営現象のオントロジカル・ゲリマンダリング：意図せざる結果分析の構成主義的展開に向けて」, 『経営と制度』, 第2号, 2005年, 23-34.
7. 「制度変化に対する情報技術の役割」, 『オフィス・オートメーション』, Vol.24, No.1, 2003年, 4-11.
8. 「組織における電子コミュニケーション研究の新展開」, 『経営行動科学』, 第15巻, 第3号, 2002年, 189-203.
(他2編)

3. その他国内論文

1. 「企業家研究のビッグ・ストーリー：方法としてのナラティブ・アプローチ」, 『国民経済雑誌』第200巻, 第3号, 2009年, 47-69, (高橋勅徳と共著).
2. 「制度変化の理論化：制度派組織論における理論的混乱の克服に関する一考察」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第4号, 2007年, 33-63, (浦野充洋と共著).
3. 「東京都保健局・病院経営本部 重要課題研修「経営研修」(研究コース)平成16年度研究報告(増補拡大版)」, 『首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻リサーチ・ペーパー』, 第24号, 2007年.
4. 「企業家による翻訳戦略：アクター・ネットワーク理論における翻訳概念の拡張」, 『科学技術実践のフィールドワーク：ハイブリッドのデザイン』, せりか書房, 2006年, 110-127, (上野直樹, 土橋臣吾編).
5. 「ホームオフィス導入による組織変革：情報技術利用をめぐる意図せざる結果」, 『企業の発展』, 八千代出版, 2002年, (米倉誠一郎編著).
6. 「組織変革過程における新人の適応と育成：ホームオフィス制度実施下の組織における事例

研究」,『神戸大学大学院経営学研究年報』, XLV, 1999年, 155-237, (上野山達哉, 木村水早子, 金井壽宏と共著)
(他論文 39編, 書評 2編, 翻訳 1編, 寄稿 3編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Industrial innovation in Japan*, Routledge, 2008, (co-authored with T. Hara, N. Kanbayashi).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. “Institutional change and the emergence of electronic transactions in the Japanese manufacturing industry; Beyond the dichotomy of technical efficiency and social legitimacy in institutions”, edited by Hara, T., Kambayashi, N. and Matsushima, N., *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008, pp.38-68, (co-authored with Miyamoto, T. and Urano, M.).
2. “Emerging competitive value in use with materiality: Competitive transformation of business system about online securities market in Japan”, edited by Hara, T., Kambayashi, N. and Matsushima, N., *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008, pp. 174-191, (co-authored with Mizukoshi, K.).

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 日本経営学会
3. 日本情報経営学会(旧オフィス・オートメーション学会)
4. 科学技術社会学論学会
5. 経営情報学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: 組織学会, 日本情報経営学会, 経営行動学会

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本情報経営学会論文賞(2009年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費: 基盤研究(B), 「経営戦略論における競争観の理論的刷新に関する研究」, 2006-2008年.
2. 文部省科学研究費: 基盤研究(B), 「企業の情報化をめぐる社会構成主義アプローチの理論的・経験的検討」, 2003-2004年.

(その他 2件)

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「現場の情報化」: 組織の現場レベルの実践として情報技術の利用を捉える理論的パースペクティブの開発と分析。とくに病院組織における電子カルテ導入事例について分析を行っている。
2. 「構成主義における定量分析」: 構成主義方法論の分析実践として統計技法を利用した定量的分析を位置づける。
3. 「制度的企業家」: 制度に埋め込まれながら制度を変更するという一見するとパラドキシカルな命題に対して, 制度理論の刷新とともに挑む。
4. 「翻訳戦略としての競争」: 科学技術社会学において勃興しているアクター・ネットワーク理論を援用することによって, 経営者ないし企業家が経営戦略を実現する交渉的過程を分析する理論的パースペクティブの開発と分析。

【10】 社会活動・実務経験

1. 東京都病院経営研修(2003-2005年)
2. 日本情報処理開発協会「IT経営の総合評価に関する調査委員会」委員(2007年-現在)
3. 日本情報処理開発協会「IT経営力総合評価モデル構築WG」主査(2007年-現在)

47. 三古展弘

さんこのぶひろ

職名 准教授

学位 博士(工学)(名古屋大学)(2005年)

生年 1975年

学歴

1999年3月 名古屋大学工学部卒業

2001年12月 フランス国立ポンゼショセ工科大学国際経営大学院修了(MBA)

2002年3月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程(前期課程)修了

2005年3月 名古屋大学大学院環境学研究科博士課程(後期課程)修了

職歴

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国書講読(昼間主)

大学院 (一般) 統計的方法論特殊研究(非集計データ分析)

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「居住地の交通利便性を考慮した世帯の自動車・二輪車保有モデルの時点間比較—中京都市圏を例として—」, 『土木計画学研究・論文集』, Vol. 22, 2005年, 541-550, (前嶋宏明, 山本俊

行, 森川高行と共著).

2. 「世帯単位で見た居住地・自動車保有・自動車旅行距離の関係の経時分析」, 『土木計画学研究・論文集』, Vol. 21, 2004年, 523-530, (森川高行と共著).

3. 「非集計交通手段選択モデルにおける修正された選択肢固有定数項の時間移転性」, 『都市計画論文集』, No. 39-3, 2004年, 511-516, (森川高行と共著).

4. 「新交通システム需要予測の事後評価—ピーチライナーを例として—」, 『運輸政策研究』, Vol. 7, No. 2, 2004年, 20-29, (森川高行, 永松良崇と共著).

3. その他国内論文

1. 「質問形式に着目した選好意識調査のパラメータ推定効率性の検討：ダブルバウンド形式質問の場合」, 『国民経済雑誌』, 第200巻, 第4号, 2009年, 45-54.

2. 「意思決定方略の仮説が個人行動モデルに及ぼす影響の実証的分析」, 『土木計画学研究・講演集』, No.25(CD-ROM), 2002年, (倉内慎也, 森川高行, 大橋聡子と共著).

(他論文16編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Inter-Temporal Analysis of Household Car and Motorcycle Ownership Behaviors – The Case in the Nagoya Metropolitan Area of Japan, 1981-2001 –, *IATSS Research*, Vol. 33, No. 2, 39-53, 2009, (co-authored with D. Dissanayake, S. Kurauchi, H. Maesoba, T. Yamamoto, and T. Morikawa).

2. Choice Models Using Matching Data, In : R. Kitamura, T. Yoshii, and T. Yamamoto(ed.) *The Expanding Sphere of Travel Behaviour Research: Selected Papers from the 11th International Conference on Travel Behaviour Research*, 2009, 571-594 (co-authored with T. Morikawa).

(他論文1編)

3. その他海外論文

1. Analysis on the Structural Characteristics of the Station Catchment Area in Japan, paper presented at *the 11th International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport*, Delft, the Netherlands, Sep.2009, (co-authored with K. Shoji).
2. Inter-Temporal and Inter-Regional Analysis of Household Behaviors on Car and Motorcycle Ownership in Asian Metropolitan Cities: Bivariate Ordered Probit Modeling Approach, Compendium of Papers CD-ROM of *the 85th Annual Meeting of the Transportation Research Board*, Washington D. C., USA, Jan. 2006, (co-authored with D. Dissanayake, S. Kurauchi, H. Maesoba, T. Yamamoto, and T. Morikawa).
3. Best Practice in SP Design, *Proceedings of European Transport Conference 2002* (CD-ROM), Cambridge, UK, Sep. 2002, (co-authored with A. Daly, and E. Kroes).

(他論文 3 編)

【3】 主要所属学会

1. 土木学会
2. 日本都市計画学会
3. 日本交通学会
4. The International Association for Travel Behaviour Research

【4】 学会における活動

1. レフェリー : Transportation Research Board, Transportation, EASTS, IATSS Research, Conference of the IATBR, 土木計画学研究・論文集, 交通工学, 交通学研究
2. 委員 : 土木学会・土木計画学研究委員会 「土木計画のための態度・行動変容研究小委員会」(委員)(2005年6月-2008年5月)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本都市計画学会論文奨励賞(2005年度)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金:若手研究(B),「回答形式に着目した選好意識調査設計に関する基礎分析～交通行動分析を対象として～」, 2007-2009年.

【7】 海外における研究・教育活動

1. インターンシップ(Surface Transport and Aviation Programme at RAND Europe, Leiden, the Netherlands), (Aug.-Dec., 2001) (フランス国立ポロンゼショセ工科大学国際経営大学院在学時)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Effects of Response Formats in Contingent Valuation of Travel Mode Switching Behaviour -- An Inspection for the Effectiveness of One-and-Half Bound SP Data --, The 2nd International Workshop on Advanced Transportation Studies, Hiroshima Univ., Aug. 2007. (jointly presented with T. Morikawa)

【9】 現在の研究活動

1. 「交通行動変化の分析」:交通行動の短期的,中長期的変化をSP(Stated Preference)データ,複数時点のパーソントリップ調査データを用いて分析する.
2. 「自動車・二輪車保有行動分析」:自動車・二輪車保有行動の途上国における分析と先進国における経時分析を行う.モータリゼーションが進展しつつある途上国において,政策の提言を行うことができるようなモデル分析を行う.
3. 「SPデータの効率化」:SPデータの調査設計において,効率的にSPデータを取得する方法や,分析における適切なモデルについて検討する.
4. 「駅勢圏の分析」:JR,阪急,阪神が競合する阪神間の各駅の駅勢圏に影響を与える要因を分析する.

【10】 社会活動・実務経験

1. 関西鉄道協会 都市交通研究所「環境問題と都市交通委員会」(委員)(2006年11月-現在)
2. 関西大学工学部 ゲストスピーカー(2006年度)
3. 名古屋工業大学大学院工学研究科 非常勤講師(2009年度)

48. 馬 岩

職名： 准教授

学位： 博士(商学)(神戸大学)(2005年)

生年： 1973年

学歴

1994年7月 中国長春工業大学電気電子工学部卒業

1997年6月 中国吉林大学大学院商学研究科博士課程前期課程修了

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

1997年7月 中国吉林大学経済学部助手

1999年7月 中国吉林大学経済学部講師

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国書講読(昼間主)

大学院(一般) 市場経済分析特殊研究(市場と均衡)

大学院(MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「流通部門の技術進歩および比較優位」, 『国民経済雑誌』, 第200巻, 第3号, 2009年, 33-46.
2. 「関税と垂直的生産チェーン」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第5号, 2007年, 63-78.
3. 「Yano and Dei モデルの拡張: 企業数の内生化」, 『六甲台論集』, 第51巻, 第1号, 2004年, 1-13.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Trade Theorems in a Model of Vertical Production Chain, *International Review of Economics and Finance*, Vol.18, Number 1, 2009, 70-80.
2. Product Quality, Wage Inequality, and Trade Liberalization, *Review of International Economics*, Vol.17, Issue 2, 2009, 244-260, (co-authored with F. Dei).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. International Economics and Finance Society Japan

【4】 学会における活動

1. レフェリー: Review of International Economics, Economics Bulletin, Keio Economic Studies

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 平成 20 年度大学改革推進等補助金：大学改革推進事業・大学教育の国際化加速プログラム(海外先進教育研究実践支援)(研究実践型), 「プロダクト・サイクルに関する理論的研究」, 2008 年 12 月 9 日-2009 年 3 月 29 日

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar, Vanderbilt University, the United States, December 2008 - May 2009.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Coordination Cost, Product Quality and Product Cycle, The Fifth Annual Meeting of Asia and Pacific Trade Seminars, University of Hong Kong, June 2009.
2. Communication cost, Product Quality and Product Cycle, The First Conference of International Economics and Finance Society China, University of International Business and Economics, May 2009.
3. Wage Inequality vs Welfare Inequality, Midwest International Economics Group Fall 2007 Meeting, University of Michigan, November 2007.

【9】 現在の研究活動

1. プロダクト・サイクルに関する理論的研究
2. 人的資源および国の成長のパターンに関する理論的研究

【10】 社会活動・実務経験

なし

49. かじわらたけひさ
梶原武久

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2009年)

生年 1970年

学歴

1994年3月 神戸大学経営学部卒業
1996年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1997年4月 小樽商科大学商学部講師
1999年10月 小樽商科大学商学部助教授
2004年4月 小樽商科大学大学院商学研究科助教授
2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 研究指導(昼間主), 原価計算システム
大学院 (一般) 管理会計特殊研究(上級管理会計),
原価計算システム研究, 管理会計特論
大学院 (MBA) マネジメントコントロール応用研究,
現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『品質コストの管理会計』, 中央出版社, 2008年.
- 小樽商科大学ビジネススクール編, 『MBAのためのビジネスプランニング』, 同文館出版, 2005年.
- 小樽商科大学ビジネススクール編, 『MBAのた

めのケース分析』, 同文館出版, 2004年.

- 『成功する管理会計システム』, 中央経済社, 2004年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「コストの下方硬直性に関する合理的意思決定説の検証」, 『会計プロGRESS』, 第10号, 2009年, 101-116, (安酸建二と共著).
- 「売上高変動に対する経営者の適応行動: 原価データによる実証分析」, 『原価計算研究』, 第33巻, 第1号, 2009年, 64-75, (安酸建二と共著).
- 「バランス・スコアカード実践の決定要因に関する研究」, 『原価計算研究』, 第33巻, 第2号, 2009年, 1-13, (乙政佐吉と共著).
- 「品質コスト測定がもたらす効果に関する実証研究: サーベイデータに基づく分析」, 『原価計算研究』, 第32巻, 第1号, 2008年, 24-35.
- 「日本の品質管理と品質コスト・ビヘイビア: X工場品質コストデータに基づく分析」, 『会計プロGRESS』, 第8号, 2007年, 35-48.
- 「品質指標が出荷額に及ぼす影響に関する実証分析」, 『原価計算研究』, 第31巻, 第1号, 2007年, 24-35.
- 「ISO9000が財務業績に及ぼす影響に関する実証研究」, 『商経学叢』, 第53巻, 第3号, 2007年, 365-390, (島吉伸, 安酸建二と共著).
- 「日本企業における品質コストシステム実践の多様性とその規定要因」, 第29巻, 第2号, 2005年, 45-55.

3. その他国内論文

- 「環境パフォーマンス指標の内部利用の現状と研究課題」, 『会計』, 第176巻, 第4号, 2009年, 113-124.
- 「環境配慮型設計と原価企画」, 『国民経済雑誌』, 第199巻, 第6号, 2009年, 11-28, (朴鏡杓, 加登豊と共著).
- 「資本予算研究の回顧と展望」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第1号, 2008年, 133-150.
- 「コスト・マネジメント研究の回顧と展望」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第1号, 2008年, 29-42, (吉田栄介, 山田伊知郎と共著).
- 「『品質コスト』にみる日本の品質管理の現状と課題」, 『会計』, 第172巻, 第6号, 2007年, 54-67.

6. 「パフォーマンスフロンティア理論と品質コスト情報/Theory of performance frontier and quality costs information」, 『経理研究』, 第 50 号, 2007 年, 294-303.
7. 「日本型品質管理とインセンティブ報酬」, 『会計』, 第 167 巻, 第 3 号, 2005 年, 382-395.
8. 「ROQ アプローチによる日本的品質管理の再構築」, 『ビジネス・インサイト』, 第 49 号, 2005 年, 8-17.
9. 「日本企業における品質コストシステム実践の現状と課題」, 『経理研究』, 第 48 巻, 2005 年, 271-284.
10. 「日本型品質管理とインセンティブ報酬」, 『会計』, 第 167 巻, 第 3 号, 2005 年, 382-395.
11. 「日本企業における主観的業績評価の役割と特質」, 『管理会計学』, 第 13 巻, 第 1/2 号, 2004 年, 83-94.
12. 「顧客満足度と報酬システム: IT 企業の事例に基づく考察」, 『会計』, 第 165 巻, 第 3 号, 2004 年, 70-82.

(その他論文 15 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本原価計算研究学会
3. アメリカ会計学会
4. American Accounting Association

【4】 学会における活動

1. 理事: 日本原価計算研究学会
2. レフェリー: 原価計算研究

3. 特別委員会委員: 日本会計研究学会

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日経品質管理文献賞(2008 年)
2. 日本管理会計学会文献賞(2008 年)
3. 日本原価計算学会賞(著作賞)(2008 年)
4. 日本原価計算学会賞(論文賞)(2005 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費助成金: 若手研究(B), 「効果的な品質コスト・マネジメントに関する総合的研究」, 2009-2010 年
2. メルコ学術振興財団国際研究交流助成, 2009 年度
3. 住友財団環境助成, 2007 年度
4. 文部科学省科学研究費若手研究(B), 「顧客志向と業績評価・報酬システムに関する研究」, 2003-2005 年
5. 文部科学省科学研究費奨励研究(A), 「原価企画の海外移転に関する研究」, 1998-1999 年

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Researcher: Graduate School of Business Administration, University of Colorado at Boulder, U.S.A., 2001

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 日本企業のコスト・マネジメント活動に関する研究
2. 品質コストに関する研究
3. 環境管理会計に関する研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本ロジスティクス協会物流コスト調査委員会委員(2008 年-現在)
2. 非常勤講師: 小樽商科大学大学院商学研究科(2006 年), 関西大学会計専門職大学院(2008 年-現在), 流通科学大学商学部(2009 年-現在)

やまさきたかし
50. 山崎尚志

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2005年)

生年 1978年

学歴

2000年3月 神戸大学経営学部卒業

2002年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科 COE 研究員

2005年7月 神戸大学大学院経営学研究科助手

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 外国書講読(昼間主)

大学院 (一般) ファイナンス特殊研究(ファイナンス実証), ファイナンス特殊研究(リスクマネジメント)

大学院 (MBA) ファイナンス応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『野球人の錯覚』, 東洋経済新報社, 2008年, (加藤英明と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「わが国株式市場における長期異常収益率の分

析」, 『経営財務研究』, 第28巻, 第1号, 2008年, 15-37.

2. 「上場変更企業における Managers Opportunism の検証 —裁量的会計発生高と Post Listing Return—」, 『現代ファイナンス』, No. 23, 2008年, 109-130, (岡田克彦と共著).

3. 「人員削減と株価パフォーマンス」, 『経営財務研究』, 第27巻, 第2号, 2007年, 54-63, (清水一と共著).

4. 「損保の株価パズル」, 『証券アナリストジャーナル』, Vol.45, No.12, 2007年, 114-123, (井上光太郎, 加藤英明と共著).

5. 「上場変更と株価の長期パフォーマンス—Post Listing Puzzle の日本市場における検証—」, 『現代ファイナンス』, 第18巻, 2005年, 27-45, (岡田克彦と共著).

3. その他国内論文

1. 「保険制度の経済分析」, 甲斐良隆, 榊原茂樹, 若杉敬明編著, 『現代の財務経営<4> 企業リスク管理の理論』(第4章), 中央経済社, 2009年, 61-81.

2. 「損害保険業と企業価値」, 田村祐一郎・高尾厚・岡田太志編著『保険制度の新潮流』, 千倉書房, 第7章, 2008年, 133-148.

3. 「わが国損害保険企業における株主資本コストの推計」, 『保険学雑誌』, 第601号, 2008年, 169-186.

4. 「わが国株式市場における長期異常リターンの測定上の問題点」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第4号, 2008年, 53-65.

5. 「ERM へのファイナンス的アプローチ —ERM は企業価値を向上させるのか?—」, 『損害保険研究』, 第70巻, 第3号, 2008年, 23-40.

6. 「大切な資産を守る」, 榊原茂樹編, 『パーソナルファイナンス入門』(第9章), 中央経済社, 2006年, 107-127.

7. 「「行動保険学」再考」, 『国民経済雑誌』, 第193巻, 第3号, 2006年, 1-10, (高尾厚と共著).

8. 「相互会社は効率的組織形態か?—わが国生保産業にかかる実証研究—」, 『生命保険論集』, 第152号, 2005年, 201-224.

9. 「株式投資収益率の半年効果がファーマ=フレンチの3ファクター・モデルに及ぼす影響と4ファクター・モデル」, 『国民経済雑誌』, 第

192 卷, 第 3 号, 2005 年, 13-24, (榊原茂樹と共著).

10. 「わが国株式市場における「半年効果」と投資家心理」, 『国民経済雑誌』, 第 190 卷, 第 1 号, 2004 年, 53-68, (榊原茂樹と共著).
11. 「わが国における 3 ファクターモデルの検証と株主資本コストの推計」, 『企業会計』, 第 56 卷, 第 7 号, 2004 年, 134-139.
12. 「バリュー・グロース株における 11 月アノマリー」, 『六甲台論集』, 第 50 卷, 第 4 号, 2004 年, 93-107.
13. 「マーケットの非効率性と企業の投資・財務戦略」, 『国民経済雑誌』, 第 186 卷, 第 3 号, 2002 年, 65-77, (砂川伸幸と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Earnings Management and Long Run Market Performance of Firms that List onto Higher Exchange –New Evidence from Japan–, *Proceedings of AsianFA-NFA 2008 International Conference*, CD-ROM, 2008.

【3】 主要所属学会

1. 日本保険学会
2. 日本経営財務研究学会
3. 日本ファイナンス学会
4. 日本リスク研究学会
5. 行動経済学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: Asia-Pacific Financial Markets, 行動経済学会

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本経営財務研究学会(学会賞): 2009 年

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「全社的リスクマネジメントの理論・実証に関する研究」, 2009-2011 年
2. 損保総研: 損害保険研究費助成金, 2006-2008 年

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Earnings Management and Long Run Market Performance of Firms that List onto Higher Exchange –New Evidence from Japan–, AsianFA-NFA 2008 International Conference Pacifico Yokohama, Yokohama, 2008 (jointly presented with Okada Katsuhiko)

【9】 現在の研究活動

1. 損害保険会社の企業価値評価に関する実証研究
2. 全社的リスクマネジメント(ERM)に関する理論・実証研究
3. 企業不動産(CRE)に関する理論・実証研究
4. 日本における企業買収防衛策に関する実証研究
5. 株式市場の季節構造に関する実証研究
6. その他行動ファイナンスに関する実証研究

【10】 社会活動・実務経験

なし

ほりぐちしんじ
51. 堀口真司

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2006年)

生年 1978年

学歴

2001年3月 神戸大学経営学部卒業

2003年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2006年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 外国書購読(昼間主), 社会環境会計
大学院(一般) 定性的方法論研究, 会計制度特殊研究(社会学的分析), 会計制度特殊研究(学際的会計研究), 社会環境会計研究

大学院(MBA) 現代経営学応用研究(環境経営)

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「ステイクホルダー・エンゲージメントの理論的的定位」, 『社会関連会計研究』, 第20号, 2008年, 65-75.

3. その他国内論文

- 「企業の社会的責任を追及する視点—アカウンタビリティの陥穽の傍証として—」, 『会計』, 第176巻, 第1号, 2009年, 61-76.
- 「学際的会計研究の軌跡—Accounting, Organizations and Society, 1976-1985—」, 『国民経済雑誌』, 第198巻, 第5号, 2008年, 47-61.
- 「会計のテクノクラート化と公共性の確保」, 『会計』, 第172巻, 第5号, 2007年, 100-115.
- M. パワー著『監査社会』, 東洋経済新報社, 2003年, (國部克彦と共訳).
- 「会計の科学性と反実在思考」, 『産業経理』, 第66巻, 第3号, 2006年, 88-98.
- 「会計技術の専門性に関する研究」(博士論文), 神戸大学大学院経営学研究科提出, 2006年.
- 「ラトゥーリアン会計研究の視座」, 『六甲台論集—経営学編—』, 第51巻, 第3号, 2004年, 77-98.
- 「オートポイエシス・システム論に基づく会計研究の可能性」, 『六甲台論集—経営学編—』, 第50巻, 第3号, 2003年, 17-34.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

- 日本会計研究学会
- 日本社会関連会計学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：日本社会関連会計学会(2008年-現在)
2. 雑誌編集員：社会関連会計研究(2008年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Reorientation of Stakeholder Engagement, The 9th Interdisciplinary Perspectives on Accounting Conference, University of Innsbruck, July 2009.

【9】 現在の研究活動

1. 学際的な視点から見た会計に関する研究
2. 企業の社会的・環境的側面に関する研究

【10】 社会活動・実務経験

なし

しまだともあき
52. 島田智明

職名 准教授

学位 Ph.D.(INSEAD)

生年 1969 年

学歴

1993 年 京都大学工学部情報工学科卒業
1995 年 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻
修士課程修了
2000 年 シンガポール国立大学大学院 MBA プログ
ラム修了
2002 年 INSEAD M.Sc.プログラム修了
2005 年 INSEAD Ph.D.プログラム修了

職歴

1995 年 A.T. カーニー
1996 年 フラマトムコネクタズインターナシヨナル
1998 年 富士通コンピュータズシンガポール
2005 年 国際大学大学院国際経営学研究科アシスタ
ントプロフェッサ
2007 年 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009 年度)

学 部 Operations Strategy, 外国書講読(taught in
English)
大学院 (一般) 方法論特殊研究(サーベイリサーチ),
Advanced Operations Strategy
大学院 (MBA) リサーチメソッド応用研究, サーベ
イリサーチ応用研究, サーベイリサ
ーチ法応用研究, 日英産業事情応用
研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「大型小売店における環境活動と財務パフォー
マンスの関係に関する実証研究—消費者を
対象とした店頭意識調査の結果に基づいて」,
『国民経済雑誌』, 第200巻, 第4号, 2009年,
69-73.
2. 「グローバル超競争: 日本企業における事例研
究」, 『国民経済雑誌』, 第200巻, 第2号, 2009
年, 67-84, (梅澤高明と共著).
3. 「ブルーオーシャン戦略論の有効性: 日本企業
における事例研究」, 『国民経済雑誌』, 第199巻,
第6号, 2009年, 77-95.
4. 「質的調査によるCSR活動の評価: 企業との共
同研究における思考プロセスの一例」, 『国民経
済雑誌』, 第199巻, 第5号, 2009年, 61-78, (瓜
生原葉子と共著).
5. 「循環型サプライチェーン」の可能性」, 『ビジ
ネス・インサイト』, 第15巻, 第1号(第57号),
2007年, 20-29.
6. Fuji Xerox Eco-Manufacturing: International
Resource Recycling System, *International
University of Japan Case*, 2006, (co-authored with
Sorawis Kemarangi, Kwanrudee Methawattanakul).
7. Mitsubishi Motors Corporation: Product Recalls and
Corporate Social Responsibility, *International
University of Japan Case*, 2005, (co-authored with
Priyanka L. U. Ratnamalala).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Knowledge-based Simulation of Regulatory Action
in Lambda Phage, *International Journal on
Artificial Intelligence Tools*, Vol.4, No.4, 1995,

511-523, (co-authored with Masami Hagiya, Masanori Arita, Shin-ya Nishizaki and Chew Lim Tan).

3. その他海外論文

1. Closed-Loop Supply Chain Activities in the Home Appliance Industry in Japan, *Proceedings of the 8th Decision Sciences Institute International Conference*, 2005, 824-832.
2. CrimsonLogic: The 'E' volution of the Trading Community via a B2B E-Commerce Hub, *INSEAD Case*, 2004, ECCH Reference Number: 604-066-1, (co-authored with Arnoud De Meyer).
3. From EDI to B2B e-Procurement: A Review of Their Benefits and A Proposed Conceptual Model, *Proceedings of the 11th Annual International EurOMA Conference*, 2004, 1127-1136.
4. The Challenges of B2B Exchange Operators in Southeast Asia, *Proceedings of the 9th Association Information et Management Conference*, 2004, 83(5 pages).
5. The 'E'volution of the Public Electronic Trading Community: The Case of e-Hubs in the Hi-Tech Industry, *Proceedings of the 10th Research Symposium on Emerging Electronic Markets*, 2003, 245-255.

【3】 主要所属学会

1. Production and Operations Management Society
2. Decision Sciences Institute
3. Academy of Management
4. Association for Information Systems

【4】 学会における活動

1. Associate Editor: Electronic Commerce Research Journal.
2. Regular Reviewer: Journal of Supply Chain Management, 日本経営工学会論文誌.
3. Occasional Reviewer: Organization Science, Marketing Science, Decision Sciences, IEEE Transactions on Automation Science and Engineering, Journal of Organizational Computing and Electronic Commerce, Electronic Markets: The International Journal, International Journal of

Electronic Business, Journal of Japanese Operations Management and Strategy Association.

4. Program Committee: The 3rd World Conference on Production and Operations Management, Tokyo Japan, August 2008.

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「サプライチェーンにおける企業間情報システムの役割に関する実証研究」, 2007-2008 年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. Member of High Performance Manufacturing Global Survey Project

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. "Recycling Activities in the Electrical and Electronics Industry of Japan", The 68th Academy of Management Annual Meeting, August 2008, Anaheim, California.
2. "Continuous Improvement for Cellular Manufacturing: Case of a Japanese Home Appliance Manufacturer", The 67th Academy of Management Annual Meeting, August 2007, Philadelphia, Pennsylvania.

【9】 現在の研究活動

1. 循環型サプライチェーンの構築
2. サプライチェーンにおける企業間情報システムの意義
3. サプライチェーンにおいて共有される情報の信憑性
4. 環境マネジメントシステムが環境パフォーマンスと財務パフォーマンスの関係に与える影響

【10】 社会活動・実務経験

1. 国際大学 非常勤講師 (2007-2008 年)

53. ^{たかだともみ}高田知実

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)

生年 1979年

学歴

2002年 関西大学商学部卒業

2004年 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2007年 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2007年 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 経営学入門, 監査論, 外国書講読(昼間主)

大学院 (一般) 会計制度特殊研究(監査),
会計制度特論, 監査研究,
会計制度特殊研究

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『テキスト 国際会計基準 [第3版]』, 白桃書房, 2008年, (櫻井久勝他と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「保守主義の指標相互における関連性分析」, 『現代ディスクロージャー研究』, 第8巻, 2008年, 65-74.
2. 「経営者の裁量行動と継続企業の前提に関する追記の開示」, 『会計プロGRESS』, 第9巻, 2008年, 61-77.

3. その他国内論文

1. 「会計における保守主義の役割と定量化」, 『六甲台論集-経営学編-』, 第51巻, 第2号, 2004年, 57-77.
2. 「ストック・オプションの権利付与と会計上の損失に関する予備的証拠」, 『国民経済雑誌』, 第192巻, 第5号, 2005年, 37-54, (音川和久と共著).
3. 「訴訟リスクと監査人の保守的態度」, 『六甲台論集-経営学編-』, 第53巻, 第1号, 2006年, 23-42.
4. 「財務会計における保守主義の定量化-その有効性の実証研究-」, 神戸大学大学院経営学研究科博士論文, 2007年.
5. 「利益/株価比率を利用した保守主義の定量化」, 『経済経営研究(年報)』, 第56号, 2007年, 1-38.
6. 「継続企業の監査人の判断に関する調査」, 『週刊経営財務』, No.2841, 2007年, 20-27, (柴健次と共著).
7. 「保守主義の定量化とその機能(1)(2)」, 『企業会計』, 第61巻, 第1号, 2009年, 124-125, 第2号, 2009年, 124-125.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

1. Auditor Conservatism and Defensiveness, *Research Institute for Economics & Business Administration*, January 2008.

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. European Accounting Association
3. ディスクロージャー研究学会
4. 日本会計研究学会
5. 日本監査研究学会

【9】 現在の研究活動

1. 監査人の保守性に関する実証分析.
2. 監査人の独立性に関する実証分析.
3. 企業会計における保守主義の定量化と機能に関する実証分析.
4. 会計発生高アノマリーに関する実証分析.

【4】 学会における活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 神戸大学経済経営研究所 兼松フェローシップ入賞(2005年)
2. 日本会計研究学会平成20年度学会賞(2008年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：若手研究(スタートアップ), 「企業会計における保守主義の機能に関する研究」, 2007-2008年.
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「監査サービスの変容が会計情報と資本市場に及ぼす影響の実証分析」, 2009-2011年.

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

54. ^{ひらのきょうへい}平野 恭平

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2008年)

生年 1979年

学歴

2003年3月 北九州市立大学経済学部経営情報学科卒業

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2008年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国書講読(昼間主)

大学院 (一般) 経営史特殊研究

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「合成繊維事業への後発進出をめぐる技術選択と企業家の決断 —1960年代の呉羽紡績のナイロン進出を中心として—」, 『企業家研究』, 第5号, 2008年, 1-22.

2. 「戦後の日本企業の技術選択と技術発展 —東洋紡績の合成繊維への進出を中心として—」, 『経営史学』, 第42巻, 第3号, 2007年, 35-67.

3. その他国内論文

1. 「戦後日本企業の海外進出の変遷—海外従業員数ランキングの検討—」, 『国民経済雑誌』, 第200巻, 第6号, 2009年, 57-98, (藤田順也, 竹内竜介と共著).

2. 「神戸における産業発展の歴史分析—多国籍企業と中小企業の関係性を中心として—」, 『都市政策』, 第131号, 2008年, 101-102, (竹内竜介, 藤田順也と共著).

3. 「戦後の紡績企業の合成繊維への進出と技術選択—アクリル先発企業とナイロン後発企業の事例を中心として—」(博士学位請求論文), 神戸大学大学院経営学研究科提出, 2008年.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 経営史学会
2. 社会経済史学会
3. 産業技術史学会
4. 化学史学会
5. 企業家研究フォーラム
6. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. 幹事: 企業家研究フォーラム(2009年-現在)
2. 部会幹事: 日本経営学会(2009年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 戦間期から高度成長期までの日本企業の技術形成についての研究
2. 合成繊維の誕生が及ぼした日本の繊維産業への影響についての研究
3. 戦前の高等教育機関での技術者教育と産学連携についての研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 東洋紡績株式会社 130年史編纂委員(2008年-現在)

きたがわのりお
55. 北川教央

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)

生年 1980年

学歴

2003年 神戸大学経営学部卒業

2005年 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2008年 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2008年 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学部 外国語講読(昼間主), 情報基礎

大学院 (一般) 財務会計特殊研究(会計情報)

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「組織再編企業の利益調整と株価形成」, 『会計プロGRESS』, 第10号, 2009年, 16-27.

3. その他国内論文

1. 「業績の影響をコントロールした裁量的発生高の有効性に関する検証」, 『国民経済雑誌』, 第199巻, 第2号, 2009年, 53-88, (後藤雅敏と共著).
2. 「利益情報の価値関連性と株主資本コストの関係」, 神戸大学ディスカッション・ペーパー, 第2009・23号, 2009年, (笠井直樹と共著).
3. 「第12章 IAS18号:収益」, 「第36章 IFRS5号:売買目的で保有する非流動性資産と廃止事業項目」, 桜井久勝編著『テキスト国際会計基準(第4版)』, 2009年, (分担執筆).
4. 「インプライド資本コストの研究」, 『日本会計研究学会特別委員会最終報告書』, 2008年, (後藤雅敏との共著).
5. 「第12章 IAS18号:収益」, 「第36章 IFRS5号:売却目的で保有する非流動資産および廃止事業」, 桜井久勝編著『テキスト国際会計基準(第3版)』, 2008年, (分担執筆).
6. 「企業再編における経営者の利益調整行動に関する実証研究」, 神戸大学大学院経営学研究科博士論文, 2008年.
7. 「株式持合と利益の質に関する実証研究」, 『會計』, 第172巻, 第6号, 2007年, 28-40, (音川和久と共著).
8. 「再編企業による利益調整行動と市場の評価」, 『六甲台論集-経営学編-』, 第53巻, 第4号, 2007年, 61-80.
9. 「買入のれんの償却費用に対する証券市場の評価」, 『六甲台論集-経営学編-』, 第52巻, 第4号, 2006年, 67-83.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. ディスクロージャー研究学会
3. 日本会計研究学会
4. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：若手研究(B), 「利益の品質と資本コストおよび負債コストとの実証的関連性」, 2009年度

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 会計利益情報の諸特性が証券市場, および債券市場に及ぼす影響に関する分析
 - ・会計利益の品質と資本コストの関連性
2. 株式所有構造および組織構造が, 会計利益情報の諸特性に及ぼす影響に関する分析
 - ・経営者持株比率と負債コストの関連性
 - ・企業結合と利益の品質の関連性

【10】 社会活動・実務経験

なし

うちだひろふみ
56. 内田浩史

職名 准教授

学位 博士(経済学)(大阪大学)(1999年)

生年 1970年

学歴

1993年3月 大阪大学経済学部経済学科卒業
1995年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了
1996年9月 大阪大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1996年9月 京都大学経済研究所講師(研究機関研
究員)
1997年4月 和歌山大学経済学部助手
1998年4月 和歌山大学経済学部講師
2000年4月 和歌山大学経済学部准教授
2003年8月 米国インディアナ大学ケリースク
ールオブビジネス客員研究員(フルブラ
イト研究員)
2009年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2007-2009年度)

学 部 金融機関, 社会科学のフロンティア
大学院 (一般) ファイナンス特殊研究(金融システム)
大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「金融機関の経営統合とソフトな情報の毀損」, 『経済研究』, vol. 59, 2008年, 153-163, (小倉義明と共著).
2. 「企業の資金調達と融資の二重循環」, 『金融経済研究』(日本金融学会), 第15号, 1998年, 52-66.
3. 「金融取引における金融仲介機関と資本市場—展望—」, 『金融経済研究』(日本金融学会), 第13・14号, 1997年, 32-43.

3. その他国内論文

1. 「リレーションシップバンキングは中小企業金融の万能薬か」, 渡辺努・植杉威一郎編著『検証中小企業金融—「根拠なき通説」の実証分析』, 第4章, 日本経済新聞社, 2008年.
2. 「リレーションシップバンキングの経済学」, 筒井義郎・植村修一編著『リレーションシップバンキングと地域金融』, 第1章, 日本経済新聞社, 2007年.
3. 「金融機関の機能」筒井義郎編著『金融分析の最先端』, 第1章, 東洋経済新報社, 2000年.
(他多数)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. How do Japanese Banks Discipline Small and Medium-Sized Borrowers?: An Investigation of the Deployment of Lending Technologies, *International Finance Review*, vol. 9, 2008, 57-80, (co-authored with G.F. Udell and N. Yamori).
2. Bank Size and Lending Relationships in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol. 22, 2008, 242-267, (co-authored with G.F. Udell and W. Watanabe).
3. *Herd Behavior in the Japanese Loan Market: Evidence from Bank Panel Data*, *Journal of Financial Intermediation*, vol. 16, 2007, 555-583, (co-authored with R. Nakagawa).
4. Optimal Inflation Target under Uncertainty, *Japan and the World Economy*, vol.17, 2005, 470-479, (co-authored with H. Fujiki).

5. Has Competition in the Japanese Banking Sector Improved?, *Journal of Banking and Finance*, vol.29, 2005, 419-439, (co-authored with Y. Tsutsui).
6. Optimal Contracts for Central Bankers and Public Debt Policy, *Japanese Economic Review*, vol.55, 2004, 372-400, (co-authored with H. Fujiki and H. Osano).
7. Deposit Collateral and the Role of Banks, *European Finance Review (Review of Finance)*, vol. 7, 2003, 409-435.

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. 日本ファイナンス学会
4. 行動経済学会
5. American Finance Association
6. American Economic Association
7. Financial Management Association
8. European Finance Association

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(B), 「日本の企業ファイナンスに関する実証分析：リレーショナルシップ型金融の意義と限界」, 2009-2012年度(共同)
2. 村田学術振興財団 研究助成, 2007年度(共同)
3. 大阪銀行協会大銀協フォーラム研究助成, 2007年度(共同), 1998年度
4. 科学研究費補助金：萌芽研究, 「金融政策の企業間信用経路とそのミクロ的基礎」, 2007-2009年度

5. 科学研究費補助金：若手研究(B), 「市場規律アプローチに基づく銀行規制に関する分析」, 2004-2006年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. Foreign Visiting Scholar, Kelley School of Business, Indiana University, U.S, 2007.
2. Foreign Visiting Scholar, Kelley School of Business, Indiana University, 2005.
3. Foreign Visiting Scholar, Kelley School of Business, Indiana University (Fulbright scholar), 2003-2004.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Are Trade Creditors Relationship Lenders?, Financial Management Association (European Conference), IESE Business School, Barcelona, May. 2007, (jointly presented with G.F. Udall and W. Watanabe).

【9】 現在の研究活動

1. 銀行貸出の経済分析：リレーショナルシップバンキングのメリット・デメリット, 金融機関の組織構造, その他貸出の特徴について分析
2. 企業間信用の分析：企業間信用の決定要因, 企業の資金繰り改善のための方策について分析

【10】 社会活動・実務経験

1. 独立行政法人経済産業研究所『金融・産業構造の変化に関する研究会』委員(2006年4月-現在)
2. 独立行政法人経済産業研究所『地域金融研究会』委員(2004年11月-2006年3月)
3. 財務省 財務総合政策研究所『資金循環における市場型間接金融の役割に関する研究会』執筆メンバー(2004年10月-2005年6月)
4. 非常勤講師：和歌山大学経済学部(2009年度), 神戸市外国語大学(1998-2003年度), 大阪大学大学院経済学研究科(2000年度)

まついけんじ
57. 松井建二

職名 准教授

学位 博士(経済学)

生年 1973年

学歴

1996年3月 京都大学経済学部経済学科卒業
1998年3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程
修了
2001年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程
学修満期退学
2004年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程
修了

職歴

2000年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)
2001年4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
2002年4月 横浜国立大学経営学部講師
2003年4月 横浜国立大学経営学部助教授
2007年4月 横浜国立大学経営学部准教授
2009年10月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2009年度)

学 部 市場システム特殊講義(産業組織)
大学院(一般) 市場経済分析特殊研究(産業と戦略)
大学院(MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「我が国の小売店舗密度に関するパネル分析」,
『マーケティング・サイエンス』, No.12, 2003
年, 44-61, (成生達彦と共著).
2. 「社債管理会社不設置債に対する投資リスク」,

『証券アナリストジャーナル』, Vol.38, No.12,
2000年, 79-98.

3. 「普通社債の引受競争と発行利回り」, 『現代フ
ァイナンス』, No.8, 2000年, 55-83.

3. その他国内論文

1. Retailers' Countervailing Power within Marketing
Channels: An Empirical Analysis by National Brand,
『横浜経営研究』, 第30巻, 第1号, 2009年,
151-164.
2. 「社債市場における情報の非対称性と非効率性
について」, 胥鵬編『社債市場の育成と発展: 日
本の経験とアジアの現状』所収, 法政大学出版
局, 2007年, 145-170.
3. 「小売業者のリスク管理と選択的マーケティング
チャンネルの構築」, 『横浜経営研究』, 第26巻,
第2号, 2005年, 179-187.
4. 「社債市場のリスクプレッド—証券業の産業
組織的視点からの分析」, 岡東努・松尾順介編『現
代社債市場分析—新たなるアプローチ』所収,
シグマベイスキャピタル, 2003年, 35-67.
5. 「業種別に見た小売店舗の立地戦略について」,
『横浜経営研究』, 第23巻, 第4号, 2003年,
75-87.
6. 「市場競争下の価格差別と価格調整」, 瀬尾英巳
子・福地崇生編『あいまい環境下のモデリング
と意志決定』, 京都大学学術出版会, 2002年,
114-155, (有賀健, 渡辺誠と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Application of the Auction Theory to the
Overpricing Phenomenon in a Corporate Bond
Underwriting Market, *Applied Financial
Economics Letters*, Vol.4, No.6, 2008, 457-460.
2. Revenue Management of Small Securities Houses:
Evidence from Japanese Panel Data, *International
Journal of Revenue Management*, Vol.2, No.4,
2008, 361-375, (co-authored with Junsuke Matsuo).
3. Overpricing of New Issues in the Japanese Straight
Bond Market, *Applied Financial Economics Letters*,

Vol.2, No.5, 2006, 323-327.

4. Marketing Channels and Retail Store Density in East Asia, *Asian Economic Journal*, Vol.19, No.4, 2005, 407-422, (co-authored with Shuanghong Lu, Tatsuhiko Nariu, Tadashi Yukimoto).
5. Retail Store Density in Japan, *Japanese Economy*, Vol. 32, No.3, 2004, 49-75, (co-authored with Tadashi Yukimoto).

3. その他海外論文

1. Effects of Consumers' Shopping Ability on Location Strategy for Retailers Classified by Business Category, *AMA Summer Educators' Conference Proceedings*, Vol.17, 2006, 183-190.
2. Mismeasurement of the CPI, Magnus Blomstrom, Jennifer Corbett, Fumio Hayashi and Anil Kashyap (Eds.), "Structural Impediments to Growth in Japan", *The University of Chicago Press*, 2003, 89-128, (co-authored with Kenn Ariga).
3. Hot and Spicy: Ups and Downs on the Price Floor and Ceiling at Japanese Supermarkets, *Pacific Economic Papers*, No.16, 2001, 1-48, (co-authored with Kenn Ariga).

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本商業学会
3. 日本金融学会
4. 証券経済学会
5. 日本マーケティング・サイエンス学会

【4】 学会における活動

1. Editorial Board: International Journal of Revenue Management(2008年-現在)
2. レフェリー: Marketing Science, European Journal of Operational Research, Applied Economics, Applied Financial Economics, Tourism and Hospitality: Policy & Development, 流通研究

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費:若手研究(B),「金融業の産業組織を考慮した効率的な証券市場システムの整備」, 2006-2009年
2. 文部科学省科学研究費:若手研究(B),「社債市場構造と企業組織の連関についての研究」, 2003-2006年
3. 石井記念証券研究振興財団,「証券営業における日米の生産性比較」, 2002-2003年
4. 学術振興野村基金,「国内社債市場の経済理論・計量経済学に基づく研究」, 2002-2003年
5. 文部科学省科学研究費:特別研究員奨励費,「不均衡労働市場のミクロ的基礎と時間・空間的調整メカニズム」, 2000-2002年

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. "Strategic Transfer Pricing and Social Welfare under Product Differentiation", 2009 American Accounting Association Annual Meeting, August 2009, New York, USA.
2. "Measuring Retailer Bargaining Power over Wholesalers: An Inter-brand Analysis", 2008 American Marketing Association Summer Educators' Conference, August 2008, San Diego, USA.
3. "Accounting Year-end Dispersion and Seasonality in the Japanese Corporate Bond Market", 2008 American Accounting Association Annual Meeting, August 2008, Anaheim, USA.
4. "Accounting-year-end Variation and Seasonality in the Japanese Corporate Bond Market", 31st Annual Congress, European Accounting Association, April 2008, Rotterdam, Netherlands.

(その他5件)

【9】 現在の研究活動

1. マネジリアル・エコノミクス

【10】 社会活動・実務経験

1. 兼任研究員:法政大学比較経済研究所(2005年度)

はだよしはる
58. 波田芳治

職名 講師(社会人・留学生担当教員)

学位 工学修士(名古屋工業大学)(1975年)

生年 1949年

学歴

1973年3月 名古屋工業大学工学部卒業
1975年3月 名古屋工業大学大学院工学研究科修士
課程修了

職歴

1975年4月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業部長府北
工場技術課
1980年2月 株式会社神戸製鋼所特殊合金本部長府
北工場品質保証課
1981年1月 株式会社神戸製鋼所特殊合金本部技術
部
1983年8月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼生産本部鋼管
技術部
1987年1月 株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板
開発部薄板開発室主任研究員
1989年4月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部生産
本部加古川製鉄所鋼板開発部薄板開発
室主任研究員
1992年6月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部生産
本部加古川製鉄所技術部冷延・表面処
理鋼板技術室主任部員
1994年1月 株式会社神戸製鋼所人事部付 (KOBE
STEEL USA INC.DETROIT OFFICE)
1995年10月 株式会社神戸製鋼所人事労政部付
(KOBE STEEL USA INC.DETROIT
OFFICE)
1998年4月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部加古
川製鉄所薄板部薄板技術管理室主任部
員
1998年10月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部生産
技術部主任部員
1999年4月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼カンパニー生
産本部生産技術部主任部員
2000年6月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼部門生産本部
生産技術部主任部員

2000年6月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼部門デュッセ
ルドルフ事務所長

2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科講師

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国書講読(昼間主)
外国書講読(taught in English), 企業と経営
大学院 (一般) 日米欧産業経営特殊研究
大学院 (MBA) イギリス産業事情特殊研究・日本産
業事情特殊研究, 日英産業事情応用
研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 神戸大学経済経営学会

2. 日本鉄鋼協会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

1. Global Business Case Competition 2006 への参加
(於：米国シアトルのワシントン大)
2. Global Social Entrepreneurship Competition 2009
への参加(於：米国シアトルのワシントン
大)(2009年2月)
3. 英国クランフィールド大との研究交流(2009年
1月)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 日米欧の製造業における企業統治の形態比較と
課題の整理
2. 研究開発投資に対する経営資源管理の研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本鉄鋼協会の各種委員(1998-2000年)
2. デュッセルドルフの日本商工会議所理事及び日
本クラブ運営委員(2000-2002年)
3. OECDの下部委員会委員(2000-2002年)
4. IISIのULSABプロジェクト委員(1995-1998年)
5. 「欧州鉄鋼業の動きと日本への影響, 欧州鉄鋼
需要産業の動き」, (社内誌)

59. ^{なかいまさとし}中井正敏

職名 講師(社会人・留学生担当教員)

学位 学士(経済学)(一橋大学)

生年 1955年

学歴

1978年 一橋大学経済学部卒業

職歴

1978年 (株)東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行
丸の内支店, 国際投資部, 資本市場部等を経て

1987年 同行ロンドン支店

1990年 スイス東京銀行

1993年 営業本部, 法人部

1998年 マレーシア東京三菱銀行

2003年 (財)国際通貨研究所出向 開発経済調査部
主任研究員

2004年 (株)東京三菱銀行与信監査室

2006年 (株)三菱東京UFJ銀行(合併により)

2009年4月 神戸大学大学院経営学研究科講師

担当科目(2007-2009年度)

学 部 外国語講読(昼間主), 企業と経営

大学院 (一般) 日米欧産業経営特殊研究

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

なし

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. FTAにおける金融の自由化と資本規制

【10】 社会活動・実務経験

1. (株)東京銀行, (株)三菱東京銀行, (株)三菱東京UFJ銀行勤務(1978年4月-2009年3月)。国際投融资, 外国為替等, 主として国際部門に従事。ロンドン支店支店長代理, スイス東京銀行為替資金課長, マレーシア東京三菱銀行市場部門総括責任者, 同執行副頭取として海外駐在。
2. 同行在籍中に(財)国際通貨研究所出向(2003年1月-2004年4月)。開発経済調査部次長兼主任研究員。財務省委嘱調査「東アジアの決済システム」を共同執筆。外部委嘱調査「FTAによる金融の自由化と資本規制に関する調査」を共同執筆(主査)。
3. その他, 「アジア通貨危機とマレーシア」(国際金融 2004年6月1日号(財)外国為替貿易研究会発刊)を執筆。